

CA Configuration Automation®

実装ガイド

r12.8



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により隨時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または(ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA® Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA Spectrum® Automation Manager
- CA® SiteMinder® Web Access Manager (CA SiteMinder)

CAへの連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: 概要	9
主要な機能.....	10
主要なテクノロジ.....	12
CA Configuration Automation サーバ.....	12
CA Configuration Automation データベース	13
CCA Agent	13
CCA グリッド ノード	14
CA ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイ	14
CA EEM.....	15
Business Objects	15
インストールの前提条件.....	15
第 2 章: <CA Business Intelligence> のインストールに関する注意事項	19
第 3 章: ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイのインストール	23
CA Network Discovery Gateway のインストール.....	23
ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイを手動または自動的にインストールする	25
第 4 章: CA Configuration Automation サーバ のインストール	29
インストールのガイドラインおよび注記	29
推奨されるインストールディレクトリの使用	30
複数サーバインストールにおける一意のポート番号の使用	30
ネットワークマウント ドライブへのインストール	30
Windows への CA Configuration Automation サーバ のインストール.....	31
Solaris または Linux への CA Configuration Automation サーバ のインストール	39
コンソールを使用したインストール.....	40
ウィザードを使用したインストール.....	48
コマンドラインインターフェースによるインストール	55
CA Configuration Automation サーバ またはグリッドノードのサイレントインストール	56
CA Configuration Automation サーバ またはグリッドノードのインストールおよび installer.properties ファイルの作成	57
CA Configuration Automation サーバ またはグリッドノードのサイレントインストールでの installer.properties の使用	59

インストール ログ ファイル	60
CA Configuration Automation サーバのログ ファイル	61
CCA エージェントのログ ファイル.....	61
第 5 章: CCA エージェントのインストール	63
インストールのガイドラインおよび注記	64
推奨されるインストール ディレクトリ	64
UNIX ベースのエージェントのインストールと実行は root で行う	64
Windows への CCA エージェントのインストール.....	65
Linux または UNIX への CCA エージェントのインストール.....	69
コンソール モードを使用したインストール	70
ウィザードを使用したインストール	75
エージェントのサイレント インストール	80
CCA エージェントの構成 ファイル.....	86
サンプル agent.conf ファイル.....	88
第 6 章: コマンドライン インターフェースによるインストール	89
第 7 章: CCA グリッド ノードのインストール	91
グリッド ノードの概要	91
Windows へのグリッド サーバのインストール	92
Linux または UNIX への CCA グリッド サーバのインストール.....	96
第 8 章: CA Configuration Automation ソフトウェアのアップグレード	101
アップグレードの概要	102
Windows での CCA サーバのアップグレード.....	106
ウィザードを使用するアップグレード	107
Windows で CCA エージェントをアップグレード.....	112
ウィザードを使用するアップグレード	112
Linux または UNIX での CCA サーバのアップグレード	116
コンソール モードを使用するアップグレード	116
ウィザードを使用するアップグレード	122
Linux または UNIX での CCA エージェントのアップグレード	127
コンソール モードを使用するアップグレード	128
ウィザードを使用するアップグレード	133
Windows での CCA グリッド ノードのアップグレード	138
Linux または UNIX での CCA グリッド ノードのアップグレード.....	140

コンソール モードを使用するアップグレード	140
ウィザードを使用するアップグレード	143
第 9 章: インストールのトラブルシューティング	147
インストーラをリモートで実行	148
インストール用にサポートされたパス名を使用	149
CA Configuration Automation サーバのインストールの確認	149
CA Configuration Automation サーバへのログイン	150
CA Configuration Automation サーバインストールログファイル	150
より多くのメッセージを参照するために、ログ構成ファイルを編集	151
データベースのプロパティを編集	153
一般的なデータベース接続の問題を解決	156
データのロードに関する問題 : SQL Server の例外	157
CCA エージェントインストールの確認	157
CCA エージェントのインストール ログファイル	157
CCA エージェントの構成ファイル	158
CA Configuration Automation サーバの停止および起動	158
CA Configuration Automation エージェントの停止および開始	160
第 10 章: CA Configuration Automation のアンインストール	163
アンインストールの概要	163
Windows から CA Configuration Automation サーバをアンインストール	165
Windows での CA Configuration Automation エージェントのアンインストール	166
Solaris または Linux での CA Configuration Automation サーバのアンインストール	167
Linux または UNIX での CA Configuration Automation エージェントのアンインストール	168
ネットワークディスカバリ ゲートウェイのアンインストール	170
付録 A: Windows オペレーティング システム用の WMI アクセス	171

第 1 章: 概要

CA Configuration Automation は、企業内の分散したハードウェアおよびソフトウェアサービスを一元化されたブラウザベースのウィンドウから管理するための、標準ベースの製品スイートです。

CA Configuration Automation のインストールメディアを使用して、以下の一連の製品をインストールできます。

- CA Embedded Entitlements Manager
- CA Business Intelligence
- CA Network Discovery Gateway
- CCA サーバ
- CCA エージェント
- CCA グリッドノード
- CA Catalyst サーバ
- CA Catalyst コンテナ
- CA Catalyst CCA コネクタ

注: CA Business Intelligence を介して CA Configuration Automation と CA CMDB を統合するために、CA Configuration Automation DVD に CA CMDB Integration インストーラが用意されています。

この章では、CA Configuration Automation によって提供される機能の概要、およびこの製品を構成するコンポーネントについて説明します。この章には以下のセクションがあります。

- [主要な機能 \(P. 10\)](#)
- [主要なテクノロジ \(P. 12\)](#)

主要な機能

CA Configuration Automation は、変更、構成、およびコンプライアンスを管理するためのアプリケーションレベルのベストプラクティスプラットフォームを提供します。企業内のコンポーネントを、ネットワーク レベル、サーバ レベル、サービス レベル、およびソフトウェア レベルで検出し管理できます。CA Configuration Automation では、以下の主要な操作を実行できます。

ディスカバリ

CA Configuration Automation は、サーバ上およびネットワーク上に存在するソフトウェア コンポーネントの包括的で最新のインベントリを確立することによって企業アプリケーションの管理を開始します。迅速にコンポーネントを検出し、クロスプラットフォームの完全なアプリケーションのインベントリを取得できます。ディレクトリ、ファイル、レジストリ、データベース テーブル、構成パラメータなどの詳細レベルによる検出が可能です。

コンポーネント ブループリントは、アプリケーションベースのディスカバリの基盤です。アプリケーションの基本構造の概要を示し、CA Configuration Automation エージェントによるサーバ上のアプリケーションの検索を可能にします。CA Configuration Automation には、一般的に使用されるアプリケーション用のブループリントが事前定義されています。また、検出対象となるソフトウェアのブループリントをユーザが作成することもできます。

モニタ

CA Configuration Automation は、スナップショットを使用して企業内を監視することにより、コンポーネントまたはサーバの変更を検出できます。詳細スナップショットに構成データをアーカイブするために、アプリケーションインベントリを自動的に再取得することができます。スナップショットは、トラブルシューティング、レコードの保持、リリース管理、移行計画などの目的で使用します。

また、スナップショットを「ゴールド基準」として指定し、アプリケーションの状態を監査および変更検出のベースラインとして使用できます。

変更の検出

CA Configuration Automation の包括的な変更検出機能によって、時間の経過に伴うアプリケーションの状態の比較、および別のサーバ上の同類アプリケーションとの比較を行うことが可能になります。システム設定変更に関する詳細なナレッジにより、以下の利点が提供されます。

- データセンター間での整合性を確立する
- 構成変更に起因する操作上の問題を特定する
- 開発から稼働前、実稼働、サービスサポートへのライフサイクルの移行を合理化する

CA Configuration Automation の比較およびモニタリング機能を使用すると、時間の経過に伴う企業の概要を示し、ネットワーク、サーバ、またはアプリケーション内の任意の時点で何が変更されたかを調査できます。

ルールコンプライアンス

CA Configuration Automation によって収集される詳細情報を使用し、ルールコンプライアンスをチェックすることによって、複雑なアプリケーションが内部および法規制上のコンプライアンスを満たしていることを確認できます。CA Configuration Automation の柔軟で詳細なポリシー定義、および事前定義されたルールやユーザ定義ルールの自動適用は、アプリケーションの管理やベストプラクティスの確立に役立ちます。企業のパフォーマンス構成、セキュリティの設定、および従属する変更要素の監査によって、アプリケーションインフラストラクチャはより強固になり、組織はエラーの発生しやすい手動での確認から解放されます。

レポート

CA Configuration Automation では、正式なアプリケーションインフラストラクチャ レポートのスケジュールを設定できます。変更やポリシー違反を知らせる電子メール通知がオンデマンドで送信されます。重要な意思決定を行うために必要な適切な人が確実に入手できるようにするため、提供されたレポートテンプレートをカスタマイズして基準を選択できます。

主要なテクノロジ

CA Configuration Automation には、以下の主要なコンポーネントが含まれています。

- CA Configuration Automation サーバ
- CA Configuration Automation データベース
- CA Configuration Automation エージェント
- CCA グリッド ノード
- CA ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイ (NDG) サーバ
- CA EEM
- <CA Business Intelligence> のレポート機能

以下のセクションでは、これらのテクノロジについて説明します。

CA Configuration Automation サーバ

CA Configuration Automation サーバは、セントラル レジストリとして機能するブラウザベースのユーザインターフェースを提供します。これにより、永続ストレージの管理、データアクセスの管理、および CA Configuration Automation エージェントとの通信の管理を行います。

CA Configuration Automation サーバは CA Configuration Automation の中心となる機能であり、ディスカバリ、構成、調整、分析の諸機能など、この製品の運用におけるすべての面を管理します。

ユーザインターフェースにアクセスするために追加のクライアントソフトウェアをインストールする必要はありません。CA Configuration Automation には、サポートされたブラウザを備えた任意の Windows サーバからアクセス可能です。

企業内に複数の CA Configuration Automation サーバをインストールできます。たとえば、主要なビジネス機能（開発、QA、製造など）へのサービス提供、または主要な地理的な場所（ニューヨーク、シカゴ、サンフランシスコなど）へのサービス提供のため、複数の異なる CA Configuration Automation サーバをセットアップしたほうがいい場合があります。

CA Configuration Automation データベース

CA Configuration Automation データベースには、収集された CA Configuration Automation のデータおよび構成情報がすべて格納されます。格納される情報には次のものがあります。

- サーバ構成（ハードウェア、ソフトウェア、システム情報）
- サービスの構成、ブループリント、プロファイル、およびコンポーネント
- ネットワーク設定、プロファイル、スキャンポリシー、アクセス認証情報
- サーバおよびサービス スナップショット
- コンプライアンスルール グループ
- ジョブ、およびジョブ スケジューラの情報

CA Configuration Automation サーバの各インスタンスには、対応するデータベースインスタンスが必要です。複数の CA Configuration Automation サーバで同一のデータベース サーバ上の同一のデータベースを共有することができます。ただし各サーバは、データベースインスタンス内にデータを格納するための独自のテーブルスペースおよびテーブルのセットを持っている必要があります。

CCA Agent

CA Configuration Automation エージェントは軽量の実行可能ファイルであり、サーバに向けられる操作を検査し、それを企業内の CA Configuration Automation によって管理されるサーバ上で実行されるブループリントベースのコンポーネントに実装します。CCA エージェントは、サーバとソフトウェアの両方の構成に関して詳細な構成管理を実行できます。

CA Configuration Automation エージェントは、UNIX ベースのサーバ上にデーモンとして、または Windows ベースのサーバ上にサービスとしてインストールされます。

CA Configuration Automation でサーバおよびサービスを詳しく管理するには、CA Configuration Automation エージェントを企業内のすべての管理対象サーバにインストールする必要があります。また、CA Configuration Automation サーバのコンポーネントを検出し管理するため、すべての CA Configuration Automation サーバマシンに対して CA Configuration Automation エージェントをインストールすることを強く推奨します。

注: CA Configuration Automation は、対象のシステムに関して、SSH、Telnet、および WMI を使用したエージェントの不要な安全な問い合わせおよび監視機能を提供します。このオプションは、エージェントのインストールが現実的でない場合、または対象のプラットフォームで CA Configuration Automation エージェントがサポートされていない場合に有効な選択肢となることがあります。

[CCA グリッド ノード](#)

グリッド処理は、複数のグリッドノードに処理の負荷を分散させてパフォーマンスを向上させるために使用されます。1台のサーバで複数のスレッドを使用して、複数の CCA グリッドノードをサポートすることができます。CA Configuration Automation の処理はグリッドに対応しており、処理を独立した実行可能エンティティに分割することができます。これらの実行可能エンティティは、グリッドサーバ、グリッドノード、およびスレッドに分散して実行されます。

CCA グリッドノードは Linux、UNIX および Windows のプラットフォームでサポートされており、各プラットフォーム専用のインストールプログラムがあります。CCA グリッドノードをインストールし、CA Configuration Automation サーバにそれを登録した後は、CA Configuration Automation ユーザにとってグリッド処理は不可視になります。

[CA ネットワークディスカバリゲートウェイ](#)

NDG サーバは、企業内のサーバおよびサービスの場所を特定し監視する CA Configuration Automation のディスカバリ処理を行います。CA Configuration Automation サーバをインストールする前に、サポートされている Windows プラットフォームに NDG サーバをインストールする必要があります。CA Configuration Automation インストールプログラムによって、NDG サーバの名前、およびディスカバリ処理に使用するポートの入力が求められます。

CA EEM

CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM) は、CA Configuration Automation ユーザインターフェースに対してユーザやグループの管理およびロールベースの認証サービスを提供します。

Business Objects

Business Objects は CA Configuration Automation に付属するサードパーティ製のビジネスインテリジェンスプラットフォームであり、対話型のレポート機能を提供します。事前定義済みの CA Configuration Automation レポートが Business Objects サーバ上でホストされます。

インストールの前提条件

CA Configuration Automation をインストールする前に、以下の項目を確認してください。

- ソフトウェアをインストールしようとしているコンピュータのオペレーティングシステムに関して実用的な知識を有している必要があります。
- CA Configuration Automation データベースで使用するデータベースソフトウェアの知識および管理上のサポートが必要です。
- システムがリリースノートに記載されている要件を満たしていることを確認します。リリースノートには、ハードウェアの要件、オペレーティングシステムのサポート、データベースの要件、CA ソフトウェアのサポート、および Web ブラウザのサポートなどの情報が記載されています。
- CA Configuration Automation のインストールおよび使用に関する既知の問題や一般的な考慮事項が記載された *Readme* ファイルを読みます。*Readme* ファイルは、Windows の場合は CA Configuration Automation サーバインストール ウィザードの最初のページにリンクがあります。Linux および UNIX の場合はインストールメディアのルートディレクトリに置かれています。
- 「[ネットワークディスカバリ ゲートウェイのインストール \(P. 23\)](#)」の説明に従って NDG サーバをインストールします。

- インストールまたはアップグレードを実行するユーザに以下のデータベース ユーザ権限があることを確認します。

Microsoft SQL Server ユーザ権限

- 最小インストール権限 : dbcreator
- 最小ユーザ権限 : db_owner

Oracle ユーザ権限

ユーザには、表領域に対して領域が割り当てられている必要があります。ユーザに RESOURCE ロールが割り当てられている場合、そのユーザには unlimited tablespace 権限が付与されます。ユーザに RESOURCE ロールが割り当てられていない場合は、以下のように alter コマンドを使用して、領域を割り当てる必要があります。

```
alter user cca quota unlimited on CCADATA;  
alter user cca quota unlimited on CCAINDEX;
```

以下の権限が必要です。

- CREATE PROCEDURE
- CREATE SEQUENCE
- CREATE SESSION
- CREATE TABLE
- CREATE TRIGGER
- CREATE VIEW

- 企業内で **<CA Business Intelligence>** をまだインストールしていない場合は、**CA Configuration Automation** をインストールする前に **<CA Business Intelligence>** をインストールする必要があります。インストール ウィザードの最初の画面には、これを実行するためのオプションが用意されています。環境内に **NDG** サーバがすでにインストールされている場合は、**CA Configuration Automation** サーバのインストールにおいてそのサーバを使用するように構成できます。

レポートサーバのインストールにおける考慮事項については、「[<CA Business Intelligence> のインストールに関する注意事項 \(P. 19\)](#)」を参照してください。

- 企業内で **CA EEM** をまだインストールしていない場合は、**CA Configuration Automation** をインストールする前に **CA EEM** をインストールする必要があります。インストール ウィザードの最初の画面には、これを実行するためのオプションが用意されています。環境内に **CA EEM** がすでにインストールされている場合は、**CA Configuration Automation** サーバのインストールにおいてそのサーバを使用するように構成できます。

インストールにおける考慮事項およびインストール手順については、**CA EEM** 製品のドキュメントを参照してください。

第 2 章: <CA Business Intelligence> のインストールに関する注意事項

CA Configuration Automation をインストールする前に、CA Configuration Automation のレポート機能を提供する <CA Business Intelligence> Enterprise ソフトウェアをインストールする必要があります。<CA Business Intelligence> のインストール時には、以下の点について考慮してください。

- <CA Business Intelligence> をインストールするには、CA Configuration Automation インストールプログラムを使用します。ウィザードの最初の画面には、必要なすべてのコンポーネントをインストールするためのリンクが用意されています。基本的な手順については、CA Configuration Automation のメディアの `dvd2¥BOXI¥Docs` にある <CA Business Intelligence> のドキュメントを参照してください。
 - <CA Business Intelligence> は、通常は以下の構成でインストールされます。
 - <CA Business Intelligence> Central Management Server のデータベースとして使用する MySQL
 - アプリケーションサーバとして Apache Tomcat
- 上級ユーザ向けにカスタムインストールが用意されています。カスタムインストールでは、Microsoft SQL データベースなどの既存のデータベースを使用するように、または IIS などの既存のアプリケーションサーバを使用するように <CA Business Intelligence> Enterprise レポートティングソフトウェアを構成できます。これらのカスタム構成を使用する場合は、「<CA Business Intelligence> インストールガイド」を参照してください。
- インストール時にサーバインテリジェンスエージェントの画面で [ノード名] フィールドに SIA ノードを識別するための一意の名前を入力するように求められたら、空白文字、ハイフンなどの英数字以外の文字は使用しないでください。デフォルトではノード名はシステムホスト名と同じですが、ホスト名に空白文字、ハイフンなどの英数字以外の文字が含まれている場合は、エージェント用に別の名前を入力してください。
 - マップされたドライブから <CA Business Intelligence> をインストールする際に問題が発生する場合があります。こうした潜在的な問題を回避するため、ローカルドライブから <CA Business Intelligence> をインストールしてください。
 - <CA Business Intelligence> を完全に空のドライブにインストールする場合、ディスク容量の要件の確認のメッセージが表示されることがあります。このエラーを解決するには、ドライブに何らかのファイルを置いてください。

- インストール時に致命的なエラーを示すウィンドウが断続的に表示される場合があります。この場合、ウィンドウで [OK] をクリックすると、インストールは正常に完了します。

第3章: ネットワークディスカバリゲートウェイのインストール

NDG サーバがサポートされているのは Windows プラットフォームのみです。NDG サーバは CA Configuration Automation インストール ウィザードからインストールでき、これは CA Configuration Automation のインストールの前提条件です。CA Configuration Automation インストール プログラムによって、NDG サーバの場所およびポート番号の入力が求められます。

サポート対象の Windows プラットフォームであれば、CA Configuration Automation サーバと同じホストに NDG サーバをインストールできます。

注: NDG の要件として、ユーザが <http://www.winpcap.org/> から WinPcap 4.0.2 をダウンロードしてインストールすることができます。このインストールは、NDG インストールの開始前に実行できるほか、NDG インストール ウィザードがホスト コンピュータ上に WinPcap を見つけられない場合はダウンロードを求めるプロンプトが表示されるため、そこで実行することもできます。

CA Network Discovery Gateway のインストール

次の手順に従ってください:

1. CA Configuration Automation インストール メディアの DVD1 にある setup.exe をダブルクリックします。
2. [セットアップ] ウィンドウで、CA Network Discovery Gateway インストール ウィザード リンクをクリックします。
以下のいずれかの画面が表示されます。
 - [前提条件] 画面に、必要な WinPcap 4.0.2 プログラムがホストにインストールされていないことが示されます。[今すぐインストール] をクリックして WinPcap をインストールします。
 - 最初の ウィザード ページが表示されます。
3. [次へ] をクリックします。
4. [使用許諾契約] ページで、契約をスクロールして確認し、[使用許諾契約の条項に同意する] をクリックして [次へ] をクリックします。

5. [インストール場所] ページで、デフォルトの場所 (C:\Program Files\CA\SharedComponents\NDG) をそのまま使用するか別の場所を参照し、[次へ] をクリックします。
6. [Windows サービス設定] ページ上で、以下のいずれかのオプションをクリックして、CA Network Discovery Gateway サービス (candgateway.exe) が Windows Softagent ディスカバリ中に Windows Management Instrumentation (WMI) サービスで Windows サーバにアクセスするために使用する認証情報を指定します。

ローカルシステム アカウント

Windows Softagent ディスカバリ用に現在のホストシステム上で発行された認証情報を使用します。

インストールプログラムは、[デスクトップとの対話をサービスに許可] オプションを使用しません。

このアカウント

NDG がドメインの Windows Server 2008 および Vista コンピュータを検出する必要がある場合は、Windows ドメインユーザアカウントおよび対応するパスワードを指定します。これらの Windows オペレーティングシステムに含まれる WMI サービスでは、管理ドメインユーザが接続を適切に確立する必要があります。

注: [このアカウント] フィールドに指定するユーザアカウントの情報については、「[Windows オペレーティングシステム用の WMI アクセス \(P. 171\)](#)」の「リモートホストへの NDG リモートアクセスibilitiy」テーブルを参照してください。これらのテーブルには、Windows 環境での、WMI を使用するリモートホストマシンへの NDG アクセスに関する情報が含まれています。

7. [ネットワークディスカバリエージェントポート] ページで、デフォルトポート (8081) をそのまま使用するか、適切なポート番号を入力して [次へ] をクリックします。
8. インストールサマリページで、サマリ詳細を確認します。
9. (オプション) 他のウィザードページに戻って更新する場合は [前へ] をクリックします。

10. [インストール] をクリックします。

インストール処理が開始されます。完了したら、インストール完了ページでインストールが成功したことを確認します。

11. [完了] をクリックします。

インストールウィザードを閉じます。[セットアップ] ウィンドウが再度表示されます。CA Configuration Automation サーバを Linux または UNIX オペレーティングシステムにインストールしている場合を除き、[セットアップ] ウィンドウから他の必要なコンポーネントもインストールできます。

ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイを手動または自動的にインストールする

Windows のコマンド ウィンドウから CA NDG (ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイ) を自動的にインストールできます。自動的なインストールでは、`install.properties` と呼ばれる応答ファイルを作成するために、まずレコードモードで NDG インストールプログラムを対話形式で実行する必要があります。このファイルには、インストールプログラム プロンプトにユーザの応答が保存され、その後に続くインストール中に、インストールプログラムに情報が提供されます。

コマンド ラインから NDG をインストールして `install.properties` ファイルを作成する方法

1. <http://www.winpcap.org/> から WinPcap をダウンロードおよびインストールします。
2. コマンド ウィンドウを開きます。
3. コマンド ウィンドウを開き、インストール メディアの以下の場所に移動します。

`dvd1\NDG`

4. 以下のコマンドを使用してインストールプログラムを開始します。

```
installNdg.exe -r c:<ファイルへのパス>\install.properties
```

指定されたディレクトリに `installer.properties` ファイルが作成され、インストールプログラムが開始し、[はじめに] ページ（必要なソフトウェアが検出されない場合は [見つからない前提条件コンポーネント:] ページ）が表示されます。

5. インストールプログラムプロンプトに応答します。

入力したデータを使用して NDG がインストールされます。このデータも、今後使用できるように `install.properties` ファイルに記録されます。

`install.properties` ファイルを使用して NDG を自動的にインストールする方法

1. <http://www.winpcap.org/> から WinPcap をダウンロードおよびインストールします。
2. 以下のコマンドを使用してインストールプログラムを開始します。

```
installNdg.exe -i silent -f c:<ファイルへのパス>\install.properties
```

インストールプログラムが開始し、その後指定されたディレクトリ内で `install.properties` ファイルを検索します。ファイルが見つかると、インストールプログラムに必要な値が提供されます。

注:

- CA ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイがインストールされているかどうかを確認するには、以下のレジストリ エントリをクエリします。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\CA  
Network Discovery Gateway]"UninstallString"="C:\Program  
Files\CA\SharedComponents\Network Discovery Gateway\Uninstall\Uninstall  
CA Network Discovery Gateway.exe""
```

キーが見つかった場合、CA ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイはインストールされています。

- コマンドラインの自動的なアンインストールは、上記の箇条書きの UninstallString レジストリ エントリで定義されています。
デフォルトでは、このエントリでは、インストールプログラムが使用したモードと同じモードで実行されます（つまり、インストールが自動で実行された場合、アンインストールも自動です）。
- プログラムが確実に自動的にアンインストールされるようにするには、レジストリから読み取られた文字列に、-i silent パラメータを追加します。例：

"C:\Program Files\CA\SharedComponents\Network Discovery
Gateway\Uninstall\Uninstall CA Network Discovery Gateway.exe" -i silent

第 4 章: CA Configuration Automation サーバのインストール

この章では、サポートされているすべてのプラットフォームに CA Configuration Automation サーバソフトウェアをインストールする方法について説明します。この章には以下のセクションがあります。

- [インストールのガイドラインおよび注記 \(P. 29\)](#)
- [Windows への CA Configuration Automation サーバのインストール \(P. 31\)](#)
- [Solaris または Linux への CA Configuration Automation サーバのインストール \(P. 39\)](#)
- [CA Configuration Automation サーバのサイレントインストール \(P. 56\)](#)
- [インストールログファイル \(P. 60\)](#)

注: インストールの前にリリースノートを読んで、CA Configuration Automation サーバのインストールにおけるリリース固有の情報、システム要件、およびサポートされる環境について確認してください。

インストール中に問題が発生する場合は、「[インストールのトラブルシューティング \(P. 147\)](#)」を参照してください。

インストールのガイドラインおよび注記

このセクションには、CA Configuration Automation サーバソフトウェアをインストールする前に知っておくべき一般的なガイドラインおよび注記が記載されています。

推奨されるインストール ディレクトリの使用

CA Configuration Automation ソフトウェアは、デフォルトのターゲットインストールディレクトリにインストールすることを推奨します。推奨されるデフォルト以外のディレクトリにソフトウェアをインストールする場合は、少なくとも CA Configuration Automation サーバおよび CA Configuration Automation エージェントを別のサブディレクトリにインストールしてください。

また、UNIX プラットフォームに CA Configuration Automation ソフトウェアをインストールする場合は、標準的なディレクトリ命名規則に従ってください（たとえば空白文字や特殊文字を使用しないでください）。

複数サーバインストールにおける一意のポート番号の使用

同一のサーバ上で複数の CA Configuration Automation サーバを実行することを計画している場合は、それぞれのインストールにおいて CA Configuration Automation ポート番号および AJP ポート番号を一意に構成する必要があります。

ネットワークマウントドライブへのインストール

セキュリティ上の理由によって、Windows サービスはネットワークマウントドライブへのアクセス権を持っていません。CA Configuration Automation サーバは Windows サービスとしてインストールされます。したがって、ネットワークマウントドライブへのインストールはサポートされません。

Windows への CA Configuration Automation サーバ のインストール

インストール ウィザードを使用して、CA Configuration Automation サーバ ソフトウェアをサポート対象の Microsoft Windows オペレーティング システムにインストールすることができます。

注: Administrator ユーザ、または管理者権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

次の手順に従ってください:

1. CA Configuration Automation インストール メディアの `dvd1` フォルダにある `setup.exe` をダブルクリックします。
CA CCA セットアップのウィンドウが表示されます。
2. [CA Configuration Automation サーバインストール ウィザードを実行] リンクをクリックします。
初期ページが表示されます。
3. [次へ] をクリックします。
4. [使用許諾契約] ページで、使用許諾契約を確認し、[使用許諾契約の条項に同意する] を選択して [次へ] をクリックします。

5. [サーバタイプ] ページで以下のいずれかのオプションを選択し、[次へ] をクリックします。

標準サーバ

単一の CA Configuration Automation サーバインスタンスをインストールする場合に指定します。

テナントマスタ

マスタ CA Configuration Automation サーバインスタンスをインストールする場合に指定します。マスタインスタンスは、マスタテナントや他のテナント上のデータに対するアクセスや管理ができない複数のテナントインスタンスをホストできます。

テナント

CA Configuration Automation のテナントインスタンスをインストールする場合に指定します。各テナントは、マスタ CA Configuration Automation サーバにアクセスします。Tenant を選択した場合は、以下のフィールドに入力します。

テナント名

テナント組織名を定義します。

マスタサーバ名

指定されたテナントが接続するマスタ CA Configuration Automation サーバインスタンスの名前を定義します。

マスタポート番号

マスタの CA Configuration Automation サーバインスタンスのリスニングポートを定義します。

デフォルト : 8080

マスタユーザ

マスタ CA Configuration Automation サーバインスタンス上の管理者のユーザ名を定義します。

デフォルト : ccaadmin

マスタユーザパスワード

指定したマスタユーザに関連付けられるパスワードを定義します。

6. [インストーラ フォルダの選択] ページで以下のいずれかのアクションを実行します。

- (推奨) [次へ] をクリックしてデフォルトのインストール場所を選択します。
- 別のインストール場所を入力します。指定したフォルダが存在しない場合は、インストール ウィザードによってそのフォルダが作成されます。
- [選択] をクリックし、CA Configuration Automation サーバインストール場所を選択します。

デフォルト以外のインストール場所を指定する場合は、場所にはドライブ文字およびフォルダ名を含める必要があります (たとえば C:\CA)。ドライブのルート レベル (たとえば C:\) に CA Configuration Automation をインストールすることはできません。

デフォルト : C:\Program Files\CA\CA Configuration Automation サーバ

7. [Windows サービス設定] ページで、CA Configuration Automation サーバサービスと関連付けるアカウントを以下から 1 つ選択し、[次へ] をクリックします。

ローカル システム アカウント

Windows Softagent ディスクバリ用に現在のホスト システム上で発行された認証情報を定義します。

このアカウント

CA Configuration Automation サーバ サービスに関連付けるユーザ名およびパスワードを定義します。

8. [データベース サーバ] ページで、以下のフィールドに入力し、次に、[次へ] をクリックします。

データベース タイプ

CA Configuration Automation データベース に使用されるデータベースのタイプを定義します。

サーバ名

CA Configuration Automation データベース サーバの名前または IP アドレスを定義します。

アプリケーションでは、IPv6 アドレスに対して最大拡張形式および最大圧縮形式のアドレスがサポートされています。リンクのローカル IPv6 アドレスはサポートされていません。

ポート番号

データベースのリスニングポート番号を定義します。デフォルトをそのまま使用するか、またはデータベースソフトウェアをインストールしたときに、ベンダーが推奨するデフォルトのポート番号を使用しなかった場合は別のポート番号を入力します。-

デフォルト

- Microsoft SQL Server : 1433
- Oracle : 1521

インスタンス名

(Microsoft SQL Serverのみ) データベースインスタンス名を定義します。

9. [データベース情報] ページで、以下のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

データベースアクション

以下のいずれかのアクションを指定します。

- データベースおよびユーザの作成
- データベースの作成
- 既存のデータベースを使用

データベース管理者

データベース管理者の名前を定義します。以下のいずれかのアクションを実行します。

- デフォルトの管理者名 (system または sa) を使用します。

注: Oracleデータベースでは、デフォルトのデータベース管理者 (system) を使用しないでください。Oracleデータベース管理者の場合、CA Configuration Automationオブジェクトは管理者のテーブルスペースに作成されます。system管理者テーブルスペースにはユーザオブジェクトを含めることができません。

- データベースインスタンスを作成する権限を持つデータベース管理者ユーザの名前を入力します。

注: このオプションは、インスタンスを作成している場合にのみ表示されます。

データベース管理者 パスワード

前のフィールドで指定したデータベース管理者ユーザに関連付けられるパスワードを定義します。

注: このオプションは、インスタンスを作成している場合にのみ表示されます。

データベース名

CA Configuration Automation データベース のスキーマを作成または更新する権限を持つデータベース名を定義します。

データベース ユーザ

データベース ユーザ名を定義します。

データベース ユーザ パスワード

指定した CA Configuration Automation データベース ユーザに関連付けられるパスワードを定義します。 [パスワードの再入力] フィールドにパスワードを再度入力します。

Oracle SID

(Oracle のみ) Oracle データベース システム識別子 (インスタンス名) を定義します。

パーティション テーブルを使用 (Enterprise Server のみ)

CCA データベースでパーティション テーブルを使用するように指定します。

注: データベース設定を変更するには、インストールを完了し、`cca.properties` ファイルを編集します (「[データベースのプロパティを編集 \(P. 153\)](#)」を参照)。

(Microsoft SQL Server のみ) CA Configuration Automation サーバが SQL クエリ内の正規表現を実装するために SQL Server の CLR 関数を使用していることを示す警告が表示されます。

10. グローバルの CLR 有効フラグが設定されていることを確認し、[はい] をクリックします。

[Web サーバ構成] ページが開き、サービス名が表示されます。サービス構成により、WMI ディスカバリが適切に動作します。Service Control Manager を使用して、サービスを実行するユーザ アカウントを変更できます。

11. 以下のフィールドに記入して、[次へ]をクリックします。

HTTP ポート

CA Configuration Automation サーバと通信するためにTomcatが使用するポートを定義します。

リダイレクトポート

Tomcatがリダイレクトリクエストをリスンするポートを定義します。

シャットダウンポート

Tomcatがシャットダウンリクエストをリスンするポートを定義します。

12. [グリッド構成]ページで、以下のフィールドに入力し、[次へ]をクリックします。

TCPベースポート

CA Configuration Automationがグリッドプロセスリクエストをリスンするポートを定義します。

TCPポート範囲

グリッドリクエストの処理で使用可能なポートの範囲をベースポートとの相対で定義します。

13. [ブループリントインポート]ページで、インストールするコンポーネントブループリントのタイプを選択し、[次へ]をクリックします。

標準ブループリント

CA Configuration Automationコンポーネントブループリントがこれまで提供してきた詳細の構成管理を提供します。

軽量ブループリント

ソフトウェアコンポーネントおよびそれらの関係を検出するためのエンジンとしてCA Configuration Automationを使用しているCA CMDBのユーザ向けです。

軽量コンポーネントブループリントは、CA CMDBのユーザにとって有用なデータの検出のみを行うことによって、パフォーマンスと拡張性を向上させます。軽量コンポーネントブループリントには、ファイル、レジストリエントリ、および構成データは通常含まれていません。ディスカバリパラメータと、CA CMDBにエクスポートされるデータ(Cl、属性、関係)は含まれます。

[通知構成]画面が表示されます。

14. [通知構成] ページで、以下のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

メール サーバ

メール サーバ名を定義します。

メール差出人アドレス

システムが生成する通知電子メールに表示される電子メールアドレスを定義します。

デフォルト : ccaserver@noreply.*serverName.domainName*

15. [CA Embedded Entitlements Manager 設定] ページで、以下のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

サーバ名

CA EEM サーバの名前を定義します。この名前は、EEM サーバのインストール中に入力された名前に一致する必要があります。名前が一致しない場合、CA Configuration Automation サーバ UI の [アクセス管理] ページを表示できません。[アクセス管理] ページは CA EEM が CA Configuration Automation サーバ UI に表示される場所です。詳細については、製品ガイドまたはオンラインヘルプを参照してください。

管理者

CA EEM 管理者ユーザ名を定義します。

管理者パスワード

指定した管理者に関連付けられるパスワードを定義します。

CCA 管理者

CA Configuration Automation 管理者ユーザ名を定義します。

デフォルト : ccaadmin

CCA 管理者パスワード

指定したユーザ CCA 管理者に関連付けるパスワードを定義します。

デフォルト : ccaadmin

16. [レポート設定] ページで、以下のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

サーバ名

<CA Business Intelligence> レポートサーバの名前を定義します。

ポート

<CA Business Intelligence> レポートサーバのリスニングポートを定義します。

デフォルト : 6400

管理者

<CA Business Intelligence> レポートサーバの管理者ユーザ名を定義します。

デフォルト : Administrator

管理者パスワード

指定した管理者に関連付けられるパスワードを定義します。

Web サーバプロトコル

Web サーバプロトコルを定義します。

Web サーバ名

Web サーバ名を定義します。

Web サーバポート

Web サーバリクエストを処理するポートを定義します。

17. [インストール前サマリ] ページで、サマリを確認し、[インストール] をクリックします。

インストール処理が開始されます。完了したら、[インストール完了] ページでインストールが成功したことを確認します。

18. [完了] をクリックします。

インストール ウィザードが閉じます。

CA Configuration Automation サーバ が正しくインストールされたことを確認するための詳細については、以下のトピックを参照してください。

- [CA Configuration Automation サーバ のインストールの確認 \(P. 149\)](#)
- [CA Configuration Automation サーバ へのログイン \(P. 150\)](#)

「[Windows への CA Configuration Automation エージェントのインストール \(P. 65\)](#)」の説明に従って、CA Configuration Automation エージェントを CA Configuration Automation サーバ ホストシステムにインストールすることを推奨します。

Solaris または Linux への CA Configuration Automation サーバ のインストール

Solaris または Linux に CA Configuration Automation サーバ ソフトウェアをインストールするには、以下のオプションがあります。

- [コンソールを使用したインストール \(P. 40\)](#)
- [ウィザードを使用したインストール \(P. 48\)](#)

コンソールを使用したインストール

コンソール モードを使用して、コマンド ラインから CA Configuration Automation サーバ を対話形式でインストールできます。

次の手順に従ってください:

1. ターゲット サーバのターゲット インストール ディレクトリへの書き込み 権限を持ち、ソフトウェアのインストールが許可されたユーザとしてログインします。
2. お使いのオペレーティング システム用のインストール プログラムが含まれるディレクトリに移動します。

Linux

```
$ cd /dvd1/CCA/Server/Linux
```

Solaris

```
$ cd /dvd1/CCA/Server/Solaris
```

注: このセクション内の残りの例およびプロンプトでは Solaris サーバを使用します。サーバのインストール手順およびプロンプトは Linux でも同じです。

3. 以下のコマンドを入力します。

```
$ ./installserver.bin -i console
```

インストールプログラムは、必要なファイルを一時的な作業領域に抽出することによってインストールプロセスを準備します。この準備には数分間かかる場合があります。

適切な /tmp 領域が使用可能でない場合、インストールプログラムはユーザのホームディレクトリ内の領域の使用を試みます。たとえば、root としてログインしている場合、インストールプログラムは一時的な作業領域として / をチェックして使用します。インストール処理が正常に完了したら、アプリケーションは一時領域を解放します。

インストールプログラムは基本的なインストールのナビゲーションおよびキャンセル手順を開始して提供します。以下の主要な点に注意してください。

- 前の手順に戻るには、「back」と入力します。
- インストールをキャンセルするには、「quit」と入力します。

注: インストールをキャンセルする場合、インストールされたファイルは自動的に削除されません。これらのファイルを削除するには、提供されるアンインストーラを使用します。アンインストーラは、手順 7 で指定するターゲットインストールディレクトリの中にあります。

4. Enter キーを押してインストールを続行します。

[使用許諾契約] ページが表示されます。

5. 使用許諾契約の各ページを確認し(サードパーティのソフトウェアライセンス条項および条件も含む)、Enter キーを押します。

使用許諾契約の最後に以下のプロンプトが表示されます。

使用許諾契約の条項に同意しますか? (Y/N)

6. 使用許諾契約に同意してインストール処理を続行するには、Y を入力します。

次のプロンプトが表示されます。

インストール先を指定してください。

デフォルトのインストール フォルダ: /opt/CA/CCAServer

絶対パスを入力するか、またはデフォルトを使用する場合は Enter キーを押してください。

7. 推奨されるデフォルトの場所を使用する場合は **Enter** キーを押します。または、CA Configuration Automation サーバ をインストールするディレクトリのパスを入力します。

パス名には、英数字、アンダースコア（_）、スラッシュ（/）文字のみを使用できます。空白または他の特殊文字を埋め込むことは許可されていません。指定したディレクトリが存在しない場合、インストールプログラムによって作成されます。

インストールプログラムは、CA Configuration Automation 構成情報およびデータを格納するために使用するデータベースのタイプを指定するようにユーザに要求します。

データベース サーバ

1- SQL Server

2- Oracle

データベース タイプ :

8. 使用するデータベースに対応する数字を入力し、**Enter** キーを押します。

インストールプログラムは、データベース タイプの選択を確認し、データベース サーバ名を指定するようにユーザに要求します。

データベース タイプ : 1

サーバ名 (デフォルト : localhost) :

9. 以下のいずれかの操作を実行します。

- 選択したデータベースがインストールされているサーバ名または IP アドレスを入力します。
- データベースが CA Configuration Automation サーバ をインストールしているサーバ上にある場合は **Enter** キーを押します。

注: アプリケーションでは、IPv6 アドレスに対して最大拡張形式および最大圧縮形式のアドレスがサポートされています。リンクのローカル IPv6 アドレスはサポートされていません。

インストールプログラムは、データベース ポート番号またはインスタンス名を定義するようにユーザに要求します。

ポート番号 (デフォルト : 1433) :

デフォルト:

SQL Server : 1433

Oracle : 1521

10. 以下のいずれかの操作を実行します。

- デフォルトのポートまたはインスタンス名をそのまま使用する場合は **Enter** キーを押します
- データベース ソフトウェアをインストールしたときにベンダーが推奨するデフォルトのポート番号を使用しなかった場合は、別のポート番号を入力します。

Oracle データベースを使用している場合、インストールプログラムはサービス名を指定するようユーザに要求します。

サービス名 (デフォルト : ORCL) :

11. データベース タイプに応じて、以下のいずれかを実行します。

SQL Server

デフォルトのインスタンス名をそのまま使用して **Enter** キーを押すか、または別の名前を入力して **Enter** キーを押します。

Oracle

デフォルトのサービス名をそのまま使用して **Enter** キーを押すか、または別の名前を入力して **Enter** キーを押します。

インストールプログラムは、データベース アクションを指定するようユーザに要求します。

データベース アクション

- 1- データベースおよびユーザの作成
- 2- データベースの作成
- 3- 既存のデータベースを使用

注: このインストールプロセス外で CA Configuration Automation データベース ユーザが作成されている場合、そのユーザにデータベースの作成および接続の権限が付与されていることを確認してください。該当する権限がユーザにない場合、インストール処理は失敗します。

12. データベース アクションの数字を入力し、**Enter** キーを押します。

インストールプログラムは、データベース管理者ユーザ名を定義するようユーザに要求します。

データベース管理者 (デフォルト : sa) :

13. データベース管理者のユーザ名を入力するか、デフォルト (SQL Server データベースの場合は sa) をそのまま使用する場合は **Enter** キーを押します。

注: Oracle データベースの場合、デフォルトのデータベース管理者ユーザ名 (system) は使用しないでください。アプリケーションでは Oracle データベース管理者のテーブルスペースに CA Configuration Automation オブジェクトを作成します。system ユーザ テーブルスペースにはユーザオブジェクトを含めることができません。

インストールプログラムは、管理者パスワードを指定するようユーザに要求します。

データベース管理者パスワード :

14. 手順 13 で定義したデータベース管理者に関連付けられたパスワードを入力します。

- SQL Server データベースを使用している場合、インストールプログラムはデータベース名を指定するようユーザに要求します。

データベース名 (デフォルト : cca) :

- Oracle データベースを使用している場合、インストールプログラムはテーブルスペース名を定義するようユーザに要求します。

テーブル スペース名 (デフォルト : cca) :

15. データベースタイプに応じて、以下のいずれかを実行します。

SQL Server

デフォルトのデータベース名をそのまま使用して **Enter** キーを押すか、または別の名前を入力して **Enter** キーを押します。

Oracle

デフォルトのテーブルスペース名をそのまま使用して **Enter** キーを押すか、または別の名前を入力して **Enter** キーを押します。

インストールプログラムは、データベースユーザ名を指定するようユーザに要求します。

データベース ユーザ (デフォルト : cca) :

16. CA Configuration Automation データベース ユーザ名を入力して **Enter** キーを押すか、またはデフォルトをそのまま使用して **Enter** キーを押します。

インストールプログラムは、データベース ユーザのパスワードを指定するようユーザに要求します。

データベース ユーザ パスワード：

17. 手順 16 で指定した CA Configuration Automation データベース ユーザ に関連付けられたパスワードを入力し、**Enter** キーを押します。

インストールプログラムはパスワードを確認するようユーザに要求します。

パスワードの再入力：

18. パスワードを再入力し、**Enter** キーを押します。

インストールプログラムによって CA Configuration Automation データベース のインスタンスおよびユーザ（必要な場合）が作成され、データベースがロードされ、CA Configuration Automation サーバ構成ファイルが作成されます。

注： データベース設定のいずれかを変更するには、インストールを完了し、`cca.properties` ファイルを編集します（「データベースのプロパティを編集」を参照）。

19. Tomcat が通信に使用するポート、およびリダイレクトまたはシャットダウンのリクエストをリスンするポートを入力して **Enter** キーを押します。

Web サーバ設定

Apache Tomcat は自動的にインストールされます。 使用されるポートを指定します。

HTTP ポート（デフォルト： 8080）：

リダイレクト ポート（デフォルト： 8443）：

シャットダウン ポート（デフォルト： 8005）：

使用するグリッド構成を入力するプロンプトが表示されます。

20. 以下の情報を入力して **Enter** キーを押します。

TCP ベース ポート（デフォルト： 8065）：

TCP ポート範囲（デフォルト： 15）：

インストールプログラムは、デフォルトの Network Discovery Gateway を構成するようユーザに要求します。

21. 以下の情報を入力します。

Network Discovery Gateway 構成

Network Discovery Gateway サーバ(デフォルト: localhost.localdomain) :

Network Discovery Gateway ポート (デフォルト: 8081) :

インストールプログラムは、インストールするコンポーネントブループリントのタイプを選択するようユーザに要求します。

22. インストールするコンポーネントブループリントのタイプを選択し、**Enter** キーを押します。

標準

CCA コンポーネントブループリントがこれまで提供してきた詳細の構成管理を提供します。

軽量

ソフトウェア コンポーネントおよびその関係を検出するためのエンジンとして CA Configuration Automation を使用している CA CMDB ユーザをサポートします。

軽量コンポーネントブループリントは、CA CMDB のユーザにとって有用なデータの検出のみを行うことによって、パフォーマンスと拡張性を向上させます。軽量コンポーネントブループリントには、ファイル、レジストリエントリ、および構成データは通常含まれていません。ディスクバリ パラメータと、CA CMDB にエクスポートされるデータ (CI、属性、関係) は含まれます。

23. 以下の情報を入力して **Enter** キーを押します。

通知構成

メール サーバ (デフォルト: mail.localdomain) :

メール差出人アドレス (デフォルト:

ccaserver@noreply.localhost.localdomain) :

24. 以下の情報を入力して **Enter** キーを押します。

CA Embedded Entitlements Manager 設定

EEM サーバ情報

サーバ名 :

管理者 (デフォルト: eiamadmin) :

管理者パスワード :

CCA 管理者ユーザ (デフォルト: ccaadmin) :

CCA 管理者ユーザ パスワード :

パスワードの再入力 :

25. レポート設定情報を入力し **Enter** キーを押します。

サーバ名 (デフォルト : localhost.localdomain) :
ポート (デフォルト : 6400) :
管理者 (デフォルト : Administrator) :
管理者パスワード :
HTTP サーバ名 (デフォルト : localhost.localdomain) :
HTTP ポート (デフォルト : 8080) :

26. インストールプログラムにより、CA Configuration Automation サーバ を開始するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。

続行してもよろしいですか?

- 1- はい
- 2- いいえ

目的の操作に対応した数字を入力するか、またはデフォルトを使用する場合は **Enter** キーを押してください。

27. CA Configuration Automation サーバ を開始する場合は **Enter** キーを押します (これは「Yes」を意味します)。

[インストール前サマリ] で、続行する前に以下の情報を確認できます。

製品名 :
CA Configuration Automation サーバ
インストール フォルダ :
/opt/CA/CCAServer
ディスク空き容量情報 (インストール先) :

28. **Enter** キーを押します。

インストール処理が開始されます。完了したら、インストール完了ページでインストールが成功したことを確認します。

29. **Enter** キーを押してインストールプログラムを終了します。

CA Configuration Automation サーバ が正しくインストールされたことを確認するための詳細については、以下のトピックを参照してください。

- [CA Configuration Automation サーバ のインストールの確認 \(P. 149\)](#)
- [CA Configuration Automation サーバ へのログイン \(P. 150\)](#)

CA Configuration Automation サーバ をインストールして確認したら、CA Configuration Automation エージェントを CA Configuration Automation サーバ ホストシステムにインストールします。[Linux または UNIX への CA Configuration Automation エージェントのインストール \(P. 69\)](#)

ウィザードを使用したインストール

次の手順に従ってください:

1. ターゲットサーバのターゲットインストールディレクトリへの書き込み権限を持ち、ソフトウェアのインストールが許可されたユーザとしてログインします。
2. お使いのオペレーティングシステムに応じて、CA Configuration Automation サーバインストールプログラムが含まれるディレクトリに移動します。

Linux

```
$ cd dvd1/CCA/Server/Linux
```

Solaris

```
$ cd dvd1/CCA/Server/Solaris
```

3. 以下のコマンドを入力します。

```
$ ./installserver.bin
```

インストールプログラムは、必要なファイルを一時的な作業領域に抽出することによってインストールプロセスを準備します。この準備には数分間かかる場合があります。

適切な /tmp フォルダが使用可能でない場合、インストールプログラムはユーザのホームディレクトリ内の領域の使用を試みます。たとえば、root としてログインしている場合、インストールプログラムは一時的な作業領域として / をチェックして使用します。インストール処理が正常に完了したら、アプリケーションは一時領域を解放します。

インストール ウィザードが開始され、[はじめに] が表示されます。

4. [はじめに] 画面を読み、[次へ] をクリックします。

注: インストールをキャンセルした場合、インストールされたファイルは自動的に削除されません。これらのファイルをアンインストールするには、提供されるアンインストーラを使用します。アンインストーラは、手順 7 で指定したターゲットインストールディレクトリ内にあります。

5. [使用許諾契約] ページで、使用許諾契約を確認し、[使用許諾契約の条項に同意する] を選択して [次へ] をクリックします。
6. [重要情報] ページで、著作権およびソフトウェア用途情報を確認し、[次へ] をクリックします。

7. [インストール場所の選択] ページで以下のいずれかのアクションを実行します。

- 推奨されたデフォルトのインストール場所 (`/opt/CA/CCAServer`) をそのまま使用し、[次へ] をクリックします。
- 別のインストール場所を入力します。
- [選択] をクリックし、CA Configuration Automation サーバインストール場所を選択します。

UNIX ベースのシステムでは、パス名に使用できる文字は英数字、アンダースコア (`_`) 、およびスラッシュ (`/`) のみです（空白文字や他の特殊文字は使用できません）。指定したディレクトリが存在しない場合は、インストール ウィザードによって、ディレクトリが作成されます。

[データベース サーバ] 画面が表示されます。

8. [データベース サーバ] ページで、以下のフィールドに入力し、次に、[次へ] をクリックします。

データベース タイプ

CA Configuration Automation データベース に使用されるデータベースのタイプを定義します。

サーバ名

CA Configuration Automation データベース サーバの名前または IP アドレスを定義します。

アプリケーションでは、IPv6 アドレスに対して最大拡張形式および最大圧縮形式のアドレスがサポートされています。リンクのローカル IPv6 アドレスはサポートされていません。

ポート番号

データベースのリスニング ポート番号を定義します。デフォルトをそのまま使用するか、またはデータベース ソフトウェアをインストールしたときに、ベンダーが推奨するデフォルトのポート番号を使用しなかった場合は別のポート番号を入力します。-

デフォルト

- Microsoft SQL Server : 1433
- Oracle : 1521

インスタンス名

(Microsoft SQL Server のみ) データベース インスタンス名を定義します。

9. [データベース情報] ページで、以下のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

データベース アクション

以下のいずれかのアクションを指定します。

- データベースおよびユーザの作成
- データベースの作成
- 既存のデータベースを使用

データベース管理者

データベース管理者の名前を定義します。以下のいずれかのアクションを実行します。

- デフォルトの管理者名 (system または sa) を使用します。

注: Oracle データベースでは、デフォルトのデータベース管理者 (system) を使用しないでください。Oracle データベース管理者の場合、CA Configuration Automation オブジェクトは管理者のテーブルスペースに作成されます。system 管理者テーブルスペースにはユーザ オブジェクトを含めることができません。

- データベース インスタンスを作成する権限を持つデータベース管理者ユーザの名前を入力します。

注: このオプションは、インスタンスを作成している場合にのみ表示されます。

データベース管理者パスワード

前のフィールドで指定したデータベース管理者ユーザに関連付けられるパスワードを定義します。

注: このオプションは、インスタンスを作成している場合にのみ表示されます。

データベース名

CA Configuration Automation データベース のスキーマを作成または更新する権限を持つユーザ名を定義します。

データベース ユーザ

データベース ユーザ名を定義します。

データベース ユーザ パスワード

指定した CA Configuration Automation データベース ユーザに関連付けられるパスワードを定義します。 [パスワードの再入力] フィールドにパスワードを再度入力します。

Oracle SID

(Oracle のみ) Oracle データベース システム識別子 (インスタンス名) を定義します。

注: データベース設定を変更するには、インストールを完了し、`cca.properties` ファイルを編集します (「[データベースのプロパティを編集 \(P. 153\)](#)」を参照)。

(Microsoft SQL Server のみ) CA Configuration Automation サーバが SQL クエリ内の正規表現を実装するために SQL Server の CLR 関数を使用していることを示す警告が表示されます。

10. グローバルの CLR 有効フラグが設定されていることを確認し、[はい] をクリックします。

11. [Web サーバ構成] ページで、以下のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

HTTP ポート

CA Configuration Automation サーバと通信するために Tomcat が使用するポートを定義します。

リダイレクトポート

Tomcat がリダイレクトリクエストをリスンするポートを定義します。

シャットダウンポート

Tomcat がシャットダウンリクエストをリスンするポートを定義します。

12. [グリッド構成] ページで、以下のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

TCP ベースポート

CA Configuration Automation がグリッドプロセスリクエストをリスンするポートを定義します。

TCP ポート範囲

グリッドリクエストの処理で使用可能なポートの範囲をベースポートとの相対で定義します。

13. [ブループリントインポート] ページで、インストールするコンポーネントブループリントのタイプを選択し、[次へ] をクリックします。

標準ブループリント

CA Configuration Automation コンポーネントブループリントがこれまで提供してきた詳細の構成管理を提供します。

軽量ブループリント

ソフトウェア コンポーネントおよびそれらの関係を検出するためのエンジンとして CA Configuration Automation を使用している CA CMDB のユーザ向けです。

軽量コンポーネントブループリントは、CA CMDB のユーザにとって有用なデータの検出のみを行うことによって、パフォーマンスと拡張性を向上させます。軽量コンポーネントブループリントには、ファイル、レジストリエントリ、および構成データは通常含まれていません。ディスクバリパラメータと、CA CMDB にエクスポートされるデータ (CI、属性、関係) は含まれます。

14. [通知構成] ページで、以下のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

メール サーバ

メール サーバ名を定義します。

メール差出人アドレス

システムが生成する通知電子メールに表示される電子メールアドレスを定義します。

デフォルト : ccaserver@noreply.*serverName.domainName*

15. [CA Embedded Entitlements Manager 設定] ページで、以下のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

サーバ名

CA EEM サーバの名前を定義します。この名前は、EEM サーバのインストール中に入力された名前に一致する必要があります。名前が一致しない場合、CA Configuration Automation サーバ UI の [アクセス管理] ページを表示できません。[アクセス管理] ページは CA EEM が CA Configuration Automation サーバ UI に表示される場所です。詳細については、製品ガイドまたはオンラインヘルプを参照してください。

管理者

CA EEM 管理者ユーザ名を定義します。

管理者パスワード

指定した管理者に関連付けられるパスワードを定義します。

CCA 管理者

CA Configuration Automation 管理者ユーザ名を定義します。

デフォルト : ccaadmin

CCA 管理者パスワード

指定したユーザ CCA 管理者に関連付けるパスワードを定義します。

デフォルト : ccaadmin

16. [レポート設定] ページで、以下のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

サーバ名

<CA Business Intelligence> レポートサーバの名前を定義します。

ポート

<CA Business Intelligence> レポートサーバのリスニングポートを定義します。

デフォルト : 6400

管理者

<CA Business Intelligence> レポートサーバの管理者ユーザ名を定義します。

デフォルト : Administrator

管理者パスワード

指定した管理者に関連付けられるパスワードを定義します。

HTTP サーバ名

HTTP リクエストを処理するサーバを定義します。

デフォルト : <*local_host_name*>

HTTP ポート

HTTP リクエストを処理するポートを定義します。

17. [インストール前サマリ] ページで、サマリを確認し、[インストール] をクリックします。

インストールプログラムによって、インストールディスクに十分な容量があるかチェックされます。必要なディスク容量、およびディスクの空き容量に関するサマリが、インストール前のサマリに表示されます。

必要なファイルがターゲットサーバにコピーされると、ウィザードにはインストールの進捗状況が表示され、終了すると通知されます。

[インストール完了] ページでインストールが成功したことを確認します。

18. [完了] をクリックします。

インストールウィザードが閉じます。

CA Configuration Automation サーバが正しくインストールされたことを確認するための詳細については、以下のトピックを参照してください。

- [CA Configuration Automation サーバのインストールの確認](#) (P. 149)
- [CA Configuration Automation サーバへのログイン](#) (P. 150)

「[Windows への CA Configuration Automation エージェントのインストール](#) (P. 65)」の説明に従って、CA Configuration Automation エージェントを CA Configuration Automation サーバホストシステムにインストールすることを推奨します。

コマンドライン インターフェースによるインストール

CA Configuration Automation には、特定のサーバ関連およびサービス関連の操作をコマンドラインプロンプトから実行するためのコマンドラインインターフェース (CLI) が用意されています。

このコマンドラインユーティリティは ccautil と呼ばれます (Windows では ccautil.bat、Linux および UNIX では ccautil.sh)。ccautil は、CA Configuration Automation サーバのインストール時に bin ディレクトリに自動でインストールされます。デフォルトの CA Configuration Automation サーバインストールディレクトリを選択した場合、ccautil は以下のいずれかのディレクトリにあります。

- C:\Program Files\CA\CCA Server\bin
- /opt/CA/CCAServer/bin

この場所から ccautil を実行することができます (「製品ガイド」の付録「コマンドラインインターフェースの使用」を参照)。また、CA Configuration Automation サーバでサポートされている任意のプラットフォームのリモート コンピュータにこのユーティリティをコピーすることもできます。プラットフォームおよびバージョンのサポートの詳細については、リリースノートを参照してください。

リモートコンピュータに ccautil をインストールする方法

1. CA Configuration Automation サーバホストの bin ディレクトリからリモートコンピュータに ccautil.bat または ccautil.sh ファイルをコピーします。
2. CA Configuration Automation サーバホストからリモートコンピュータに sdk ディレクトリおよびその内容をコピーします。
注: caacm-api.jar および他のすべてのオープンソースユーティリティの .jar ファイルは、<install_directory>\\$sdk\\$lib ディレクトリ内に残しておく必要があります。
3. ccautil.bat または ccautil.sh ファイル内の CCA_UTIL_HOME 変数の値を、リモートコンピュータの sdk ディレクトリを指すように変更します。
4. ccautil.bat または ccautil.sh ファイル内の TEMP_JAVA_HOME 変数の値を、リモートコンピュータの Java または JRE のホームを指すように変更します。

これで、ccautil コマンドラインユーティリティはリモートコンピュータにインストールされ、構成されました。

注: CLI を使用する前に、ブラウザベースの CA Configuration Automation のユーザインターフェースに少なくとも 1 回はログインし、ユーザ認証情報を認証する必要があります。

CA Configuration Automation サーバまたはグリッドノードのサイレントインストール

CA Configuration Automation サーバまたはグリッドノードは、Linux または UNIX のコマンドライン、または Windows コマンド ウィンドウからサイレントインストールすることができます。サイレントインストールプロセスでは、まず CA Configuration Automation サーバまたはグリッドノードインストールプログラムがレコード モードで対話的に実行されている必要があります。インストールプロセスを記録すると、installer.properties という名前の応答ファイルが作成されます。記録の過程で、インストールプログラムへのユーザの入力内容がこのファイルに保存され、CA Configuration Automation サーバの以降のインストールにおいては、その情報がインストールプログラムに提供されます。

CA Configuration Automation サーバまたはグリッド ノードのインストールおよび installer.properties ファイルの作成

次の手順に従ってください:

1. コマンド ウィンドウを開き、インストール メディアの以下のいずれかの場所に移動します。
 - dvd1¥CCA¥Server¥Linux
 - dvd1¥CCA¥Server¥Solaris
 - dvd1¥CCA¥Server¥Windows
 - dvd1¥CCA¥Gridnode¥Linux
 - dvd1¥CCA¥Gridnode¥Solaris
 - dvd1¥CCA¥Gridnode¥Windows
2. 以下のいずれかのコマンドを使用してインストール プログラムを起動します。

64 ビット Linux および Windows のみ

```
installserver64.bin -r
```

32 ビット Linux、Solaris および Windows

```
installserver.exe -r
```

64 ビット Linux および Windows のみ

```
installgridnode64.bin -r
```

32 ビット Linux、Solaris および Windows

```
installgridnode.exe -r
```

注: -r パラメータを使用すると、installserver コマンドを実行したディレクトリ内に installer.properties ファイルが作成されます。別の場所にファイルを作成するか、別のファイル名を使用するには、-r パラメータの後にファイル名およびパスを入力します。例 :

```
installserver.exe -r c:¥temp¥ccaserver_install.properties
```

CA Configuration Automation サーバインストール プログラムが開始され、[はじめに] ページが表示されます（必要なソフトウェアが検出されない場合は [見つからない前提条件コンポーネント] ページが表示されます）。

3. 以下のいずれかのセクションの説明に従ってプロンプトに応答します。

- [Windows への CA Configuration Automation サーバ のインストール \(P. 31\)](#)
- [Solaris または Linux への CA Configuration Automation サーバ のインストール \(P. 39\)](#)
- [Windows へのグリッドノードのインストール \(P. 92\)](#)
- [Solaris または Linux へのグリッドノードのインストール \(P. 96\)](#)

インストールプログラムは、CA Configuration Automation サーバ またはグリッドノードのインストールでユーザが入力した情報を使用します。この情報は `installer.properties` と呼ばれる応答ファイルにも記録されます。このファイルは、`installserver` コマンドを実行したディレクトリ、またはユーザが指定したディレクトリに作成されます。

CA Configuration Automation サーバまたはグリッドノードのサイレントインストールでの installer.properties の使用

次の手順に従ってください:

1. CA Configuration Automation サーバまたはグリッドノードのインストールプログラムが置かれているディレクトリに `installer.properties` ファイルをコピーします。

たとえば、CA Configuration Automation メディア上にディレクトリ構造を複製した場合は、以下のいずれかの場所に `installer.properties` ファイルをコピーします。

- `dvd1¥CCA¥Server¥Linux`
- `dvd1¥CCA¥Server¥Solaris`
- `dvd1¥CCA¥Server¥Windows`
- `dvd1¥CCA¥Gridnode¥Linux`
- `dvd1¥CCA¥Gridnode¥Solaris`
- `dvd1¥CCA¥Gridnode¥Windows`

2. 以下のいずれかのコマンドを使用してインストールプログラムを起動します。

- `installserver.exe -i silent`
- `installserver64.exe -i silent`
- `installserver.bin -i silent`
- `installserver64.bin -i silent`
- `installgridnode.exe -i silent`
- `installgridnode64.exe -i silent`
- `installgridnode.bin -i silent`
- `installgridnode64.bin -i silent`

注: インストールプログラムによって別の場所または別のファイル名が検索されるようにするには、`-f` パラメータを使用します。例:

```
installserver.exe -i silent -f  
c:¥temp¥ccaserver_install.properties
```

CA Configuration Automation サーバまたはグリッド ノードのインストール プログラムが開始され、現在のディレクトリまたは指定したディレクトリ内で `installer.properties` ファイルが検索されます。インストール プログラムがファイルを見つけると、インストール中に使用されるプロパティ 値は、そのファイルを使用して入力されます。

インストール ログ ファイル

CA Configuration Automation エージェントおよび CA Configuration Automation サーバの各インストール プログラムでは、インストールの概要が記録された包括的なログ ファイルが作成されます。

- 推奨されるデフォルトの場所を使用して CA Configuration Automation サーバをインストールした場合、インストール ログ ファイル `install.log` が以下のディレクトリに作成されます。
 - UNIX の場合 : `/opt/CA/CCAServer/logs`
 - Windows の場合 : `\Program Files\CA\CCA Server\logs`
- 推奨されるデフォルトの場所を使用して CA Configuration Automation エージェントをインストールした場合、インストール ログ ファイル `agent.log` が以下のディレクトリに作成されます。
 - UNIX の場合 : `/opt/CA/CCAAgent/logs`
 - Windows の場合 : `\Program Files\CA\CA Configuration Automation Agent\logs`

インストール ログ ファイルには、サマリの詳細に加えて、作成されたディレクトリ、インストールされたファイル、作成されたレジストリ エントリ、および開始された Windows サービスまたは UNIX デーモンの一覧が記録されます。

注: インストール プログラムは、インストール手順を追跡するために内部で使用される `inst.log` という名前の一時ログ ファイルも生成します。インストールの問題のトラブルシューティングを行う際には、`InstallLog.log` ファイルのみを参照してください。

CA Configuration Automation サーバ のログ ファイル

CA Configuration Automation サーバは、`cca.log` という名前のファイルにエラー メッセージのログを記録します。このファイルは CA Configuration Automation サーバのインストール ディレクトリの下の `logs` ディレクトリに保存されます。推奨されるデフォルトの場所を使用している場合は、`cca.log` は以下のいずれかのディレクトリに置かれます。

- UNIX の場合 : `/opt/CA/CCAServer/logs`
- Windows の場合 : `\Program Files\CA\CCA Server\logs`

`log4j.properties` ファイルは、CA Configuration Automation サーバの構成ファイルの名前、その最大サイズ、およびログに記録されるメッセージの種類（エラー、警告、情報）を制御します。 詳細については、「ログ構成ファイル」を参照してください。

CCA エージェントのログ ファイル

デフォルトでは、CA Configuration Automation エージェント関連のエラーメッセージは `agent.log` という名前のログ ファイルに記録されます。

CA Configuration Automation エージェントのログ ファイルはベース インストール ディレクトリにあります。推奨されるデフォルトの場所を使用して CA Configuration Automation エージェントをインストールした場合、`agent.log` は以下のディレクトリに作成されます。

- UNIX の場合 : `/opt/CA/CCAAgent/logs`
- Windows の場合 : `\Program Files\CA\CA Configuration Automation Agent\logs`

`agent.conf` ファイルは、CA Configuration Automation エージェントのログ ファイルの名前、および記録されるエージェントのエラーとメッセージ情報の量とレベルを制御します。 詳細については、「[CA Configuration Automation エージェント構成ファイル \(P. 86\)](#)」を参照してください。

第5章: CCA エージェントのインストール

この章では、CA Configuration Automation エージェント ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

CA Configuration Automation サーバ ホスト システム、および CA Configuration Automation によってサービスの検出と管理を行うユーザの企業内の他のサーバに CA Configuration Automation をインストールします。

注:

- エージェントレス サーバディスカバリは企業内でインベントリを行うのに適しており、CA Configuration Automation エージェントをインストールする対象を決定するのに役立てることができます。ただし、エージェントレス サーバ上でのコンポーネントエレメントディスカバリは、CA Configuration Automation を使用した実際のコンポーネント管理ほど包括的なものではありません。
- CA Configuration Automation ユーザ インターフェースから、[サーバ] タブの [エージェントのインストール] オプションを使用して CA Configuration Automation エージェントを直接インストールすることもできます。詳細については、CA Configuration Automation のオンライン ヘルプを参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[インストールのガイドラインおよび注記 \(P. 64\)](#)

[Windows への CCA エージェントのインストール \(P. 65\)](#)

[Linux または UNIX への CCA エージェントのインストール \(P. 69\)](#)

[エージェントのサイレントインストール \(P. 80\)](#)

[CCA エージェントの構成ファイル \(P. 86\)](#)

インストールのガイドラインおよび注記

このセクションには、CA Configuration Automation エージェントソフトウェアをインストールする前に理解しておく必要のある一般的なガイドラインおよび注記が記載されています。

注: インストールの前に、*CA Configuration Automation* リリースノートを読んでください。このドキュメントにはリリース固有の情報が記載されています。また、CA Configuration Automation エージェントのインストールにおけるシステム要件およびサポートされる環境について説明しています。事前に CA Configuration Automation エージェントソフトウェアをインストールしている場合は、「CA Configuration Automation ソフトウェアのアップグレード」の手順に従ってください。

推奨されるインストール ディレクトリ

CA Configuration Automation ソフトウェアは、デフォルトのターゲットインストールディレクトリにインストールすることを推奨します。推奨されるデフォルト以外のディレクトリにソフトウェアをインストールする場合は、少なくとも CA Configuration Automation サーバおよび CA Configuration Automation エージェントを別のサブディレクトリにインストールしてください。

また、Linux または UNIX プラットフォームに CCA ソフトウェアをインストールする場合は、標準的なディレクトリ命名規則に従ってください（たとえば空白文字や特殊文字を使用しないでください）。

UNIX ベースのエージェントのインストールと実行は root で行う

UNIX ベースの CA Configuration Automation エージェントを CA Configuration Automation の実稼働環境にインストールして実行するには、root で行ってください。このソフトウェアの評価やテストは他のユーザで行うことも可能ですが、エージェントを root ユーザとして実行していない場合、主要なオペレーティングシステムのコンポーネントブループリント構成実行可能ファイルおよびマクロが失敗する可能性があります。

Windows への CCA エージェントのインストール

Microsoft Windows オペレーティング システムに CA Configuration Automation エージェント ソフトウェアをインストールするには、ウィザードを使用します。

Windows に CA Configuration Automation エージェントをインストールする方法

1. administrator または管理者権限を持つユーザとしてログインします。
2. dvd1¥CCA¥Agents¥Windows フォルダに移動します。
3. 以下のいずれかのファイルをダブルクリックして、CA Configuration Automation エージェント インストール プログラムを起動します。
 - AgentWindowsVM.exe - 32 ビット CA Configuration Automation エージェント、および付属する Java VM をインストールします。
 - AgentWindows.exe - 32 ビット CA Configuration Automation エージェントのみをインストールします。
 - AgentWindows64VM.exe - 64 ビット CA Configuration Automation エージェント、および付属する Java VM をインストールします。
 - AgentWindows64.exe - 64 ビット CA Configuration Automation エージェントのみをインストールします。

CA Configuration Automation エージェントをインストールするには Java VM が必要です。Java VM はエージェントの動作中は実行されません。2 種類の異なるエージェント インストール ウィザード (Java VM をインストールする ウィザードと、Java VM をインストールしない ウィザード) が用意されているのは、CA Configuration Automation エージェントのターゲット サーバに Java VM のいずれかのバージョンがすでにインストールされている可能性があるためです。Java VM をインストールしない ウィザードは、既存の Java VM を検索して使用します。

注: インストール プログラムが一般的な場所にインストールされなかった場合、既存の Java VM が見つからない可能性があります。AgentWindows.exe インストールが失敗の場合、AgentWindowsVM.exe を使用して、CA Configuration Automation エージェントをインストールします。

インストール プログラムは、必要なファイルを一時的な作業領域に抽出することによってインストールの準備を行います。これには数分間かかる場合があります。インストールが正常に完了するか、またはキャンセルされると、一時的なストレージは解放されます。

インストール ウィザードが開始され、[はじめに] が表示されます。

4. [はじめに] 画面を読み、[次へ] をクリックします。

注: ユーザがインストールをキャンセルした場合、その時点でインストールされているファイルは自動で削除されません。これらのファイルを削除するには、提供されているアンインストーラを使用します。アンインストーラは、手順 7 で指定するターゲットインストールディレクトリの中に入ります。

[使用許諾契約] 画面が表示されます。

5. [使用許諾契約] を読み、[使用許諾契約の条項に同意する] を選択し、[次へ] をクリックします。

CA Configuration Automation ソフトウェアをインストールするには、使用許諾契約に同意する必要があります。

[著作権] 画面が表示されます。

6. 著作権およびソフトウェアの使用に関する情報を読み、[次へ] をクリックします。

[インストール場所] 画面が表示されます。

7. デフォルトのインストール場所 (¥ProgramFiles¥CA¥CA Configuration Automation Agent) をそのまま使用する場合は [次へ] をクリックします。CA Configuration Automation エージェント用の別のインストール場所を入力するか、または [選択] をクリックしてインストール場所を選択することもできます。デフォルトの場所をそのまま使用することを推奨します。

Windows ベースのシステムでは、パス名に使用できる文字は英数字、アンダースコア (_) 、空白、および円記号 (¥) のみです（他の特殊文字は使用できません）。指定したディレクトリが存在しない場合は、インストール ウィザードによって、ディレクトリが作成されます。

[エージェント構成] 画面が表示されます。

8. 以下の CA Configuration Automation エージェント構成情報を入力して、[完了] をクリックします。

CA Configuration Automation エージェントのポート番号

CA Configuration Automation エージェントのリスニング ポート番号を指定します。デフォルト(ポート 8063)をそのまま使用するか、または別の一意のポート番号を入力します。

他のサービスや周辺機器で使用されていないポート番号を使用してください。コマンド ウィンドウを開いて `netstat -an` コマンドを実行することによって、どのポートがすでに使用されているかを確認することができます。

エージェント バインド IP アドレス

エージェント インストールの完了後に CCA エージェントがバインドするマシンの IP アドレスを指定します。

このオプションには使用可能な IP アドレスがリスト表示されます。以下の IP アドレスは除外されます。

- IPv4 ループバック アドレス。例： 127.0.0.1
- IPv6 ループバック アドレス。例： 1 または 0:0:0:0:0:0:0:1
- IPv6 リンク ローカル アドレス。例： fe80:: から始まるアドレス

注: 有効な IP アドレスが見つからない場合、警告メッセージが表示され、CCA エージェントはループバック IP アドレスにバインドします。

エージェント ログの有効化

エージェント ログ記録を有効にするかどうかを指定します。領域の節約やセキュリティ上の理由によってマシンへのログファイルの書き込みが好ましくない場合は、ログ記録を有効にしないこともあります。

エージェント構成ファイル(`agent.conf`)を変更することによって、エージェントのログ記録の有効または無効をいつでも切り替えることができます。

サーバ ping の有効化

サーバの ping を有効にするかどうかを指定します。以下のいずれかが当てはまる場合、サーバの ping を有効にしないこともあります。

- IP アドレスおよび名前解決の競合が発生する場合。
- サーバに複数のネットワークインターフェースカード (NIC) がある場合 (意図する NIC の識別が必要なため)。
- エージェントのインストール先のサーバと CA Configuration Automation サーバとの間にファイアウォールが存在する場合 (到達できないアドレスに ping を行うことによって生じる不要なネットワークトラフィックを削減するため)。

エージェント構成ファイル (`agent.conf`) を変更することによって、サーバの ping の有効または無効をいつでも切り替えることができます。

サーバの ping を有効にすると、以下のフィールドが表示されます。

CA Configuration Automation サーバの名前

CA Configuration Automation サーバのサーバ名または IP アドレスを指定します。

注: IPv6 サーバの IP アドレスを入力する場合、アドレスは角かっこで囲む必要があります。例 :
[2001:db8:0:10:20e:7fff:fe61:1efa]。

CA Configuration Automation サーバのポート番号

CA Configuration Automation サーバのリスニングポート番号を指定します。

インストールプログラムによってインストールディスクに十分な容量があるかチェックされ、必要なディスク容量、およびディスクの空き容量に関するサマリが表示されます。

9. サマリを確認し、[インストール] をクリックします。

必要なファイルがターゲットサーバにコピーされ、ウィザードに進捗状況が表示されます。ファイルのコピーが完了すると、サーバの通信およびエージェント構成ファイル `agent.conf` の作成に必要な構成情報の入力が求められます。

10. [完了] をクリックします。

CA Configuration Automation エージェントインストール ウィザードが閉じられます。

CA Configuration Automation エージェントが正常にインストールされたことを確認する方法については、「[CA Configuration Automation エージェントインストールの確認 \(P. 157\)](#)」を参照してください。

Linux または UNIX への CCA エージェントのインストール

Linux または UNIX に CA Configuration Automation エージェントソフトウェアをインストールするには、以下のいずれかの方法を使用します。

- [コンソール モードを使用したインストール \(P. 70\)](#)
- [ウィザードを使用したインストール \(P. 75\)](#)

コンソール モードを使用したインストール

コマンド ラインから対話形式で CA Configuration Automation エージェントをインストールすることができます。その際、付属の Java VM を同時にインストールするかどうかを選択できます。

次の手順に従ってください:

1. root ユーザとしてログインします。

CA Configuration Automation エージェント ソフトウェアをインストールするには、root ユーザとしてログインする必要があります。

2. CA Configuration Automation エージェントインストールプログラムのあるディレクトリに移動します。例 :

```
# cd Agents/<operating_system>
```

```
<operating_system>
```

AIX、HPUX、Linux、Solaris のいずれかのオペレーティング システムを指定します。

注: このセクションの残りの部分では、Solaris サーバへの CA Configuration Automation エージェントのインストールでのプロンプトを例として使用します。エージェントのインストール手順およびプロンプトは、サポート対象のすべての Linux および UNIX で同じです。

3. 以下のコマンドのいずれかを入力します。

- 付属の Java VM と共に CA Configuration Automation エージェントをインストールする場合は、以下のいずれかのコマンドを入力します。

```
./AgentAIXVM.bin -i console  
./AgentHPUXVM.bin -i console  
./AgentLinuxVM.bin -i console  
./AgentSolarisVM.bin -i console  
./AgentSolarisIntelVM.bin -i console
```

- 付属の Java VM をインストールせずに CA Configuration Automation エージェントをインストールする場合は、以下のいずれかのコマンドを入力します。

```
./AgentAIX.bin -i console  
./AgentHPUX.bin -i console  
./AgentLinux.bin -i console  
./AgentSolaris.bin -i console  
./AgentSolarisIntel.bin -i console
```

CA Configuration Automation エージェントインストールプログラムを実行するには Java VM が必要です。 Java VM はエージェントの動作中は実行されません。 アプリケーションは既存の Java VM を検索して使用します。 このアプリケーションでは、Java VM をインストールするプログラムと Java VM をインストールしないプログラムの 2 つのエージェントインストールプログラムが提供されます。

注: 既存の Java VM が通常の場所にインストールされていない場合、インストールプログラムによって検出できない場合があります。 エージェントのインストールに失敗する場合は、Agent<OS>VM.bin を使用して CA Configuration Automation エージェントをインストールしてください。

インストールプログラムは、必要なファイルを一時作業領域に展開することによってインストールプロセスを準備します。 この準備には数分間かかる場合があります。

適切な /tmp 領域が利用できない場合、インストールプログラムは / (root ユーザのホームディレクトリ) 内の領域の利用を試みます。 インストールが正常に完了したら、プログラムは一時領域を解放します。

インストールプログラムが開始され、インストールの基本的な手順およびキャンセルの方法が記載された説明文が表示されます。以下のキー ポイントがあります。

- 前の手順に戻るには、「back」と入力します。
- インストールをキャンセルするには、「quit」と入力します。

4. Enter キーを押して続行します。

【使用許諾契約】ページが表示されます。

5. 使用許諾契約の各ページ(サードパーティのソフトウェアライセンス条項および条件も含む)を読みます。続行するには Enter キーを押します。

使用許諾契約の最後に以下のプロンプトが表示されます。

使用許諾契約の条項に同意しますか? (Y/N)

6. インストールを続行するには「Y」と入力します。

7. 重要情報のテキストを読み、Enter キーを押します。

次のプロンプトが表示されます。

この製品を次の場所にインストールします。

デフォルトのインストール フォルダ: /opt/CA/CCAAgent

絶対パスを入力するか、またはデフォルトを使用する場合は Enter キーを押してください。

8. デフォルトの場所に CA Configuration Automation エージェントをインストールするには Enter キーを押します。別の場所にインストールするにはパスを入力します。

注: デフォルトの場所をそのまま使用することを推奨します。

パス名に使用できる文字は、英数字、アンダースコア (_) 、およびスラッシュ (/) のみです (空白文字や他の特殊文字は使用できません)。指定したディレクトリが存在しない場合は、インストールプログラムによって、ディレクトリが作成されます。

インストールプログラムが実行され、インストール フォルダに必要なファイルをコピーする進捗状況が表示されます。次に、CA Configuration Automation サーバとの通信の設定およびエージェント構成ファイル (agent.conf) の作成に必要な構成情報の入力が要求されます。

CA Configuration Automation エージェントの構成情報

以下の CA Configuration Automation エージェント構成情報を入力します

CA Configuration Automation エージェント ポート番号 (デフォルト: 8063)

9. 以下のいずれかのアクションを実行します。
 - デフォルトのポートをそのまま使用する場合は Enter キーを押します。
 - 別のポート番号を入力し、Enter キーを押します。他のサービスまたは周辺機器が使用していないポート番号を使用してください。どのポートが使用中かを確認するには、別のコマンド ウィンドウで `netstat -an` コマンドを実行します。
10. 表示されたリストから、CA Configuration Automation エージェントをバインドする IP アドレスを選択します。

注: インストール プログラムで有効な IP アドレスが見つからなかつた場合は警告が表示され、CA Configuration Automation エージェントはループバック IP アドレスにバインドされます。

エージェントのログ記録を有効にするかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。

エージェント ログ記録を有効にしますか?

1- はい
2- いいえ
11. Enter キーを押してデフォルト (No) をそのまま使用するか、または「1」を入力して Enter キーを押しログ記録を有効にします。

注: スペースを節約し、セキュリティを向上させるにはログ記録を無効にします。

エージェント構成ファイル (`agent.conf`) を変更することによって、ログ記録の有効または無効を切り替えることができます。

サーバの `ping` を有効にするかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。

サーバの `ping` を有効にしますか?

1- はい
2- いいえ

12. Enter キーを押してデフォルト (No) をそのまま使用するか、または「1」を入力して Enter キーを押しサーバの ping を有効にします。

以下のような場合には、サーバ ping を有効にしないように選択することができます。

- IP アドレスおよび名前解決の競合が発生する。
- サーバに複数のネットワークインターフェースカード (NIC) がある。この場合、サーバ ping を有効にしないことにより、エージェントと目的の NIC が一致するようになります。
- CA Configuration Automation サーバとの間にファイアウォールがあるサーバ上にエージェントがインストールされている。この場合、サーバ ping を有効にしないことにより、エージェントが到達できないアドレスに ping を試行されることによって発生する不必要的ネットワークトラフィックが軽減されます。

エージェントの構成ファイル (`agent.conf`) を変更することによって、サーバ ping の有効または無効を切り替えることができます。

サーバ ping を有効にした場合、インストールプログラムによって以下の情報が求められます。

CA Configuration Automation サーバの名前

CA Configuration Automation サーバのサーバ名または IP アドレスを定義します。

注: IPv6 サーバの IP アドレスを入力する場合は、角かっこでアドレスを囲んでください。例 :

CA Configuration Automation サーバ の名前 (デフォルト :) :
[2001:db8:0:10:20e:7fff:fe61:1efa]

CA Configuration Automation サーバのポート番号

CA Configuration Automation サーバのリスニングポート番号を定義します。

インストールプログラムによってインストールディスクに十分な容量があるかチェックされ、必要なディスク容量、ディスクの空き容量、および指定されたインストールフォルダに関するサマリが表示されます。

13. サマリを確認して、Enter キーを押します。

14. Enter キーを押します。

インストールが完了すると、インストールプログラムは終了します。

CA Configuration Automation エージェントが正常にインストールされたことを確認する方法については、「[CA Configuration Automation エージェントインストールの確認 \(P. 157\)](#)」を参照してください。

ウィザードを使用したインストール

CA Configuration Automation サーバのインストールとは異なり、UNIXへの CA Configuration Automation エージェントのインストールではコンソールモードがデフォルトのインストール方法です。インストール ウィザードを使用してインストールするには、実行可能ファイルに -igui 引数を指定する必要があります。

インストール ウィザードを使用して Linux または UNIX に CA Configuration Automation エージェントをインストールする方法

1. root としてログインします。

CA Configuration Automation エージェント ソフトウェアをインストールするには root ユーザである必要があります。

2. DISPLAY 変数が正しく設定されていることを確認します。

```
# echo $DISPLAY
```

DISPLAY 変数が設定されていない場合は、実行前にこの変数を設定します。以下に例を示します。

```
# DISPLAY=<server_name/IP>:0.0  
# export DISPLAY
```

3. インストール プログラムが含まれるディレクトリに移動します。以下に例を示します。

```
# cd agent/<operating_system>  
<operating_system>
```

AIX、HPUX、Linux、Solaris のいずれかのオペレーティング システムを指定します。

4. 以下のいずれかのコマンドを入力して、CA Configuration Automation エージェントインストールプログラムを実行します。

- CA Configuration Automation エージェントと併せて付属の Java VM もインストールする場合は、以下のコマンドのうちの該当するものを入力します。

```
# ./AgentAIXVM.bin -i gui  
# ./AgentHPUXVM.bin -i gui  
# ./AgentLinuxVM.bin -i gui  
# ./AgentSolarisVM.bin -i gui
```

- CA Configuration Automation エージェントと併せて付属の Java VM をインストールしない場合は、以下のコマンドのうちの該当するものを入力します。

```
# ./AgentAIX.bin -i gui  
# ./AgentHPUX.bin -i gui  
# ./AgentLinux.bin -i gui  
# ./AgentSolaris.bin -i gui
```

CA Configuration Automation エージェントインストールプログラムを実行するには Java VM が必要です。Java VM はエージェントの動作中は実行されません。2種類の異なるエージェントインストールプログラム（Java VM をインストールするバージョン（agentvm.bin）と、Java VM をインストールしないバージョン（agent.bin））が用意されているのは、CA Configuration Automation エージェントのターゲットサーバに Java VM のいずれかのバージョンがすでにインストールされている可能性があるためです。Java VM をインストールしないバージョンは、既存の Java VM を検索して使用します。

注: インストールプログラムが一般的な場所にインストールされなかった場合、既存の Java VM が見つからない可能性があります。

agent.bin によるインストールが失敗する場合は、agentvm.bin を使用して CA Configuration Automation エージェントをインストールしてください。

インストールプログラムは、必要なファイルを一時的な作業領域に抽出することによってインストールの準備を行います。これには数分間かかる場合があります。

適切な /tmp 領域が利用できない場合、インストールプログラムは / (root ユーザのホームディレクトリ) 内の領域の利用を試みます。インストールが正常に完了すると、一時的なストレージは解放されます。

インストール ウィザードが開始され、[はじめに] が表示されます。

5. [はじめに] 画面を読み、[次へ] をクリックします。

注: ユーザがインストールをキャンセルした場合、その時点でインストールされているファイルは自動で削除されません。これらのファイルを削除するには、提供されているアンインストーラを使用します。アンインストーラは、手順 9 で指定するターゲットインストールディレクトリの中にあります。

[使用許諾契約] 画面が表示されます。

6. [使用許諾契約] を読み、[使用許諾契約の条項に同意する] を選択し、[次へ] をクリックします。

CA Configuration Automation ソフトウェアをインストールするには、使用許諾契約に同意する必要があります。

[重要情報] 画面が表示されます。

7. 著作権およびソフトウェアの使用に関する情報を読み、[次へ] をクリックします。

インストール場所の選択画面が表示されます。

8. デフォルトのインストール場所 (opt/CA/CCAAgent) をそのまま使用する場合は [次へ] をクリックします。CA Configuration Automation エージェント用の別のインストール場所を入力するか、または [選択] をクリックしてインストール場所を選択することもできます。デフォルトの場所をそのまま使用することを推奨します。

UNIX ベースのシステムでは、パス名に使用できる文字は英数字、アンダースコア (_) 、およびスラッシュ (/) のみです（空白文字や他の特殊文字は使用できません）。指定したディレクトリが存在しない場合は、インストール ウィザードによって、ディレクトリが作成されます。

必要なファイルがターゲット サーバにコピーされ、ウィザードにインストールの進捗状況が表示されます。ファイルのコピーが完了すると、サーバの通信およびエージェント構成ファイル agent.conf の作成に必要な構成情報の入力が求められます（詳細については、「[CA Configuration Automation エージェントの構成ファイル \(P. 86\)](#)」を参照してください）。

- 以下 の CA Configuration Automation エージェント構成情報の入力が求められたら、それらを入力して、[完了] をクリックします。

CA Configuration Automation エージェントのポート番号

CA Configuration Automation エージェントのリスニング ポート番号を指定します。デフォルト(ポート 8063)をそのまま使用するか、または別の一意のポート番号を入力します。他のサービスや周辺機器で使用されていないポート番号を使用してください。コマンド ウィンドウを開いて `netstat -an` コマンドを実行することによって、どのポートがすでに使用されているかを確認することができます。

エージェント バインド IP アドレス

エージェントインストールの完了後に CCA エージェントがバインドするマシンの IP アドレスを指定します。

このオプションには使用可能な IP アドレスがリスト表示されます。以下の IP アドレスは除外されます。

- IPv4 ループバック アドレス。例：127.0.0.1
- IPv6 ループバック アドレス。例：1 または 0:0:0:0:0:0:0:1
- IPv6 リンク ローカル アドレス。例：fe80:: から始まるアドレス

注：有効な IP アドレスが見つからない場合、警告メッセージが表示され、CCA エージェントはループバック IP アドレスにバインドします。

エージェント ログの有効化

エージェント ログ記録を有効にするかどうかを指定します。領域の節約やセキュリティ上の理由によってマシンへのログファイルの書き込みが好ましくない場合は、ログ記録を有効にしないこともあります。

エージェント構成ファイル(`agent.conf`)を変更することによって、エージェントのログ記録の有効または無効をいつでも切り替えることができます。

サーバ ping の有効化

サーバの ping を有効にするかどうかを指定します。以下のいずれかが当てはまる場合、サーバの ping を有効にしないこともあります。

- IP アドレスおよび名前解決の競合が発生する場合。

- サーバに複数のネットワークインターフェースカード (NIC) がある場合 (意図する NIC の識別が必要なため)。
- エージェントのインストール先のサーバと CA Configuration Automation サーバとの間にファイアウォールが存在する場合 (到達できないアドレスに ping を行うことによって生じる不要なネットワークトラフィックを削減するため)。

エージェントの構成ファイル (`agent.conf`) を変更することによって、サーバの ping の有効または無効をいつでも切り替えることができます。

サーバの ping を有効にすると、以下のフィールドが表示されます。

CA Configuration Automation サーバの名前

CA Configuration Automation サーバのサーバ名または IP アドレスを指定します。

注: IPv6 サーバの IP アドレスを入力する場合、アドレスは角かっこで囲む必要があります。例:
[2001:db8:0:10:20e:7fff:fe61:1efa]。

CA Configuration Automation サーバのポート番号

CA Configuration Automation サーバのリスニングポート番号を指定します。

[インストール前サマリ] 画面が表示されます。

10. サマリを確認して [インストール] をクリックします。

インストールが実行され、インストールが正常に行われたことが示されます。

11. [完了] をクリックします。

CA Configuration Automation エージェントインストール ウィザードが閉じられます。

CA Configuration Automation エージェントが正常にインストールされたことを確認する方法については、「[CA Configuration Automation エージェントインストールの確認 \(P. 157\)](#)」を参照してください。

エージェントのサイレントインストール

プロパティファイルを使用して、コマンドラインから CA Configuration Automation エージェントをターゲットホストに警告なしでインストールできます。たとえば、以下のような場合に、エージェントを警告なしでインストールします。

- ユーザインターフェースから CA Configuration Automation エージェントをリモートでインストールしたくない。
- ユーザインターフェースから CA Configuration Automation エージェントをリモートでインストールすることはできません。
- インストールメディアから CA Configuration Automation エージェントをインストールしたくない。

次の手順に従ってください:

1. `installer.properties` という名前の設定プロパティファイルを作成します。

`installer.properties` ファイルには以下の行が含まれている必要があります。

```
INSTALLER_UI=silent
USER_INSTALL_DIR=/opt/CA/CCAAgent
USER_INSTALL_DIR=C:¥¥Program Files¥¥CA¥¥CA Configuration
Automation Agent
AGENTBINDIPADDR=Preferred-IP-Address
AGENTLOG=1
SERVERPING=1
AGENTPORT=8063
SERVERNAME=factotum
SERVERPORT=8098
```

`INSTALLER_UI`

インストール方法を "サイレント" インストールに指定しています。

`USER_INSTALL_DIR`

ターゲットコンピュータ上のインストールディレクトリを定義します。

重要: この手順のコードサンプルには 2 つの `USER_INSTALL_DIR` 行が含まれます。エージェントホストコンピュータのオペレーティングシステムに一致する行のみを使用します。Windows では、パス区切りの円記号 (¥) に円記号をもう 1 つ付加してエスケープします。

AGENTBINDIPADDR=Preferred-IP-Address

CA Configuration Automation エージェントがバインドする IP アドレスを定義します。

注: サイレントインストールプロパティファイル、またはコマンドラインオプションから、優先される IP アドレスを指定します。

AGENTLOG

エージェントログ記録を有効または無効のどちらにするかを指定します。たとえば、セキュリティを強化したり、ストレージ容量を節約するために、エージェントログ記録を無効にできます。このパラメータの値は、以下とおりです。

1 : エージェントログ記録を有効にします。

0 : エージェントログ記録を無効にします。

エージェント構成ファイル(**agent.conf**)を変更することによって、エージェントのログ記録の有効または無効を切り替えることができます。

SERVERPING

サーバ ping を有効または無効のどちらにするかを指定します。たとえば以下の場合、サーバ ping を無効にできます。

- IP アドレスおよび名前解決の競合が発生する。
- サーバには複数のネットワーク インターフェース カード (NIC) があります。サーバ ping を無効にする場合は、サーバが目的の NIC を識別することを確認します。
- サーバと CA Configuration Automation サーバの間にファイアウォールがあるサーバ上にエージェントが存在している。この場合、アクセス不可能なアドレスに ping を実行しようとするエージェントに起因する不要なネットワーク トラフィックが減少します。

注: サーバ ping を有効にすると、CA Configuration Automation エージェント関連の詳細が正確に入力されます。

このパラメータの値は、以下とおりです。

- 1** : サーバ ping を有効にします。
- 0** : サーバ ping を無効にします。

またエージェントの構成ファイル (`agent.conf`) を変更することによっても、サーバの ping の有効または無効を切り替えることができます。

AGENTPORT

エージェントのリスニング ポート番号を定義します。

デフォルト : 8063

SERVERTNAME

CA Configuration Automation サーバ ホスト名を定義します。

SERVERPORT

CA Configuration Automation サーバのリスニング ポート番号を定義します。

デフォルト : (コンソールまたはウィザードのインストールで)
8080

2. 以下のいずれかのユーザとして、ターゲットインストールホストにログインします。

UNIX : root ユーザとしてログインします。

Windows : 管理者または管理権限を持つ別のユーザとしてログインします。

3. CA Configuration Automation サーバホスト上の CA ソフトウェインストールディレクトリで、エージェントのインストール対象のオペレーティングシステム用のエージェントインストーラを見つけます。

デフォルトの位置に CA Configuration Automation サーバをインストールした場合、エージェントインストーラおよびプロパティファイルは以下のディレクトリにあります。

UNIX の場合 : /opt/CA/CCAServer/Agent_Installers/<operating_system>

Windows の場合 : ¥Program Files¥CA¥CCA

Server¥Agent_Installers¥<operating_system>

<operating_system>

オペレーティングシステム (AIX、HPUX、Linux、Solaris、または Windows) を定義します。

インストールディレクトリでの環境変数の使用に関して、以下の標準を検討してください。

- インストールディレクトリでは、以下のパターンを環境変数に使用します。 InstallAnywhere 標準は、次のパターンを定義します。

\$lax.nl.env.exact_case.<VARIABLENAME>\$

<VARIABLENAME>

ターゲットシステムで定義される環境変数を指定します。

例:

- アクセスプロファイル内の
\$lax.nl.env.exact_case.ProgramFiles\$ として、ターゲットシステム上の %ProgramFiles% 環境変数を参照します。
- アクセスプロファイル内の
\$lax.nl.env.exact_case.ProgramFiles\$¥CA¥CCAAgent として、
C:¥Program Files¥CA¥CCAAgent インストールパスを定義します。
- CCA エージェントインストール用のターゲットシステムで特定の環境変数が定義されることを確認します。

エージェントインストールパスおよび環境変数は \$ 文字をサポートしません。 \$ 文字を使用する場合は、InstallAnywhere 標準に従います。

4. エージェントインストーラ (AgentWindowsVM.bin など) 、および作成したプロパティファイルを、ターゲットホスト上の任意の場所にコピーします。

5. エージェントインストーラおよびプロパティ ファイルをコピーしたディレクトリに移動し、適切な CA Configuration Automation エージェントインストール プログラムを実行します。

UNIX:

コマンドラインからの以下のいずれかのコマンドを実行します。

- エージェントおよび付属の Java VM をのインストールする：

```
# sh ./Agent<operating_system>VM.bin -f  
installer.properties -i silent
```

- エージェントのみインストールする：

```
# sh ./Agent<operating_system>.bin -f installer.properties  
-i silent
```

Windows の場合

コマンド ウィンドウで以下のいずれかのコマンドを実行します。

- 32 ビットのエージェントおよび付属する Java VM をインストールする：

```
C:>tmp>AgentWindowsVM.exe -f installer.properties -i  
silent
```

- 32 ビットのエージェントのみインストールする：

```
C:>tmp>AgentWindows.exe -f installer.properties -i silent
```

- 64 ビットのエージェントおよび付属する Java VM をインストールする：

```
C:>tmp>AgentWindows64VM.exe -f installer.properties -i  
silent
```

- 64 ビットのエージェントのみインストールする：

```
C:>tmp>AgentWindows64.exe -f installer.properties -i  
silent
```

6. エージェントをインストールした場所に

CCA_Agent_<operating_system>_InstallLog.log ファイルが存在することをチェックし、CA Configuration Automation エージェントのサイレントインストールが完了したことを確認します。

デフォルトの場所を使用して CA Configuration Automation エージェントをインストールした場合、インストールディレクトリは以下のいずれかの場所にあります。

UNIX:

/opt/CA/CCAAgent

Windows の場合

C:\Program Files\CA\CA Configuration Automation Agent

CCA エージェントの構成ファイル

CA Configuration Automation エージェントをインストールすると、`agent.conf` と呼ばれるエージェント実行時構成ファイルがインストールプロセスによって作成されます。

推奨されるデフォルトの場所を使用して CA Configuration Automation エージェントをインストールした場合、`agent.log` は以下のディレクトリに作成されます。

- Linux および UNIX の場合 : /opt/CA/CCAAgent
- Windows の場合 : \Program Files\CA\CCA Agent

CA Configuration Automation エージェント構成ファイルを変更する主な理由として、ユーザが CCA サーバを別のサーバにインストールした場合、企業内で通信ポートが変更された場合、またはログに記録するエージェントエラーおよびメッセージ情報をより詳細なものにする場合があります。 CA Configuration Automation エージェント構成ファイルの構成変更が必要な場合、CA Configuration Automation ソフトウェアを再インストールせずに行うことができます。

`agent.conf` ファイルのデフォルト設定では、エラーメッセージのみをログ記録します。`verbose=1` エントリを `verbose=3` または `verbose=4` に変更してより詳細な情報を参照することも、`verbose=0` にしてログ記録しないようにすることもできます。

エージェント構成ファイルを変更する別の理由として、CA Configuration Automation エージェントと CCA サーバ間で発生するハートビート (ping) アクティビティを無効化する必要がある場合があります。 CA Configuration Automation エージェントが特定の IP ルーティングまたはファイアウォール設定で CCA サーバと直接通信できない場合、ハートビートを無効にして CCA サーバの構成ファイル (`cendura.properties`) で CA Configuration Automation エージェントを手動で構成できます。

ハートビートを無効にするには、`server =<server_name:port_number>` をコメントアウトします。たとえば、以下のようにします。

```
# server=minglewood:8099
```

`agent.conf` ファイルに変更を加えた後、変更を有効にするには Configuration Automation エージェントを停止して再起動します。

サンプル agent.conf ファイル

```
#  
# CA Configuration Automation エージェントの構成ファイル  
  
# インストール済みエージェント バージョンは *編集しないでください*  
agentversion=12.5  
  
# エージェントがリスンするポート  
port=8063  
  
# 固定ポートをリスン = 1  
# 代替ポートを試行 = 0  
portfixed=  
  
# エージェントの登録先の CCA サーバ  
# server=servername:portnumber  
# fullserver=http://servername:8080//CCA/services/agentPort  
server=:  
  
# サーバへ通信する HTTP プロキシ  
# httpproxy=proxyservername:portnumber  
  
# エージェント ログ ファイル (デフォルト： エージェントがインストールされているディレクトリ)  
# logfile=agent.log  
  
# エージェント ログ ファイルのサイズ (デフォルト 1MB)  
# logsize=1000000  
  
# ネットワーク ドライブを常に組み込む (デバッグへ)  
# netdrive=1  
  
# ログの詳細レベル 0 = ログなし, 1 = エラー, 2 = 情報,  
# 3, 4 さらに詳細なログ  
verbose=0  
  
# ping 間隔 (秒) (エージェントからサーバ)  
interval=3600  
  
# エージェント優先度を低くする? : (0 = いいえ, 1 = はい)  
priority=0  
# この呼び出し回数ごとに再起動  
restart=1000  
  
# マシンごとのエージェントのインスタンスを 1 つだけにする  
oneinstance=0  
  
# エージェントが使用するスレッド数
```

```
# 必要な最小スレッド数=8
# threads=

# 一時ディレクトリ
tempdir=tmp

# 保護モード
# 0 = オフ
# 2 = 暗号化によるエージェント認証,
# 4 = 暗号化によるエージェントおよびサーバ認証
secure=0

# 信頼済みサーバ証明書が含まれるファイルの名前
trustFile=cca.cer

# エージェント証明書（キー）が含まれるファイルの名前
agentCert=agent.cer

# エージェント証明書ファイルにアクセスするパスワード
agentCertPassword=changeit

# 認可されたサーバのリスト（カンマ区切り）。プロパティが設定されないか、設定値が
# ブランクである場合、アクセス制御は無効になり、すべての CCA サーバがこのエージェントにアクセス可能になります。
authorizedServers=
```

第 6 章: コマンドライン インターフェースによるインストール

CA Configuration Automation にはコマンドラインインターフェース (CLI) が用意されています。これを利用することによって、サーバ関連およびサービス関連のリフレッシュ、スナップショット、変更の検出、ルールコンプライアンスの処理を、スクリプトやインフラストラクチャ内の他の管理プロセスに組み込むことができます。また、CLI を使用することによって、レポート、インポートなどの管理操作を行うこともできます。

CLI のメインの実行可能ファイル (ccauil) は、CA Configuration Automation エージェントをインストールすると、インストール先のトップレベルディレクトリに自動でインストールされます。また、既存のスクリプトやプロセスに統合するため、ccauil 実行可能ファイルを任意のサーバにコピーすることもできます。

別の実行可能ファイル `ccafutil` は、サーバに新しくインストールされたアプリケーションの影響をキャプチャします。この情報は、そのアプリケーションためのコンポーネントブループリントの作成に使用されます。これら 2 つの実行可能ファイルのドキュメントは「製品ガイド」(`CCA_ProdGuide_JPN.pdf`) として提供されています。

CLI は、CA Configuration Automation エージェントがサポートしているすべてのプラットフォーム上で実行されます。プラットフォームおよびバージョンのサポートの詳細については、リリースノートを参照してください。

注: CLI を使用する前に、CA Configuration Automation のユーザインターフェースに少なくとも 1 回はログインし、ユーザ認証情報を認証する必要があります。

第 7 章: CCA グリッド ノードのインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[グリッド ノードの概要 \(P. 91\)](#)

[Windows へのグリッド サーバのインストール \(P. 92\)](#)

[Linux または UNIX への CCA グリッド サーバのインストール \(P. 96\)](#)

グリッド ノードの概要

グリッド処理は、複数のグリッド ノードに処理の負荷を分散させてパフォーマンスを向上させるために使用されます。 CA Configuration Automation の処理はグリッドに対応しており、独立した実行可能エンティティに処理を分割することができます。これらの実行可能エンティティは、利用可能なグリッド サーバ、グリッド ノード、およびスレッドに分散して実行されます。1 台のサーバで複数のスレッドを使用して、複数の CCA グリッド ノードをサポートすることができます。

CCA サーバではマスタ グリッド ノードがインストールされます。他のグリッド ノードとは異なり、マスタ グリッド ノードは最大で 10 個のジョブを同時処理するように構成されています。追加のグリッド ノード(グリッド ノードインストール プログラムによってインストールされたもの)は、最大で 20 個のジョブを処理するように設定されています。マスタ グリッド ノードの値の方が小さく設定されているのは、他の UI アクティビティ用のリソースを確保しておくためです。

グリッド ノードは、インストール中に定義されたポート範囲内（デフォルトではポート 8065 ~ 8080）で相互に通信を行います。このポート範囲は CCA サーバ UI の [環境管理] パネルの [プロパティ] ページでも指定できます。ポートは、`tcp.base.port` および `tcp.base.range` プロパティとしてリストされます。

グリッド ノード サーバの開始時に、グリッド間通信用のソケットが作成されます。 CA Configuration Automation は、グリッド ノードの使用状況に基づいて、タスクを実行するグリッド ノードを選択します。特定のグリッド ノードを指定してタスクを実行したり、[管理プロファイル] とグリッド ノードを組み合わせたりすることはできません。

CCA グリッドノードは Linux、UNIX および Windows のプラットフォームでサポートされており、各プラットフォーム専用のインストールプログラムがあります。CCA グリッドノードをインストールし、CCA サーバに登録した後は、グリッド処理は CA Configuration Automation ユーザには不可視になります。

追加のグリッドノードをインストールする場合は、管理対象サーバと CCA データベース サーバとの間に配置してください。グリッドノードは JDBC 接続を使用して CCA データベースと通信を行います。グリッドノードサーバは、管理対象サーバにインストールされた CA Configuration Automation エージェントと通信を行います。CA Configuration Automation エージェントがコンポーネントディスカバリまたはリフレッシュ操作に使用されていない場合は、グリッドノードは管理対象サーバ上で WMI、SSH、Telnet、または Web サービス コマンドを使用できます。

注:

- Windows 管理対象サーバ上で CA Configuration Automation エージェントを使用せずにコンポーネントのディスカバリを行うことを想定している場合は、1つ以上のグリッドノードまたは CCA サーバが Windows にインストールされている必要があります。
- グリッドノードサービスまたは CCA サーバサービスが Windows ドメインにインストールされている場合は、「サービスとしてログオン」権限を持つドメインユーザーで実行するよう構成する必要があります。
- ハードウェアでサポートされていれば、2つのグリッドノードインスタンスを単一のサーバ上で実行することができます。

[Windows へのグリッド サーバのインストール](#)

CA Configuration Automation サーバをインストールしたら、グリッドサーバをインストールします。グリッドサーバは、ディスカバリ、比較、変更検出およびルール コンプライアンスなどの複雑な CA Configuration Automation 操作の作業負荷のバランスングを行います。

次の手順に従ってください:

1. CA Configuration Automation インストールメディアの **dvd1** フォルダを開き、**setup.exe** をダブルクリックします。
2. CCA セットアップ画面で [CCA グリッドノードインストール ウィザードを実行] リンクをクリックします。

3. インストール ウィザードの [はじめに] ページで [次へ] をクリックします。
4. [使用許諾契約] ページで、契約をスクロールして確認し、[使用許諾契約の条項に同意する] を選択して [次へ] をクリックします。
5. [Windows サービス設定] ページで、以下のいずれかのオプションをクリックします。このオプションでは、Windows Management Instrumentation (WMI) サービスを使用して Windows Softagent ディスクバリを行った際に、Windows サーバにアクセスするために Grid Node サービスが使用する認証情報を定義します。

ローカルシステムアカウント

Windows Softagent ディスクバリ用に現在のホストシステム上で発行された認証情報を使用します。

注: インストールプログラムは、[デスクトップとの対話をサービスに許可] オプションを使用しません。

このアカウント

NDG がドメイン内の Windows Server 2008 と Vista コンピュータを検出する必要がある場合は、Windows ドメインユーザアカウントおよび対応するパスワードを指定します。これらの Windows オペレーティングシステムに含まれる WMI サービスでは、管理ドメインユーザが接続を確立する必要があります。

注: [このアカウント] フィールドに指定するユーザアカウントの情報については、「[Windows オペレーティングシステム用の WMI アクセス \(P. 171\)](#)」内のテーブルを参照してください。これらのテーブルには、Windows 環境での、WMI を使用するリモートホストマシンへの NDG アクセスに関する情報が含まれています。

6. [インストールフォルダの選択] ページで、以下のいずれかを実行します。
 - [次へ] をクリックしてデフォルトのインストールフォルダ (C:\Program Files\CA\CCA Grid Node) を使用する。
 - 別のインストールフォルダに入力または参照して、[次へ] をクリックする。

7. [データベース構成] ページで以下のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

データベース タイプ

CA Configuration Automation データベース が使用するデータベース のタイプを定義します。

サーバ名

CA Configuration Automation データベース サーバの名前または IP アドレスを定義します。

IPv6 アドレスについては、最大拡張形式のアドレス、および最大圧縮形式のアドレスがサポートされています。IPv6 のリンク ローカル アドレスはサポートされていません。

ポート番号

データベースのリスニング ポート番号を定義します。以下のいずれかのアクションを実行します。

- デフォルトのポート番号を使用する。
- データベース ソフトウェアをインストールしたときに、ベンダーが推奨するデフォルトのポート番号を使用しなかった場合は、別のポート番号を入力する。

デフォルト:

- **Oracle** : 1521
- **Microsoft SQL Server** : 1433

インスタンス名

(Microsoft SQL Server のみ) CA Configuration Automation データベース 用のデータベース インスタンスを定義します。

デフォルト : MSSQLSERVER

サービス名

(Oracle のみ) CA Configuration Automation データベース 用の Oracle データベースのシステム識別子 (インスタンス名) を定義します。

デフォルト : ORCL

データベース名

CA Configuration Automation データベース の名前を定義します。

デフォルト : cca

データベース ユーザ

CA Configuration Automation データベース のスキーマを作成または更新する権限を持つユーザ名を定義します。

デフォルト : cca

データベース ユーザ パスワード

指定した [データベース ユーザ] の値に関連付けるパスワードを定義します。 [パスワードの再入力] フィールドにパスワードを再度入力します。

8. [インストール前サマリ] ページで入力内容を確認し、 [インストール] をクリックします。

インストールが開始されます。インストールが完了すると [インストール完了] ページが表示され、 CA Configuration Automation グリッドノードが正常にインストールされたことが示されます。

9. [完了] をクリックします。

インストール ウィザードが閉じます。

Linux または UNIX への CCA グリッド サーバのインストール

CA Configuration Automation サーバをインストールしたら、グリッドサーバをインストールします。グリッドサーバは、ディスカバリ、比較、変更検出およびルールコンプライアンスなどの複雑な CA Configuration Automation 操作の作業負荷のバランスングを行います。コンソールモードを使用して、コマンドラインから CCA グリッドノードを Linux または UNIX に対話的にインストールすることができます。

次の手順に従ってください:

1. ターゲットサーバのターゲットインストールディレクトリへの書き込み権限を持ち、ソフトウェアのインストールが許可されたユーザとしてログインします。
2. お使いのオペレーティングシステム用のインストールプログラムが含まれるディレクトリに移動します。例 :

```
$ cd /dvd1/CCA/Gridnode/<operating_system>  
<operating_system>
```

オペレーティングシステムを指定します。Linux または Solaris のいずれかです。

注: このセクションの残りの部分では、Solaris サーバへのインストールでのプロンプトを例として使用します。インストール手順およびプロンプトは Linux でも同じです。

3. 以下のコマンドを入力します。

```
$ ./installgridnode.bin -i console
```

インストールプログラムは、必要なファイルを一時作業領域に展開することによってインストールプロセスを準備します。この準備には数分間かかる場合があります。

適切な /tmp 領域が利用できない場合、インストールプログラムはユーザ ホームディレクトリ内の領域の利用を試みます。たとえば、root ユーザとしてログインしている場合は、インストールプログラムは一時的な作業領域として / を使用します。インストールが正常に完了したら、プログラムは一時領域を解放します。

インストールプログラムが開始され、インストールの基本的な手順およびキャンセル方法が示されます。以下のキー ポイントがあります。

- 前の手順に戻るには、「back」と入力します。
- インストールをキャンセルするには、「quit」と入力します。

注: インストールをキャンセルした場合、インストールされたファイルは自動的に削除されません。これらのファイルを削除するには、提供されるアンインストーラを使用します。アンインストーラは、手順 7 で指定するターゲット インストール ディレクトリの中にあります。

4. Enter キーを押してインストールを続行します。

[使用許諾契約] ページが表示されます。

5. 使用許諾契約の各ページ（サードパーティのソフトウェアライセンス条項および条件も含む）を読みます。続行するには Enter キーを押します。

使用許諾契約の最後に以下のプロンプトが表示されます。

使用許諾契約の条項に同意しますか? (Y/N)

6. インストールを続行するには「Y」と入力します。

次のプロンプトが表示されます。

インストール先を指定してください。

デフォルトのインストール フォルダ: /opt/CA/CCAGridNode

絶対パスを入力するか、またはデフォルトを使用する場合は Enter キーを押してください。

7. 推奨されるデフォルトの場所を使用する場合は **Enter** キーを押します。または、別の場所へのパス名を入力します。

インストールプログラムでパス名に使用できる文字は、英数字、アンダースコア（_）、およびスラッシュ（/）のみです（空白文字や他の特殊文字は使用できません）。指定したディレクトリが存在しない場合は、インストールプログラムによって、ディレクトリが作成されます。

使用するデータベース サーバのタイプを入力するプロンプトが表示されます。

データベース構成

1- SQL Server

2- Oracle

データベース タイプ：

8. 使用するデータベースに対応する数字を入力し、**Enter** キーを押します。

データベース タイプの選択を確認し、データベース サーバ名を指定するように要求されます。

データベース タイプ： 1

サーバ名（デフォルト： localhost）：

9. 以下のいずれかのアクションを実行します。

- 選択したデータベースがインストールされているサーバ名または IP アドレスを入力し、**Enter** キーを押します。
- グリッドノードをインストールしているサーバ上にデータベースがある場合は、**Enter** キーを押します。

注: IPv6 アドレスについては、最大拡張形式のアドレス、および最大圧縮形式のアドレスがサポートされています。リンク ローカル IPv6 アドレスはサポートされていません。

インストールプログラムによって、データベースのリスニング ポート番号が要求されます。

ポート番号（デフォルト： 1433）：

デフォルト：

- Oracle : 1521
- Microsoft SQL Server : 1433

10. 以下のいずれかのアクションを実行します。

- デフォルトのポートをそのまま使用する場合は **Enter** キーを押します。
- データベース インストール中にベンダーによって推奨されるデフォルト値以外を使用した場合は、正しいポート番号を入力して **Enter** キーを押してください。

SQL Server データベースを使用している場合、プログラムはデータベース インスタンスを指定するようユーザに要求します。

インスタンス名（デフォルト： MSSQLSERVER）：

Oracle データベースを使用している場合、プログラムはサービス名を指定するようユーザに要求します。

サービス名（デフォルト： ORCL）：

11. データベース タイプに応じて、以下のいずれかを実行します。

Microsoft SQL Server

デフォルトのインスタンス名をそのまま使用して **Enter** キーを押すか、または別の名前を入力して **Enter** キーを押します。

Oracle

デフォルトのサービス名をそのまま使用して **Enter** キーを押すか、または別の名前を入力して **Enter** キーを押します。

12. (Microsoft SQL Server のみ) **Enter** キーを押してデフォルトのデータベース名をそのまま使用するか、または別のデータベース名を入力して、**Enter** キーを押します。

プログラムによって、データベース ユーザ名を指定するように要求されます。

データベース ユーザ（デフォルト： cca）：

13. CA Configuration Automation データベース のユーザ名を入力して **Enter** キーを押すか、またはデフォルトの CA Configuration Automation データベース ユーザをそのまま使用する場合は **Enter** キーを押します。

プログラムによって、データベース ユーザ パスワードを指定するように要求されます。

データベース ユーザ パスワード：

14. パスワードを入力し、**Enter** キーを押します。

プログラムによってパスワードを確認するように要求されます。

パスワードの再入力：

15. パスワードを再入力し、**Enter** キーを押します。

[インストール前サマリ] 画面が表示されます。

16. 入力内容を確認し、**Enter** キーを押します。

インストールが開始されます。完了すると、インストールプログラムによってグリッド ノードが正常にインストールされたことが確認されます。

17. **Enter** キーを押します。

インストールプログラムが終了します。

第 8 章: CA Configuration Automation ソフトウェアのアップグレード

この章では、CA Configuration Automation サーバ、CA Configuration Automation エージェント、および CCA グリッドノードのソフトウェアをアップグレードする方法について説明します。

CA Configuration Automation ソフトウェアのアップグレードを行う前に、以下のドキュメントを参照してください。

- リリース固有の情報に関しては、「CA Configuration Automation Readme」
- 現行のシステム要件およびサポートされる環境に関しては、このドキュメントの「システム要件」セクション

CA Configuration Automation ソフトウェアのアップグレードを行う前に、CA EEM をアップグレードまたはマイグレートしてください。

CA EEM のアップグレードまたはマイグレート方法の詳細については、CA EEM ドキュメントを参照してください。

別のサーバに CA EEM をマイグレートする場合は、新しい CA EEM サーバで以下の EEM グループプロパティを更新します。

- eventdeliveryhost
- host

プロパティは、[管理者] パネルの下の [構成] タブで更新できます。

注: CA Configuration Automation ソフトウェアのダウングレード（より新しいバージョンの CA Configuration Automation に対して以前のバージョンをインストールすること）はサポートされていません。以前のバージョンのソフトウェアをインストールする場合、ソフトウェアをアンインストールして再インストールしてください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[アップグレードの概要 \(P. 102\)](#)

[Windows での CCA サーバのアップグレード \(P. 106\)](#)

[Windows で CCA エージェントをアップグレード \(P. 112\)](#)

[Linux または UNIX での CCA サーバのアップグレード \(P. 116\)](#)

[Linux または UNIX での CCA エージェントのアップグレード \(P. 127\)](#)

[Windows での CCA グリッドノードのアップグレード \(P. 138\)](#)

[Linux または UNIX での CCA グリッドノードのアップグレード \(P. 140\)](#)

アップグレードの概要

ソフトウェアのアップグレードは、初めてサーバに CA Configuration Automation ソフトウェアをインストールするときに使用するのと同じインストールプログラムまたはウィザードを使用して実行されます。

ユーザがインストールする場所を指定した後、CA Configuration Automation はその場所に CA Configuration Automation サーバおよび CA Configuration Automation エージェントがインストールされているかを確認し、既存の構成ファイル (`cca.properties` および `agent.conf`) の構成設定を使用して、ソフトウェアを現在のバージョンにアップグレードします。

アップグレード中に、以下のファイルの動作を把握することが重要です。

cca.properties

アップグレードのインストーラは、ソフトウェアのアップグレードのたびに、`cca.properties` 構成ファイルのコピーを作成するため、前の CA Configuration Automation 構成を追跡できます。 ファイルの各コピーにはタイムスタンプ (`cca.properties.<time_stamp>`) が付いています。

推奨されるデフォルトの場所を使用して、CCA サーバをインストールした場合、これらの構成ファイルは以下のディレクトリに置かれます。

- (Linux および UNIX) /opt/CA/CCAServer/tomcat/conf
- (Windows) ¥Program Files¥CA¥CCA Server¥tomcat¥conf

アップグレードのインストーラは、新しい設定パラメータを格納する新しい `cca.properties` ファイルを作成し、そのパラメータを既存の `cca.properties` ファイルに保持してマージします。

注: 特にファイルを広範に変更する場合、任意のソフトウェアのアップグレードの前に、このような重要な構成ファイルのコピーを手動で作成することをお勧めします。

最後に、アップグレードインストーラはさらに、新しく作成した構成ファイル (`cca.properties.bk`) の追加のバックアップコピーを作成し、そのコピーは他の `cca.properties` と同じディレクトリに置かれます。 アップグレードインストーラは、既存の `cca.properties` を見つけられない場合、アップグレード中にこのバックアップファイルを検索して使用します。 このバックアップファイルは単に作成時の `cca.propertiesfile` の静的なコピーであり、作成後に元の `cca.properties` ファイルに行った変更は含まれないことに注意してください。

LICENSE

アップグレードインストーラは既存の LICENSE ファイルを上書きします。新しいライセンスにより、CCA はサーバをいくつでも管理することが可能となり、修復を有効にします。

デフォルトの位置を使用して CCA サーバをインストールする場合、ライセンスファイルは以下のディレクトリのうちの 1 つに置かれます。

- (Linux および UNIX) /opt/CA/CCAServer
- (Windows) ¥Program Files¥CA¥CCA Server

CCA Server.lax

以前に CCA サーバを Windows サービスとしてインストールした場合、アップグレードでは特定の CCA Server.lax プロパティ ファイルのエントリのみが保持されます。

デフォルトのインストールディレクトリを使用した場合、CCA Server.lax ファイルは ¥Program Files¥CA¥CCA Server に置かれます。

場所、セキュリティ、ヒープ サイズ、他の環境プロパティなどに加えられる可能性のある変更を把握するために、アップグレードでは、以下のエントリの値が保持されます。

- java.security.auth.policy
- java.security.policy
- lax.class.path
- lax.command.line.args
- lax.dir
- lax.nl.java.option.additional
- lax.nl.java.option.java.heap.size.initial
- lax.nl.java.option.java.heap.size.max
- lax.nl.valid.vm.list
- lax.nl.win32.microsoftvm.min.version
- lax.root.install.dir
- lax.stderr.redirect
- lax.stdin.redirect
- lax.stdout.redirect
- org.apache.tomcat.apps.classpath
- tomcat.home

アップグレードではどんな新しいプロパティも追加し、以下の内部で使用されるエントリには、インストール時のデフォルトを使用します。

- lax.service .name
- lax.main.class
- lax.main.method

- lax.nl.current.vm
- lax.nl.java.launcher.main.class
- lax.nl.java.launcher.main.method
- lax.user.dir
- lax.version

server.xml

新規の `server.xml` ファイルは、CCA サーバの各アップグレード中に作成されます。アップグレードインストーラでは、このファイルのコピーを作成せず、保持もしません。

推奨されるデフォルトの場所を使用して、CCA サーバをインストールした場合、`server.xml` ファイルは以下のディレクトリに置かれます。

- (Linux および UNIX) /opt/CA/CCAServer/tomcat/conf
- (Windows) ¥Program Files¥CA¥CCA Server¥tomcat¥conf

インストールの後に `server.xml` ファイルに変更を加えている場合は、アップグレードの前に手動でファイルのコピーを作成します。アップグレードの完了後に、新しくインストールされたファイルに変更を再適用します。

注: HTTPS を使用して、CCA サーバのユーザインターフェースへのアクセスが確保された場合には、`server.xml` ファイルはインストール後に変更されます。

agent.conf

エージェント ソフトウェアをアップグレードするたびに、そのアップグレードで CA Configuration Automation エージェントの構成ファイル (`agent.conf`) のコピーが作成されます。 ファイルの各コピーには、タイムスタンプ (`agent.conf.<time_stamp>`) が付いています。

推奨されるデフォルトの場所を使用して CA Configuration Automation エージェントをインストールした場合、これらの構成ファイルは以下のディレクトリに置かれます。

- (Linux および UNIX) /opt/CA/CCAAgent
- (Windows) ¥Program Files¥CA¥CA Configuration Automation Agent

アップグレード インストーラは、新しい設定パラメータに取り込む新規 `agent.conf` ファイルを作成し、既存の `agent.conf` ファイル内にパラメータ値を保持してマージします。

注: 特にファイルを広範に変更した場合、ソフトウェアアップグレードの前に、常に重要な構成ファイルのコピーを手動で作成することをお勧めします。

最後に、アップグレード インストーラは、さらに新しく作成された構成ファイル (`agent.conf.bk`) のバックアップ コピーを作成し、このコピーは他の `agent.conf` ファイルのと同じディレクトリ内に置かれます。アップグレード インストーラは、既存の `agent.conf` を見つけることができない場合には、アップグレード中にこのバックアップ ファイルを検索して使用します。 このバックアップ ファイルは、作成時の `agent.conf` ファイルの静的なコピーで、作成後に元の `agent.conf` ファイルに加えられた変更は含まれません。

Windows での CCA サーバのアップグレード

インストール ウィザードを使用する Windows オペレーティング システムでは、CA Configuration Automation サーバ ソフトウェアのみをアップグレードできます。

ウィザードを使用するアップグレード

ウィザードを使用して、Windows で CA Configuration Automation サーバをアップグレードする方法

1. administrator または管理者権限を持つユーザとしてログインします。
2. ¥server¥windows フォルダ内の installCCAServer.exe をダブルクリックします。

インストールプログラムは、必要なファイルを一時的な作業領域に抽出することによってインストールの準備を行います。これには数分間かかる場合があります。インストールが正常に完了した後、またはキャンセルされた後、一時的なストレージが解放されます。

ウィザードが開始され、[はじめに] が表示されます。

3. [はじめに] 画面を読み、[次へ] をクリックします。

注: その時点までにすでにインストールされたファイルは自動で削除されず、部分的な CCA データベースの更新で、予期せぬ結果が生じる可能性があるため、開始した後アップグレードはキャンセルしないことをお勧めします。アップグレードを完了する予定の場合のみ続行します。

[使用許諾契約] 画面が表示されます。

4. [使用許諾契約] を読み、[使用許諾契約の条項に同意する] を選択し、[次へ] をクリックします。

CA Configuration Automation ソフトウェアをアップグレードするには、使用許諾契約に同意する必要があります。

[重要情報] 画面が表示されます。

5. 著作権およびソフトウェアの使用に関する情報を読み、[次へ] をクリックします。

インストール場所の選択画面が表示されます。

6. 元の CCA サーバソフトウェアが存在する場所のパスを入力するか、**Enter** キーを押してデフォルトを使用するか、または [選択] をクリックして場所を選択します。初期インストールに対して推奨されるデフォルトの場所は ¥Program Files¥CA¥CCA¥Server です。

注: インストール ウィザードを使用してソフトウェアをアップグレードするためには、元のインストールと同じ場所を指定する必要があります。既存の CCA サーバのインストールとは異なるパスを指定する場合、CA Configuration Automation は既存のソフトウェアを検出せず、アップグレードの代わりに新しく個別のインストールを作成します。

CA Configuration Automation は、指定された場所にインストールされた、旧バージョンのソフトウェアを検出し、[インストール済みの製品が存在します] ダイアログ ボックスが表示されます。

7. アップグレードを続行するには、[続行] をクリックします。

[Java 仮想マシン] 画面が表示されます。

8. 以下のいずれかを実行します。

- カスタマイズされた Java VM をインストールには、CA Java VM を使用を選択し、[次へ] をクリックします。
- 独自の Java VM を選択を選択し、使用する Java VM の場所を指定し、[次へ] をクリックします。

注: インストールプログラムでは、国内の暗号化を使用するため、指定の Java VM バージョンをインストールすることが推奨されます。この暗号化は強力で、CCA データベースに格納されるデータに利用可能です。インストール済みである既存の Java VM を使用する場合、バージョンが 1.5.0_03 以降であることを確認します。

インストールプログラムによって、インストールディスクに十分な容量があるかチェックされます。必要なディスク容量、およびディスクの空き容量に関するインストール前のサマリが表示されます。

9. インストール前のサマリを確認して、[インストール] をクリックします。

CCA サーバを Windows サービスとして登録するプロンプトが表示されます。CCA サーバを Windows サービスとしてセットアップする利点は、以下の通りです。

- Windows を再起動する場合は常に、CCA サーバは自動で起動します。
- [管理ツール] - [サービス] で、CCA サーバの開始操作と停止操作がコントロールできます。

注: Windows サーバ上に複数の CCA サーバをインストールする場合、サーバのインストールのうちの 1 つのみを Windows サービスとして実行することができます。詳細については、「Single CCA Server Service per Windows Server」を参照してください。

CCA サーバを Windows サービスとしてインストールしない場合、コンソール ウィンドウが起動され、CCA サーバの実行中は、開いたままにしておく必要があります。このウィンドウを最小化することはできますが、閉じることはできません。

10. CCA サーバをサーバとしてセットアップするかどうかを指定するには、[はい] または [いいえ] をクリックします。

注: [Windows サービス管理ツール] が開いていないことを確認します。そうしないと、CCA サーバは Windows サービスとして登録されません。

必要なファイルがターゲット サーバにコピーされると、ウィザードにはインストールの進捗状況が表示され、終了すると通知されます。

11. [次へ] をクリックします。

CCA サーバの構成情報の画面が表示され、元のインストールで指定された構成設定が表示されます。

12. CCA サーバの構成設定を確認して、[次へ] をクリックします。

注: インストール ウィザードを使用して、ソフトウェアをアップグレードする場合、既存の CCA サーバの設定を編集することはできません。構成フィールドのいずれかを変更する場合、ソフトウェアをアンインストールして再インストールする必要があります。

CCA サーバの構成設定を以下に示します。

CCA サーバ名

CCA サーバ名を指定します。ソフトウェアをインストールしているサーバの、デフォルトの名前です。

管理者の電子メール アドレス

CA Configuration Automation 管理者の電子メール アドレスを指定します。

CCA ポート番号

CCA サーバのリスニング ポート番号を指定します。

AJP ポート番号

Apache Jakarta Project (AJP) の接続ポート番号を指定します。

メール サーバ名

メール サーバ名を指定します。

[次へ] をクリックすると、[データベース構成] 画面が表示されます。

13. ソフトウェアのアップグレードに関するデータベース構成の注意事項を読み、[次へ] をクリックします。

[データベースタイプ] 画面が現れ、元のインストールで選択されたデータベースタイプが表示されます。

14. データベースタイプの選択内容を確認して、[次へ] をクリックします。

CCA データベースインスタンス構成の画面が表示されます。

15. 元のインストールで指定された CCA データベース構成の設定を確認し、[完了] をクリックします。

注: インストール ウィザードを使用してソフトウェアをアップグレードする場合、既存の CCA データベースの設定を編集することはできません。構成フィールドのいずれかを変更する場合、ソフトウェアをアンインストールして再インストールする必要があります。

CCA データベース構成の設定を以下に示します。

CCA ユーザ

CCA データベースを作成またはロードする権限のあるユーザ名を指定します。

CCA User Password

前のフィールドで指定された CCA データベース ユーザの非表示パスワードを指定します。

Oracle SID

(Oracle のみ) CCA データベースとして Oracle を使用する場合は、Oracle データベースのシステム識別子（インスタンス名）を指定します。

CCA データベース インスタンス名

(Microsoft SQL Server のみ) データベース インスタンス名を指定します。

サーバ名

CCA データベースが置かれているサーバの名前を指定します。

ポート番号

データベースのリスニング ポート番号を指定します。

ウィザードは、ソフトウェアの更新を完了すると、新規の CCA サーバの構成ファイル (`cca.properties`) を作成します。（詳細については、「CCA サーバの構成ファイル」を参照してください。）

ウィザードで、CCA サーバを起動するように要求されます。

16. CCA サーバを起動するには、[はい] をクリックします。

ウィザードによって CCA サーバのアップグレードが正常に行われたことが示されます。

17. CCA サーバのインストール ウィザードを閉じるには、[完了] をクリックします。

注: エージェントソフトウェアの以前のリリースは、CCA サーバのソフトウェアと互換性がありますが、「[Windows での CA Configuration Automation エージェントのアップグレード \(P. 112\)](#)」で説明するとおり、CCA サーバで CA Configuration Automation エージェントをアップグレードすることをお勧めします。

18. ブラウザのキャッシュをクリアして、CA Configuration Automation ユーザインターフェースが正しく表示されるようにしてください。

a. ブラウザを起動します。

b. [ツール] アイコンメニューの [インターネットオプション] を選択します。

[インターネットオプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

c. [一般] タブで [インターネット時ファイル] オプション内の [ファイルの削除] をクリックします。

[ファイルの削除] ダイアログ ボックスが開きます。

d. [すべてのオフラインコンテンツを削除する] チェック ボックスを選択して、[OK] をクリックします。

ブラウザのキャッシュをクリアします。

Windows で CCA エージェントをアップグレード

インストール ウィザードを使用する Microsoft Windows オペレーティング システム上では、CA Configuration Automation エージェントのみをアップグレードできます。

ウィザードを使用するアップグレード

Windows で CA Configuration Automation エージェントをアップグレードする方法

1. administrator または管理者権限を持つユーザとしてログインします。
2. CA Configuration Automation エージェントの CD-ROM をドライブに挿入します。
3. 以下のいずれかをダブルクリックして、CA Configuration Automation エージェントのインストールプログラムを実行します。
 - CA Configuration Automation エージェントと共に付属の Java VM をインストールする場合、¥agent¥windows フォルダ内の AgentWindowsVM.exe。
 - 付属の Java VM をインストールせずに CA Configuration Automation エージェントをインストールする場合、¥agent¥windows フォルダ内の AgentWindows.exe。

CA Configuration Automation エージェントをインストールするには Java VM が必要です。Java VM はエージェントの動作中は実行されません。2種類の異なるエージェントインストールプログラム (Java VM をインストールするバージョン (AgentWindowsVM.exe) と、Java VM をインストールしないバージョン (AgentWindows.exe)) が用意されているのは、CA Configuration Automation エージェントのターゲットサーバに Java VM のいずれかのバージョンがすでにインストールされている可能性があるためです。Java VM をインストールしないバージョンは、既存の Java VM を検索して使用します。

注: インストールプログラムが一般的な場所にインストールされなかった場合、既存の Java VM が見つからない可能性があります。AgentWindows.exe インストールが失敗の場合、AgentWindowsVM.exe を使用して、CA Configuration Automation エージェントをインストールします。

インストールプログラムは、必要なファイルを一時的な作業領域に抽出することによってインストールの準備を行います。これには数分間かかる場合があります。

インストールが正常に完了した後、またはキャンセルされた後、一時的なストレージが解放されます。

インストール ウィザードには [はじめに] が表示されます。

4. [はじめに] 画面を読み、[次へ] をクリックします。

注: その時点までにすでにインストールされたファイルは自動で削除されず、部分的な更新によって、予期せぬ結果が生じる可能性があるため、開始した後アップグレードはキャンセルしないことをお勧めします。アップグレードを完了する予定の場合のみ続行します。

[使用許諾契約] 画面が表示されます。

5. [使用許諾契約] を読み、[使用許諾契約の条項に同意する] を選択し、[次へ] をクリックします。

CA Configuration Automation ソフトウェアをアップグレードするには、使用許諾契約に同意する必要があります。

[重要情報] 画面が表示されます。

6. 著作権およびソフトウェアの使用に関する情報を読み、[次へ] をクリックします。

インストール場所の選択画面が表示されます。

7. 元の CA Configuration Automation エージェント ソフトウェアが存在する場所のパスを入力するか、Enter キーを押してデフォルトを使用するか、または [選択] をクリックして場所を選択します。

初期インストールに対して推奨されるデフォルトの場所は ¥Program Files¥CA¥CCA¥Agent です。

注: インストール ウィザードを使用してソフトウェアをアップグレードするためには、元のインストールと同じ場所を指定する必要があります。既存の CA Configuration Automation エージェントのインストールとは異なるパスを指定する場合、CA Configuration Automation は既存のソフトウェアを検出せず、アップグレードの代わりに新しく個別のインストールを作成します。

Windows ベースのシステムでは、パス名に使用できる文字は英数字、アンダースコア（_）、空白、および円記号（¥）のみです（他の特殊文字は使用できません）。指定したディレクトリが存在しない場合は、インストールプログラムによって、ディレクトリが作成されます。

CA Configuration Automation は、指定された場所にインストールされた、旧バージョンのソフトウェアを検出し、[インストール済みの製品が存在します] ダイアログ ボックスが表示されます。

8. [続行] をクリックします。

インストールプログラムによって、インストールディスクに十分な容量があるかチェックされます。必要なディスク容量、およびディスクの空き容量に関するインストール前のサマリが表示されます。

9. インストール前のサマリを確認して、[インストール] をクリックします。

必要なファイルがターゲットサーバにコピーされ、ウィザードに進捗状況が表示されます。次に、CCA サーバとの通信セットアップおよびエージェント構成ファイル (agent.conf) の作成に必要な、元のエージェント構成設定が表示されます。

注: CCA サーバのアップグレードとは異なり、アップグレード中に既存の CA Configuration Automation エージェントの構成設定を編集することができます。インストーラは元の設定をデフォルトとして表示します。

10. 必要に応じて、以下の CA Configuration Automation エージェントの構成設定を編集します

CA Configuration Automation エージェントのポート番号

CA Configuration Automation エージェントのリスニング ポート番号を指定します。

エージェント バインド IP アドレス

エージェントインストールの完了後に CCA エージェントがバインドするマシンの IP アドレスを指定します。

このオプションには使用可能な IP アドレスがリスト表示されます。以下の IP アドレスは除外されます。

- IPv4 ループバック アドレス。例：127.0.0.1
- IPv6 ループバック アドレス。例：1 または 0:0:0:0:0:0:0:1
- IPv6 リンク ローカル アドレス。例：fe80:: から始まるアドレス

注: 有効な IP アドレスが見つからない場合、警告メッセージが表示され、CCA エージェントはループバック IP アドレスにバインドします。

エージェント ログの有効化

エージェント ログ記録を有効にするかどうかを指定します。領域の節約やセキュリティ上の理由によってマシンへのログファイルの書き込みが好ましくない場合は、ログ記録を有効にしないこともあります。

エージェント構成ファイル(`agent.conf`)を変更することによって、エージェントのログ記録の有効または無効をいつでも切り替えることができます。

サーバ ping の有効化

サーバの `ping` を有効にするかどうかを指定します。以下のいずれかが当てはまる場合、サーバの `ping` を有効にしないこともあります。

- IP アドレスおよび名前解決の競合が発生する場合。
- サーバに複数のネットワークインターフェースカード (NIC) がある場合 (意図する NIC の識別が必要なため)。
- エージェントのインストール先のサーバと CCA サーバとの間にファイアウォールが存在する場合 (到達できないアドレスに `ping` を行うことによって生じる不要なネットワーク トラフィックを削減するため)。

エージェントの構成ファイル (`agent.conf`) を変更することによって、サーバの `ping` の有効または無効をいつでも切り替えることができます。

CCA サーバ名

デフォルト サーバ名を指定するか、または、CCA サーバのサーバ名を使用します。

CCA サーバポート番号

デフォルトのポート番号を指定するか、または、CCA サーバのリスニングポート番号を入力します。

ウィザードによって CA Configuration Automation エージェントのアップグレードが正常に行われたことが示されます。

11. CA Configuration Automation エージェントのインストール ウィザードを閉じるには、[完了] をクリックします。

Linux または UNIX での CCA サーバのアップグレード

以下の方法で、Linux または UNIX で CCA サーバソフトウェアをアップグレードできます。

- [コンソール モードを使用 \(P. 116\)](#)
- [ウィザードを使用 \(P. 122\)](#)

コンソール モードを使用するアップグレード

コンソールを使用して Solaris または Linux 上で CCA サーバをアップグレードする方法

1. ターゲットサーバのターゲットインストールディレクトリへの書き込み権限を持ち、ソフトウェアのインストールが許可されたユーザとしてログインします。
2. インストールプログラムが含まれる、CA Configuration Automation コンポーネントおよびオペレーティングシステムのディレクトリに移動します。

```
$ cd server/<operating_system>  
<operating_system>
```

オペレーティングシステムを指定します。Linux または Solaris のいずれかです。

注: このセクションの以降の部分で使用される例とプロンプトは、Solaris サーバへの CCA サーバのインストールに基づいています。サーバのインストール手順およびプロンプトは Linux でも同じです。

3. 以下を入力して、インストールプログラムを実行します。

```
$ ./installCCAServer.bin -i console
```

インストールプログラムは、必要なファイルを一時的な作業領域に抽出することによってインストールの準備を行います。この準備には数分間かかる場合があります。

適切な /tmp 領域が利用できない場合、インストールプログラムはユーザのホームディレクトリ内の領域の利用を試みます。たとえば、root としてログインしている場合は、インストールプログラムは一時的な作業領域として / をチェックし使用します。インストールが正常に完了すると、一時的なストレージは解放されます。

インストールプログラムが開始され、基本的なナビゲーションおよびキャンセルの指示を行うことができます。キー ポイントは以下の通りです。

- 前の手順に戻るには、「back」と入力します。

- インストールをキャンセルするには、「quit」と入力します。

4. CCA サーバのアップグレードを続行するには、Enter キーを押します。

注: その時点までにすでにインストールされたファイルは自動で削除されず、部分的な CCA データベースの更新によって、予期せぬ結果が生じる可能性があるため、一度開始したらアップグレードはキャンセルしないことをお勧めします。アップグレードを完了する予定の場合のみ続行します。

5. [使用許諾契約] を読み、プロンプトで「y」を入力し、Enter キーを押します。

CA Configuration Automation ソフトウェアをアップグレードするには、使用許諾契約に同意する必要があります。

6. 著作権およびソフトウェアの使用に関する情報を読み、Enter キーを押します。

インストールディレクトリを入力するプロンプトが表示されます。

どの場所に CCA サーバをインストールしますか?

デフォルトのインストール フォルダ: /opt/CA/CCAServer

絶対パスを入力するか、またはデフォルトを使用する場合は Enter キーを押してください。

7. 元の CCA サーバのソフトウェアがインストールされている場所のパス名を入力するか、またキーを押してデフォルトを使用します。

初期インストールに対して推奨されるデフォルトの場所は /opt/CA/CCAServer です。

注: インストールプログラムを使用してソフトウェアをアップグレードするためには、元のインストールと同じ場所を指定する必要があります。既存の CCA サーバのインストールとは異なるパスを指定する場合、CA Configuration Automation は既存のソフトウェアを検出せず、アップグレードの代わりに新しく個別のインストールを作成します。

UNIX ベースのシステムでは、パス名に使用できる文字は英数字、アンダースコア（_）、およびスラッシュ（/）のみです（空白文字や他の特殊文字は使用できません）。指定したディレクトリが存在しない場合は、インストール ウィザードによって、ディレクトリが作成されます。

CA Configuration Automation は、指定された場所にインストールされた、旧バージョンのソフトウェアを検出します。

この場所にはすでに CCA サーバがインストールされています。

【続行】を選択： CCA サーバおよびデータベースをアップグレードします。

【戻る】を選択： 異なるインストール ディレクトリを選択します。

【終了】を選択： インストール プロセスを終了します。

--> 1- 続行

2- 戻る

3- 終了

目的の操作に対応した数字を入力するか、またはデフォルトを使用する場合は **Enter** キーを押してください。

8. アップグレードを続行するには、**Enter** キー（【続行】）を押します。

CA Configuration Automation に含まれる Java 仮想マシン（VM）をインストールするか、または別の Java VM を使用するプロンプトが表示されます。

--> 1- CA Java VM を使用

2- 独自の Java VM を選択

選択の数値を入力するか、または現在の選択を使用する場合は **Enter** キーを押してください。

9. 【サーバ】に使用する Java VM 関連付けられている番号を入力するか、または指定された Java VM をインストールするには、**Enter** キーを押します。

独自の Java VM を選択するように指定する場合、インストールプログラムによって、使用する Java VM の場所の入力が求められます。

注： インストールプログラムでは、国内の暗号化を使用するため、指定の Java VM バージョンをインストールすることが推奨されます。この暗号化は強力で、データベースに格納されるデータに利用可能です。代わりに既存のインストール済み Java VM を使用することを選択する場合、バージョンが 1.5.0_03 以降であることを確認してください。

インストールプログラムによってインストールディスクに十分な容量があるかチェックされ、必要なディスク容量、およびディスクの空き容量に関するサマリが表示されます。

10. インストール前のサマリを確認し **Enter** キーを押します。

必要なファイルがターゲット サーバにコピーされると、インストールプログラムによってインストールの進捗状況が表示され、終了すると通知されます。

11. 元のインストールで指定された CCA サーバの構成を表示するには、**Enter** キーを押します。以下に例を示します。

```
CCA サーバ名 : sunu5-0
管理者の電子メール アドレス : patti.smith@birdland.com
CCA ポート番号 : 8080
AJP ポート番号 : 8007
メール サーバ名 : pop3mail
```

注: インストールプログラムを使用して、ソフトウェアをアップグレードする場合、既存の CCA サーバ設定を編集することはできません。構成フィールドのいずれかを変更する場合、ソフトウェアをアンインストールして再インストールする必要があります。

サーバの構成設定は以下のとおりです。

CCA サーバ名

CCA サーバ名を指定します。ソフトウェアをインストールしているサーバの、デフォルトの名前です。

管理者の電子メールアドレス

CA Configuration Automation 管理者の電子メールアドレスを指定します。

CCA ポート番号

CCA サーバのリスニング ポート番号を指定します。

AJP ポート番号

Apache Jakarta Project (AJP) の接続ポート番号を指定します。

メール サーバ名

メールサーバ名を指定します。

12. ソフトウェアのアップグレードに関するデータベース構成の注意事項を表示するには、**Enter** キーを押します。

13. データベース タイプの選択内容を確認するには Enter キーを押します。以下に例を示します。

データベース タイプ: Oracle
ENTER キーを押して続行します。

14. 元のインストールで指定された CCA データベース構成を確認するには、Enter キーを押します。以下に例を示します。

CCA ユーザ: CCA
CCA ユーザ パスワード: co99hesion
Oracle SID: or1
サーバ名: sunu5-5
ポート番号: 1521

注: インストールプログラムまたはウィザードを使用して、ソフトウェアをアップグレードする場合、既存の CCA データベース構成を編集することはできません。構成フィールドのいずれかを変更する場合、ソフトウェアをアンインストールして再インストールする必要があります。

パスワードがクリアテキスト内に表示されるので、アップグレード後に画面をクリアします。

CCA データベース インスタンス作成および接続の設定を以下に示します。

CCA ユーザ

CCA データベースへの接続および更新の権限を持つユーザ名を指定します。

CCA User Password

前のフィールドで指定された CCA データベース ユーザの非表示パスワードを指定します。

Oracle SID

(Oracle のみ) CCA データベースとして Oracle を使用する場合は、Oracle データベースのシステム識別子（インスタンス名）を指定します。

CCA データベース インスタンス名

(Microsoft SQL Server) データベース インスタンス名を指定します。

サーバ名

CCA データベースが置かれているサーバの名前を指定します。

ポート番号

データベースのリスニング ポート番号を指定します。

15. Enter キーを押します。

インストールプログラムによって、ソフトウェアの更新が完了し、`cca.properties` と呼ばれる新しい CCA サーバの構成ファイルが作成されます（詳細については、「CCA サーバの構成ファイル」を参照してください）。

CCA サーバを起動するプロンプトが表示されます。

ここで CCA サーバを開始しますか？

--> 1- はい
2- いいえ

目的の操作に対応した数字を入力するか、またはデフォルトを使用する場合は Enter キーを押してください。

16. CCA サーバを起動するには、Enter キー（はい）を押します。

インストールプログラムによって CCA サーバのアップグレードが正常に行われたことが示されます。

17. Enter キーを押してインストールプログラムを終了します。

注：エージェントソフトウェアの以前のリリースは、CCA サーバのソフトウェアと互換性がありますが、CCA サーバで CA Configuration Automation エージェントをアップグレードすることをお勧めします。
[「Linux または UNIX での CA Configuration Automation エージェントのアップグレード \(P. 127\)」](#) の詳細な手順に従ってください。

18. ブラウザのキャッシュをクリアして、CA Configuration Automation ユーザインターフェースが正しく表示されるようにしてください。

a. ブラウザを起動します。

b. [ツール] アイコンメニューの [インターネットオプション] を選択します。

[インターネットオプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

- c. [一般] タブで [インターネット一時ファイル] オプション内の [ファイルの削除] をクリックします。
[ファイルの削除] ダイアログボックスが開きます。
- d. [すべてのオフラインコンテンツを削除する] チェック ボックスを選択して、[OK] をクリックします。
ブラウザのキャッシュをクリアします。

ウィザードを使用するアップグレード

インストール ウィザードを使用して、Solaris または Linux で CCA サーバをアップグレードする方法

1. ターゲット サーバのターゲット インストール ディレクトリへの書き込み権限を持ち、ソフトウェアのインストールが許可されたユーザとしてログインします。
2. DISPLAY 変数が正しく設定されていることを確認します。

```
$ echo $DISPLAY
```

DISPLAY 変数が設定されていない場合は、実行前にこの変数を設定します。以下に例を示します。

```
$ DISPLAY=<server_name/IP>:0.0  
$ export DISPLAY
```

3. インストール プログラムが含まれる、CA Configuration Automation コンポーネントおよびオペレーティング システムのディレクトリに移動します。

```
$ cd server/<operating_system>  
<operating_system>
```

オペレーティング システムを指定します。Linux または Solaris のいずれかです。

4. 以下の入力で、インストール ウィザードを実行します。

```
$ ./installCCAServer.bin
```

インストールプログラムは、必要なファイルを一時的な作業領域に抽出することによってインストールの準備を行います。これには数分間かかる場合があります。

適切な `/tmp` 領域が利用できない場合、インストールプログラムはユーザーのホームディレクトリ内の領域の利用を試みます。たとえば、`root` としてログインしている場合は、インストールプログラムは一時的な作業領域として `/` をチェックし使用します。インストールが正常に完了すると、一時的なストレージは解放されます。

インストール ウィザードが開始され、[はじめに] が表示されます。

5. [はじめに] 画面を読み、[次へ] をクリックします。

注: その時点までにすでにインストールされたファイルは自動で削除されず、部分的な CCA データベースの更新によって、予期せぬ結果が生じる可能性があるため、開始した後アップグレードはキャンセルしないことをお勧めします。アップグレードを完了する予定の場合のみ続行します。

[使用許諾契約] 画面が表示されます。

6. [使用許諾契約] を読み、[使用許諾契約の条項に同意する] を選択し、[次へ] をクリックします。

CA Configuration Automation ソフトウェアをアップグレードするには、使用許諾契約に同意する必要があります。

[重要情報] 画面が表示されます。

7. 著作権およびソフトウェアの使用に関する情報を読み、[次へ] をクリックします。

インストール場所の選択画面が表示されます。

8. 元の CCA サーバのソフトウェアがインストールされている場所のパス名を入力するか、`Enter` キーを押してデフォルトを使用するか、または [選択] をクリックして場所を選択します。

初期インストールに対して推奨されるデフォルトの場所は `/opt/CA/CCAServer` です。

注: インストール ウィザードを使用してソフトウェアをアップグレードするためには、元のインストールと同じ場所を指定する必要があります。既存の CCA サーバのインストールとは異なるパスを指定する場合、CA Configuration Automation は既存のソフトウェアを検出せず、アップグレードの代わりに新しく個別のインストールを作成します。

UNIX ベースのシステムでは、パス名に使用できる文字は英数字、アンダースコア (_) 、およびスラッシュ (/) のみです（空白文字やその他の特殊文字は使用できません）。指定したディレクトリが存在しない場合は、インストール ウィザードによって、ディレクトリが作成されます。

CA Configuration Automation は、指定された場所にインストールされた、旧バージョンのソフトウェアを検出し、「インストール済みの製品が存在します」ダイアログ ボックスが表示されます。

9. [続行] をクリックします。

[Java 仮想マシン] 画面が表示されます。

10. CCA サーバ用にカスタマイズされた Java VM をインストールするには、[次へ] をクリックします。

別の Java VM を選択するように指定する場合、ウィザードによって、使用する Java VM の場所の入力が求められます。

注: インストール プログラムでは、国内の暗号化を使用するため、指定の Java VM バージョンをインストールすることが推奨されます。この暗号化は強力で、CCA データベースに格納されるデータに利用可能です。代わりに既存のインストール済み Java VM を使用することを選択する場合、バージョンが 1.5.0_03 以降であることを確認してください。

Java VM を選択した後、[インストール前サマリ] 画面が表示されます。

11. インストール前のサマリを確認して、[インストール] をクリックします。

インストール プログラムによって、インストールディスクに十分な容量があるかチェックされます。必要なディスク容量、およびディスクの空き容量に関するサマリが、インストール前のサマリに表示されます。

必要なファイルがターゲット サーバにコピーされると、ウィザードにはインストールの進捗状況が表示され、終了すると通知されます。

12. 元のインストールで指定された CCA サーバの構成情報を確認するには、[次へ] をクリックします。

CCA サーバの構成情報の画面が表示されます。

13. CCA サーバの構成設定情報を確認し、[次へ] をクリックします。

注: インストール ウィザードを使用して、ソフトウェアをアップグレードする場合、既存の CCA サーバの設定を編集することはできません。構成フィールドのいずれかを変更する場合、ソフトウェアをアンインストールして再インストールする必要があります。

[サーバの構成] 設定を以下に示します。

CCA サーバ名

CCA サーバ名を指定します。ソフトウェアをインストールしているサーバの、デフォルトの名前です。

管理者の電子メールアドレス

CA Configuration Automation 管理者の電子メールアドレスを指定します。

CCA ポート番号

CCA サーバのリスニング ポート番号を指定します。

AJP ポート番号

Apache Jakarta Project (AJP) の接続ポート番号を指定します。

メール サーバ名

メール サーバ名を指定します。

[次へ] をクリックすると、[データベース構成] 画面が表示されます。

14. ソフトウェアのアップグレードに関するデータベース構成の注意事項を読み、[次へ] をクリックします。

[データベースタイプ] 画面が現れ、前のインストール時のデータベース タイプが表示されます。

15. データベース タイプの選択内容を確認して、[次へ] をクリックします。

CCA データベース インスタンス構成の画面が表示されます。

16. 元のインストールで指定された CCA データベース構成を確認し、[完了] をクリックします。

注: インストール ウィザードを使用して、ソフトウェアをアップグレードする場合、既存の CCA データベース構成を編集することはできません。構成フィールドのいずれかを変更する場合、ソフトウェアをアンインストールして再インストールする必要があります。

CCA データベース インスタンス作成および接続の設定を以下に示します。

CCA ユーザ

CCA データベースへの接続および更新の権限を持つユーザ名を指定します。

CCA User Password

前のフィールドで指定された CCA データベース ユーザの非表示パスワードを指定します。

Oracle SID

(Oracle のみ) CCA データベースとして Oracle を使用する場合は、Oracle データベースのシステム識別子（インスタンス名）を指定します。

CCA データベース インスタンス名

(Microsoft SQL Server のみ) データベース インスタンス名を指定します。

サーバ名

CCA データベースが置かれているサーバの名前を指定します。

ポート番号

データベースのリスニング ポート番号を指定します。

ウィザードにより、ソフトウェアの更新が完了し、CCA サーバの構成ファイル (cca.properties) が作成されます。（詳細については、「CCA サーバの構成ファイル」を参照してください。）

ウィザードで、CCA サーバを起動するように要求されます。

17. サーバを起動するには、[はい] をクリックします。

ウィザードによって CCA サーバのアップグレードが正常に行われたことが示されます。

18. CCA サーバのインストール ウィザードを閉じるには、[完了] をクリックします。

注: エージェントソフトウェアの以前のリリースは、CCA サーバのソフトウェアと互換性がありますが、CCA サーバのホストシステムで CA Configuration Automation エージェントをアップグレードすることをお勧めします。「[Linux または UNIX での CA Configuration Automation エージェントのアップグレード \(P. 127\)](#)」の詳細な手順に従ってください。

19. ブラウザのキャッシュをクリアして、CA Configuration Automation ユーザインターフェースが正しく表示されるようにしてください。
 - a. ブラウザを起動します。
 - b. [ツール] アイコンメニューの [インターネットオプション] を選択します。
[インターネットオプション] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - c. [一般] タブで [インターネット一時ファイル] オプション内の [ファイルの削除] をクリックします。
[ファイルの削除] ダイアログ ボックスが開きます。
 - d. [すべてのオフラインコンテンツを削除する] チェック ボックスを選択して、[OK] をクリックします。

ブラウザのキャッシュをクリアします。

Linux または UNIX での CCA エージェントのアップグレード

以下のいずれかの方法で、Linux または UNIX で CA Configuration Automation エージェントソフトウェアをアップグレードできます。

- [コンソール モードを使用 \(P. 128\)](#)
- [ウィザードを使用 \(P. 133\)](#)

コンソール モードを使用するアップグレード

コマンドラインから UNIX または Linux で CA Configuration Automation エージェントをアップグレードする方法

1. root としてログインします。

CA Configuration Automation エージェントソフトウェアをインストールするには root ユーザである必要があります。

2. インストールプログラムが含まれる、CA Configuration Automation コンポーネントおよびオペレーティング システムのディレクトリに移動します。以下に例を示します。

```
# cd agent/<operating_system>  
<operating_system>
```

オペレーティング システムを指定します。AIX、HPUX、Linux、または Solaris のいずれかです。

3. 以下のいずれかを入力して、CA Configuration Automation エージェントのインストールプログラムのうちの 1 つを選択し実行します。

- CA Configuration Automation エージェントと共に付属の Java VM をインストールする場合 :

```
# ./agentvm.bin -i console
```

- 付属の Java VM をインストールせずに CA Configuration Automation エージェントをインストールする場合 :

```
# ./agent.bin -i console
```

CA Configuration Automation エージェントをインストールするには Java VM が必要です。Java VM はエージェントの動作中は実行されません。2 種類の異なるエージェントインストールプログラム (Java VM をインストールするバージョン (agentvm.bin) と、Java VM をインストールしないバージョン (agent.bin)) が用意されているのは、CA Configuration Automation エージェントのターゲット サーバに Java VM のいずれかのバージョンがすでにインストールされている可能性があるためです。Java VM をインストールしないバージョンは、既存の Java VM を検索して使用します。

注: インストールプログラムが一般的な場所にインストールされなかった場合、既存の Java VM が見つからない可能性があります。
agent.bin によるインストールが失敗する場合は、agentvm.bin を使用して CA Configuration Automation エージェントをインストールしてください。

インストールプログラムは、必要なファイルを一時的な作業領域に抽出することによってインストールの準備を行います。これには数分間かかる場合があります。

適切な /tmp 領域が利用できない場合、インストールプログラムは / (root ユーザのホームディレクトリ) 内の領域の利用を試みます。インストールが正常に完了すると、一時的なストレージは解放されます。

インストールプログラムが開始され、インストールの基本的なナビゲーションおよびキャンセルの指示を行うことができます。キー ポイントは以下の通りです。

- 前の手順に戻るには、「back」と入力します。
- インストールをキャンセルするには、「quit」と入力します。

4. CA Configuration Automation エージェントのアップグレードを続行するには、Enter キーを押します。

注: その時点までにすでにインストールされたファイルは自動で削除されず、部分的な更新によって、予期せぬ結果が生じる可能性があるため、一度開始したらアップグレードはキャンセルしないことをお勧めします。アップグレードを完了する予定の場合のみ続行します。

5. [使用許諾契約] を読み、「y」を入力し、Enter キーを押します。

CA Configuration Automation ソフトウェアをアップグレードするには、使用許諾契約に同意する必要があります。

6. 著作権およびソフトウェアの使用に関する情報を読み、Enter キーを押します。

CA Configuration Automation エージェントをインストールする場所を入力するプロンプトが表示されます。

インストール先を指定してください。

デフォルトのインストール フォルダ: /opt/CA/CCAAgent

絶対パスを入力するか、またはデフォルトを使用する場合は Enter キーを押してください。

7. 元の CA Configuration Automation エージェント ソフトウェアがインストールされている場所のパス名を入力するか、または Enter キーを押してデフォルトを使用します。

初期インストールに対して推奨されるデフォルトの場所は /opt/CA/CCAAgent です。

UNIX ベースのシステムでは、パス名に使用できる文字は英数字、アンダースコア (_) 、およびスラッシュ (/) のみです（空白文字や他の特殊文字は使用できません）。指定したディレクトリが存在しない場合は、インストールプログラムによって、ディレクトリが作成されます。

注: インストールプログラムを使用してソフトウェアをアップグレードするためには、元のインストールと同じ場所を指定する必要があります。既存の CA Configuration Automation エージェントのインストールとは異なるパスを指定する場合、CA Configuration Automation は既存のソフトウェアを検出せず、アップグレードの代わりに新しく個別のインストールを作成します。

CA Configuration Automation は、指定された場所にインストールされた、旧バージョンのソフトウェアを検出します。

この場所にはすでに CA Configuration Automation エージェントがインストールされています。
[続行] を選択： CA Configuration Automation エージェントおよびファイルをアップグレードします。

[戻る] を選択： 異なるインストール ディレクトリを選択します。

[終了] を選択： インストール プロセスを終了します。

- > 1- 続行
- 2- 戻る
- 3- 終了

目的の操作に対応した数字を入力するか、またはデフォルトを使用する場合は Enter キーを押してください。

8. Enter キー（ [続行] ）を押します。

インストールプログラムによって、インストールディスクに十分な容量があるかチェックされます。必要なディスク容量、およびディスクの空き容量に関するインストール前のサマリが表示されます。

9. インストール前のサマリを確認して、Enter キーを押します。

必要なファイルがターゲット サーバにコピーされると、インストールプログラムによってインストールの進捗状況が表示され、終了すると通知されます。

インストールプログラムによって、CCA サーバとの通信セットアップおよびエージェント構成ファイル (agent.conf) の作成に必要な元のエージェントの構成設定が表示されます。（詳細については、「[CA Configuration Automation エージェントの構成ファイル \(P. 86\)](#)」を参照してください）

注: CCA サーバのアップグレードとは異なり、アップグレード中に既存の CA Configuration Automation エージェントの構成設定を編集することができます。インストーラによって、元のインストールで使用した回答がデフォルトとして表示されます。

10. 必要に応じて、以下の CA Configuration Automation エージェントの構成設定を編集します

CA Configuration Automation エージェントのポート番号

CA Configuration Automation エージェントのリスニング ポート番号を指定します。デフォルトをそのまま使用するか、または別の一意のポート番号を入力します。

CA Configuration Automation エージェント ポート番号 (デフォルト: 8063)

エージェントバインド IP アドレス

エージェントインストールの完了後に CCA エージェントがバインドするマシンの IP アドレスを指定します。

このオプションには使用可能な IP アドレスがリスト表示されます。以下の IP アドレスは除外されます。

- IPv4 ループバック アドレス。例: 127.0.0.1
- IPv6 ループバック アドレス。例: 1 または 0:0:0:0:0:0:0:1
- IPv6 リンク ローカルアドレス。例: fe80:: から始まるアドレス

注: 有効な IP アドレスが見つからない場合、警告メッセージが表示され、CCA エージェントはループバック IP アドレスにバインドします。

エージェント ログの有効化

エージェント ログ記録を有効にするかどうかを指定します。領域の節約やセキュリティ上の理由によってマシンへのログファイルの書き込みが好ましくない場合は、ログ記録を有効にしないこともあります。

エージェント構成ファイル(`agent.conf`)を変更することによって、エージェントのログ記録の有効または無効をいつでも切り替えることができます。デフォルトは [はい] です。

エージェント ログ記録を有効にしますか?

- > 1- はい
- 2- いいえ

目的の操作に対応した数字を入力するか、またはデフォルトを使用する場合は **Enter** キーを押してください。

サーバ ping の有効化

サーバの `ping` を有効にするかどうかを指定します。以下の場合、サーバの `ping` を有効にしないこともあります。

- IP アドレスおよび名前解決の競合が発生する場合。
- サーバに複数のネットワークインターフェースカード (NIC) がある場合 (意図する NIC の識別が必要なため)。
- エージェントのインストール先のサーバと CCA サーバとの間にファイアウォールが存在する場合 (到達できないアドレスに `ping` を行うことによって生じる不要なネットワーク トラブルを削減するため)。

エージェントの構成ファイル (`agent.conf`) を変更することによって、サーバの `ping` の有効または無効をいつでも切り替えることができます。

サーバの `ping` を有効にしますか?

- > 1- はい
- 2- いいえ

目的の操作に対応した数字を入力するか、またはデフォルトを使用する場合は **Enter** キーを押してください。

CCA サーバ名

CCA サーバのサーバ名を指定します。

CCA サーバ名（デフォルト）：

CCA サーバポート番号

CCA サーバのリスニング ポート番号を指定します。

CCA サーバポート番号（デフォルト：）

インストールプログラムによってアップグレードが正常に行われた
ことが示されます。

11. インストールプログラムを終了するには、Enter キー（[完了]）を押します。

ウィザードを使用するアップグレード

CCA サーバのアップグレードとは異なり、UNIXへの CA Configuration Automation エージェントのインストールではコンソールモードがデフォルトのインストール方法です。インストール ウィザードを使用してインストールするには、実行可能ファイルに -igui 引数を指定する必要があります。

インストール ウィザードを使用して、UNIX または Linux で CA Configuration Automation エージェントをアップグレードする方法

1. root としてログインします。

CA Configuration Automation エージェント ソフトウェアをインストールするには root ユーザである必要があります。

2. DISPLAY 変数が正しく設定されていることを確認します。

```
# echo $DISPLAY
```

DISPLAY 変数が設定されていない場合は、実行前にこの変数を設定します。以下に例を示します。

```
# DISPLAY=<server_name/IP>:0.0
# export DISPLAY
```

3. インストールプログラムが含まれる、CA Configuration Automation コンポーネントおよびオペレーティングシステムのディレクトリに移動します。以下に例を示します。

```
# cd agent/<operating_system>  
<operating_system>
```

オペレーティングシステムを指定します。AIX、HPUX、Linux、または Solaris のいずれかです。

4. 以下のいずれかを入力して、CA Configuration Automation エージェントのインストールプログラムのうちの 1 つを選択し実行します。

- CA Configuration Automation エージェントと共に付属の Java VM をインストールする場合：

```
# ./agent<operating_system>vm.bin -i gui
```

- 付属の Java VM をインストールせずに CA Configuration Automation エージェントをインストールする場合：

```
# ./agent<operating_system>.bin -i gui
```

CA Configuration Automation エージェントをインストールするには Java VM が必要です。Java VM はエージェントの動作中は実行されません。2 種類の異なるエージェントインストールプログラム (Java VM をインストールするバージョン (agentvm.bin) と、Java VM をインストールしないバージョン (agent.bin)) が用意されているのは、CA Configuration Automation エージェントのターゲットサーバに Java VM のいずれかのバージョンがすでにインストールされている可能性があるためです。Java VM をインストールしないバージョンは、既存の Java VM を検索して使用します。

注: インストールプログラムが一般的な場所にインストールされなかった場合、既存の Java VM が見つからない可能性があります。
agent.bin によるインストールが失敗する場合は、agentvm.bin を使用して CA Configuration Automation エージェントをインストールしてください。

インストールプログラムは、必要なファイルを一時的な作業領域に抽出することによってインストールの準備を行います。これには数分間かかる場合があります。

適切な /tmp フォルダが利用できない場合、インストールプログラムは / (root ユーザのホームディレクトリ) 内の領域の利用を試みます。インストールが正常に完了すると、一時的なストレージは解放されます。

インストール ウィザードには [はじめに] が表示されます。

5. [はじめに] を読み、[次へ] をクリックします。

注: その時点までにすでにインストールされたファイルは自動で削除されず、部分的な更新によって、予期せぬ結果が生じる可能性があるため、一度開始したらアップグレードはキャンセルしないことをお勧めします。アップグレードを完了する予定の場合のみ続行します。

[使用許諾契約] 画面が表示されます。

6. [使用許諾契約] を読み、[使用許諾契約の条項に同意する] を選択し、[次へ] をクリックします。

CA Configuration Automation ソフトウェアをアップグレードするには、使用許諾契約に同意する必要があります。

[重要情報] 画面が表示されます。

7. 著作権およびソフトウェアの使用に関する情報を読み、[次へ] をクリックします。

インストール場所の選択画面が表示されます。

8. 元の CA Configuration Automation エージェント ソフトウェアがインストールされている場所のパス名を入力するか、または [選択] をクリックして場所を選択します。

初期インストールに対して推奨されるデフォルトの場所は /opt/CA/CCAAgent です。

注: インストール ウィザードを使用してソフトウェアをアップグレードするためには、元のインストールと同じ場所を指定する必要があります。既存の CA Configuration Automation エージェントのインストールとは異なるパスを指定する場合、CA Configuration Automation は既存のソフトウェアを検出せず、アップグレードの代わりに新しく個別のインストールを作成します。

UNIX ベースのシステムでは、パス名に使用できる文字は英数字、アンダースコア (_)、およびスラッシュ (/) のみです（空白文字や他の特殊文字は使用できません）。指定したディレクトリが存在しない場合は、インストール ウィザードによって、ディレクトリが作成されます。

CA Configuration Automation は、指定された場所にインストールされた、旧バージョンのソフトウェアを検出し、[インストール済みの製品が存在します] ダイアログ ボックスが表示されます。

場所を選択すると、[インストール前サマリ] 画面が表示されます。

9. 提示されたインストール前のサマリを確認して。 [インストール] をクリックします。

必要なファイルがターゲット サーバにコピーされると、ウィザードにはインストールの進捗状況が表示されます。ファイルのコピーが終了すると、CCA サーバとの通信セットアップおよびエージェント構成ファイル (`agent.conf`) の作成に必要な元のエージェントの構成設定が表示されます。（詳細については、「[CCA エージェント構成ファイル](#)」(P. 86)を参照してください。）

注: CCA サーバのアップグレードとは異なり、アップグレード中に既存の CA Configuration Automation エージェントの構成設定を編集することができます。元のインストールで使用した設定が、デフォルトとして表示されます。

10. 必要に応じて、以下の CA Configuration Automation エージェントの構成設定を編集します

CA Configuration Automation エージェントのポート番号

CA Configuration Automation エージェントのリスニング ポート番号を指定します。デフォルトをそのまま使用するか、または別の任意のポート番号を入力します。

エージェント バインド IP アドレス

エージェントインストールの完了後に CCA エージェントがバインドするマシンの IP アドレスを指定します。

このオプションには使用可能な IP アドレスがリスト表示されます。以下の IP アドレスは除外されます。

- IPv4 ループバック アドレス。例：127.0.0.1
- IPv6 ループバック アドレス。例：1 または 0:0:0:0:0:0:1
- IPv6 リンク ローカル アドレス。例：fe80:: から始まるアドレス

注: 有効な IP アドレスが見つからない場合、警告メッセージが表示され、CCA エージェントはループバック IP アドレスにバインドします。

エージェント ログの有効化

エージェント ログ記録を有効にするかどうかを指定します。領域の節約やセキュリティ上の理由によってマシンへのログファイルの書き込みが好ましくない場合は、ログ記録を有効にしないこともあります。

エージェント構成ファイル(`agent.conf`)を変更することによって、エージェントのログ記録の有効または無効をいつでも切り替えることができます。

サーバ ping の有効化

サーバの `ping` を有効にするかどうかを指定します。以下のいずれかが当てはまる場合、サーバの `ping` を有効にしないこともあります。

- IP アドレスおよび名前解決の競合が発生する場合。
- サーバに複数のネットワークインターフェース カード (NIC) がある場合 (意図する NIC の識別が必要なため)。
- エージェントのインストール先のサーバと CCA サーバとの間にファイアウォールが存在する場合 (到達できないアドレスに `ping` を行うことによって生じる不要なネットワーク トラフィックを削減するため)。

エージェントの構成ファイル (`agent.conf`) を変更することによって、サーバの `ping` の有効または無効をいつでも切り替えることができます。

CCA サーバ名

CCA サーバのサーバ名を指定します。

CCA サーバポート番号

CCA サーバのリスニング ポート番号を指定します。

ウィザードによって CA Configuration Automation エージェントのアップグレードが正常に行われたことが示されます。

11. CA Configuration Automation エージェントのインストール ウィザードを閉じるには、[完了] をクリックします。

Windows での CCA グリッド ノードのアップグレード

CA Configuration Automation サーバをアップグレードしたら、インストールされている他のグリッド ノードをすべてアップグレードする必要があります。マスター グリッド ノードは、CCA サーバインストールプログラムによって自動的にアップグレードされます。CCA サーバがタスクをグリッド ノードに割り当てるためには、グリッド ノードがサーバと厳密に同じバージョンである必要があります。

次の手順に従ってください:

1. 既存のグリッド ノードを停止します。
2. CA Configuration Automation インストール メディア上で、**dvd1**、**CCA**、**Gridnode**、**Windows** のフォルダを開き、以下のいずれかのファイルをダブルクリックします。
 - **installgridnode.exe** (32 ビット オペレーティング システム)
 - **installgridnode64.exe** (64 ビット オペレーティング システム)インストール プログラムが開始され、[はじめに] 画面が表示されます。
3. [次へ] をクリックします。
[使用許諾契約] 画面が表示されます。
4. 使用許諾契約を読み、下にスクロールして [使用許諾契約の条項に同意する] を選択し、[次へ] をクリックします。
[インストーラ フォルダの選択] 画面が表示されます。この画面には、既存のグリッド ノードへのパスが表示されます。グリッド ノードをデフォルトの場所にインストールした場合、「検出されたローカルインストール」フィールドには、**C:\Program Files\CA\CCA Grid Node** が表示されます。
5. このインストール用のインストール先フォルダの選択フィールドに示されたパスが、[検出されたローカルインストール] フィールドのパスと一致していることを確認し、[次へ] をクリックします。
注: インストール先フォルダに別のパスを入力する場合、アップグレードの代わりに "クリーン" インストールを実行します。
[Windows サービス設定] 画面が表示されます。
この画面上のフィールドは編集できません。

6. [次へ] をクリックします。
[データベース サーバ] 画面が表示されます。
この画面上のフィールドは編集できません。
7. [次へ] をクリックします。
[データベース情報] 画面が表示されます。
8. 対応するフィールドに以下の情報を入力し、[次へ] をクリックします。

データベース ユーザ パスワード

前の読み取り専用フィールドで指定した CA Configuration Automation データベース ユーザのパスワードを指定します。

以下のいずれかの画面が表示されます。

- エージェントインストーラ フォルダ -- DVD からインストールを実行していない場合、この画面で CA Configuration Automation エージェントインストールプログラムの場所を指定するよう要求されます。手順 9 に進みます。
- インストール前のサマリ -- DVD からインストールを実行している場合、インストールプログラムがエージェントインストールプログラムを特定します。手順 10 に進みます。

9. CA Configuration Automation エージェントインストールプログラムの場所を入力し、[次へ] をクリックします。

インストールプログラムによってエージェントインストーラがグリッド ノード ホストにコピーされます。CCA サーバが CA Configuration Automation エージェントをリモートでインストールするためにグリッド ノードを割り当てるとき、グリッド ノードは、この場所を使用してエージェントインストールプログラムを開始します。

[インストール前サマリ] 画面が表示されます。

10. 入力内容を確認し、[インストール] をクリックします。

インストールが開始され、完了すると [インストール完了] ページが表示されます。CA Configuration Automation グリッド ノードが正常にインストールされたことを確認します。

11. システムを再起動するオプションが選択されていることを確認し、[完了] をクリックします。

インストール ウィザードが閉じ、ホスト コンピュータが再起動されます。

Linux または UNIX での CCA グリッド ノードのアップグレード

CA Configuration Automation サーバをアップグレードしたら、インストールされている他のグリッド ノードをすべてアップグレードする必要があります。マスター グリッド ノードは、CCA サーバインストールプログラムによって自動的にアップグレードされます。CCA サーバがタスクをグリッド ノードに割り当てるためには、グリッド ノードがサーバと厳密に同じバージョンである必要があります。

以下のいずれかの方法で、Linux または UNIX で CCA グリッド ノード ソフトウェアをアップグレードできます。

- [コンソール モードを使用 \(P. 140\)](#)
- [ウィザードを使用 \(P. 143\)](#)

コンソール モードを使用するアップグレード

このセクションでは、コンソールを使用したグリッド ノードのアップグレードについて説明します。

次の手順に従ってください:

1. ホスト サーバのターゲット インストール ディレクトリへの書き込み権限を持ち、ソフトウェアのインストールが許可されたユーザとしてログインします。
2. 既存のグリッド ノードを停止します。
3. お使いのオペレーティング システムに応じて、次のようにインストール プログラムが含まれる、インストール メディア上のディレクトリに移動します。

```
cd /dvd1/CCA/Gridnode/Linux
```

```
cd /dvd1/CCA/Gridnode/Solaris
```

注: このセクションの以降の部分で使用される例とプロンプトは、Linux サーバでの実行内容に基づいています。インストール手順およびプロンプトは UNIX でも同じです。

- 以下のいずれかのコマンド（それぞれ 32 ビットおよび 64 ビット ホストに対し）を入力し、インストール プログラムを開始します。

```
./installgridnode.bin -i console  
./installgridnode64.bin -i console
```

インストール プログラムは、一時作業領域に必要なファイルをアンパックおよび抽出します。

インストール プログラムが開始され、インストールの基本的なナビゲーションおよびキャンセルの指示を行うことができます。以下のキー ポイントがあります。

- 前の手順に戻るには、「back」と入力します。
- インストールをキャンセルするには、「quit」と入力します。

注: ユーザがインストールをキャンセルした場合、その時点ですでにインストールされているファイルは自動では削除されません。これらのファイルを削除するには、提供されているアンインストーラを使用します。アンインストーラは、手順 6 で指定するターゲット インストール ディレクトリにあります。

導入部の後、以下のプロンプトが表示されます。

ENTER キーを押して続行します。

- Enter キーを押します。

[使用許諾契約] ページが表示されます。

- 許諾契約の各ページの最後で Enter キーを押します。

最後のページで、許諾契約の条項に同意するためのプロンプトが表示されます。

使用許諾契約の条項に同意しますか? (Y/N):

- y (はい) を入力して許諾契約の条項に同意します。

グリッド ノードをインストールする場所を入力するプロンプトが表示されます。

インストール先を指定してください。

デフォルトのインストール フォルダ: /opt/CA/CCAGridNode

絶対パスを入力するか、またはデフォルトを使用する場合は Enter キーを押してください。

- グリッド ノードが現在インストールされている場所へのパスを入力するか、Enter キーを押してデフォルトの場所を使用します。

注: グリッド ノードをアップグレードするには、元のインストールと同じ場所を指定する必要があります。既存のグリッド ノードとは別のパスを指定した場合、インストール プログラムはアップグレードではなく新しい別のインストールの作成を行います。

既存の CCA データベース サーバは、インストール プログラムによって検出されます。

データベース タイプ: SQL Server

サーバ名: bgunn03

ポート番号: 1433

続行してもよろしいですか?

1 - はい

2 - いいえ

9. 1 を入力して Enter キーを押します。

データベースのパスワードを入力するプロンプトが表示されます。

データベース構成

データベース名: cca

データベース ユーザ: cca

データベース ユーザ パスワード:

10. リスト表示されたデータベース ユーザ用のパスワードを入力し、Enter キーを押します。

注: 入力時、文字は視覚的には表示されません。

エージェント インストーラ フォルダの選択

現在のエージェント インストーラ フォルダ: /root/bgunn

絶対パスを入力するか、または ENTER キーを押して現在の値を受け入れます

(デフォルト: /root/bgunn):

インストール プログラムによって、インストール ディスクに十分な容量があるかチェックされます。必要なディスク容量、およびディスクの空き容量に関するインストール前のサマリが表示されます。

11. インストール前のサマリを確認し、Enter キーを押してアップグレードを開始します。

必要なファイルがターゲット サーバにコピーされると、インストール プログラムによってインストールの進捗状況が表示され、終了すると通知されます。

インストール完了

CA Configuration Automation グリッド ノードは以下の場所に正常にインストールされました:

/opt/CA/CCAGridNode

Enter キーを押してインストーラを終了します:

12. Enter キーを押してインストール プログラムを終了します。

インストール プログラムが終了します。

ウィザードを使用するアップグレード

このセクションでは、ウィザードを使用したグリッド ノードのアップグレードについて説明します。

次の手順に従ってください:

1. ホストサーバのターゲットインストールディレクトリへの書き込み権限を持ち、ソフトウェアのインストールが許可されたユーザとしてログインします。
2. 既存のグリッド ノードを停止します。
3. CA Configuration Automation インストール メディア上で、dvd1、CCA、Gridnode、Windows のフォルダを開き、以下のいずれかのファイルをダブルクリックします。
 - installgridnode.exe (32 ビット オペレーティング システム)
 - installgridnode64.exe (64 ビット オペレーティング システム)
 インストール プログラムが開始され、[はじめに] 画面が表示されます。
4. [次へ] をクリックします。
 [使用許諾契約] 画面が表示されます。
5. 使用許諾契約を読み、下にスクロールして [使用許諾契約の条項に同意する] を選択し、[次へ] をクリックします。
 [インストーラ フォルダの選択] 画面が表示されます。この画面には、既存のグリッド ノードへのパスが表示されます。グリッド ノードをデフォルトの場所にインストールした場合、[検出されたローカルインストール] フィールドには、C:\Program Files\CA\CCA Grid Node が表示されます。
6. このインストール用のインストール先フォルダの選択フィールドに示されたパスが、[検出されたローカルインストール] フィールドのパスと一致していることを確認し、[次へ] をクリックします。

注: インストール先フォルダに別のパスを入力する場合、アップグレードの代わりに "クリーン" インストールを実行します。

[Windows サービス設定] 画面が表示されます。

この画面上のフィールドは編集できません。

7. [次へ] をクリックします。
[データベース サーバ] 画面が表示されます。
この画面上のフィールドは編集できません。
8. [次へ] をクリックします。
[データベース情報] 画面が表示されます。
9. 対応するフィールドに以下の情報を入力し、[次へ] をクリックします。

データベース ユーザ パスワード

前の読み取り専用フィールドで指定した CA Configuration Automation データベース ユーザのパスワードを指定します。

以下のいずれかの画面が表示されます。

- エージェントインストーラ フォルダ -- DVD からインストールを実行していない場合、この画面で CA Configuration Automation エージェントインストールプログラムの場所を指定するよう要求されます。手順 9 に進みます。
- インストール前のサマリ -- DVD からインストールを実行している場合、インストールプログラムがエージェントインストールプログラムを特定します。手順 10 に進みます。

10. CA Configuration Automation エージェントインストールプログラムの場所を入力し、[次へ] をクリックします。

インストールプログラムによってエージェントインストーラがグリッド ノード ホストにコピーされます。CCA サーバが CA Configuration Automation エージェントをリモートでインストールするためにグリッド ノードを割り当てるとき、グリッド ノードは、この場所を使用してエージェントインストールプログラムを開始します。

[インストール前サマリ] 画面が表示されます。

11. 入力内容を確認し、[インストール] をクリックします。

インストールが開始され、完了すると [インストール完了] ページが表示されます。CA Configuration Automation グリッド ノードが正常にインストールされたことを確認します。

12. システムを再起動するオプションが選択されていることを確認し、[完了] をクリックします。

インストール ウィザードが閉じ、ホスト コンピュータが再起動されます。

第9章: インストールのトラブルシューティング

この章では、CA Configuration Automation のインストールおよびアップグレードに関する問題のトラブルシューティングを実行するための、ヒントとアドバイスについて説明します。

インストーラをリモートで実行

Windows への Solaris のインストール ウィザードをリモートで実行しようとすると、問題が発生する場合があります。リモート X セッションを使用した Windows からのインストールが失敗して、テキスト文字列が不正確に表示されたり、クラッシュやコアダンプが表示されたり、以下の文字列が含まれるエラーが表示されたりする場合があります。

予期しない例外が、VM 外のネイティブ コードで検出されました。

問題は以下によって生じる場合があります。

- Solaris 動作環境で Java 2 SDK を使用する、以下のうちのいずれかである既知の Solaris のバグ
 - TrueType または Type1 のフォントにアクセスするとき、X サーバがクラッシュする場合があります。パッチは Sun から近日中に提供されます。 (Solaris Xserver バグ 4215548)
 - dgalib を使用する GUI サービスによって、Xserver がクラッシュする場合があります。この問題はパッチ 107078-07 で解決されます。このパッチは現在、SunSpectrum サービス契約でのみ利用可能です。 (Solaris Xserver バグ 4198669)

パッチが利用可能になるまでは、以下の方法で回避することができます。インストーラを実行する前に、環境変数 NO_J2D_DGA を「true」に設定します。C シェルを使用している場合は、以下の例を参照してください。

```
% setenv NO_J2D_DGA true
```

この方法によって、Java 2D ソフトウェアは DGA を使用してグラフィックスを表示することを禁じられます。

- Windows X サーバのネイティブ ウィンドウ マネージャを使用（たとえば、Windows の [Run (実行)] ウィンドウから Telnet を使用して、インストールを実行）。推奨される方法は、リモートサーバのネイティブ ウィンドウ マネージャを使用することです。個別の X サーバの詳細については、社内のマニュアルを参照するか、またはサポート組織に相談してください。コマンドラインからコンソールモードを使用して、インストールを実行することもできます（詳細については、「コンソールモードを使用」を参照してください）。（40P.）

インストール用にサポートされたパス名を使用

UNIX ベースのシステムでは、パス名に使用できる文字は英数字、アンダースコア（_）、およびスラッシュ（/）のみです（空白文字や他の特殊文字は使用できません）。

Windows ベースのシステムでは、パス名に使用できる文字は英数字、アンダースコア（_）、空白、および円記号（¥）のみです（他の特殊文字は使用できません）。

CA Configuration Automation サーバ のインストールの確認

CA Configuration Automation サーバ のインストールに関する問題のトラブルシューティングでは、主にエラーについてのログファイルを確認し、インストールの間に作成された構成ファイルの内容を検証します。このセクションでは、確認する必要のある重要なログおよび構成ファイルについて説明します。これらのログおよび構成ファイルのサンプルや詳細については、「Configuration Files and Log Files」を参照してください。

CA Configuration Automation サーバ へのログイン

CA Configuration Automation サーバ にログインして、ユーザ インターフェースにアクセスする必要があります。初めてログインするときには、正しい URL を入力し、インストールの間に指定したユーザ、またはデフォルトの管理者ユーザ (ccadmin) としてログインする必要があります。

CA Configuration Automation サーバ にログインする方法

1. 任意の Windows サーバで Internet Explorer ブラウザを開きます。
2. インストール中に入力した CA Configuration Automation サーバの名前とポート番号を使用し (デフォルト ポート番号 is8080) 、 [アドレス] フィールドに以下の URL を入力します。

`http://<server>:<Port Number>`

CCA サーバへのログインのページが表示されます。

3. [ユーザ名] フィールドに「ccadmin」またはインストール中に指定したユーザを入力し、[パスワード] フィールドに対応するパスワードを入力し、次に [ログイン] をクリックします。

インストールプロセス中に自動的に作成されたユーザ アカウントである、CA Configuration Automation 管理者としてログインします。最初にログインするとき、CA Configuration Automation 管理者としてログインする必要があります。

CA Configuration Automation サーバ UI の [タスク] パネルが表示されます。

CA Configuration Automation サーバ インストール ログ ファイル

以下のエラーに関するログ ファイルを確認することができます。

- cca.log
- install.log
- install_debug.log
- jakarta_service_<install_date>.log
- tomcat log

これらのファイルは、ディレクトリ <CCA_Server_install_directory>/logs にあります。デフォルトのディレクトリにインストールした場合、以下の場所にあります。

- (Linux または UNIX) /opt/CA/CCAServer/logs
- (Windows) C:\Program Files\CA\CCA Server\logs

より多くのメッセージを参照するために、ログ構成ファイルを編集

CA Configuration Automation サーバ のログ構成ファイル (log4j.xml) によって、サーバ コンソールまたはログファイルに表示されるメッセージのタイプ（エラー、警告、または情報）が制御されています。ファイルを編集して、デフォルトの設定より多くのタイプのメッセージを表示することをお勧めします。デフォルト設定では、ログファイルにのみエラー メッセージを送信します。

```
log4j.rootCategory=ERROR, LOGFILE
```

推奨されるデフォルトの場所を使用して CA Configuration Automation サーバ をインストールした場合、サーバのログ構成ファイルは以下のディレクトリに置かれます。

- Solaris または Linux の場合：
/opt/CA/CCAServer/tomcat/webapps/ROOT/WEB-INF
- Windows の場合： C:\Program Files\CA\CCA Server\tomcat\webapps\ROOT\WEB-INF

以下のように他のメッセージを表示するために log4j.xml ファイルを変更できます。

- エラーと警告メッセージを表示するには、デフォルト エントリを以下に変更します。

```
log4j.rootCategory=WARN, LOGFILE
```

- エラー、警告、情報メッセージを表示するには、デフォルトのエントリを以下に変更します。

```
log4j.rootCategory=INFO, LOGFILE
```

コンソールのみにメッセージを表示するか、またはログファイルに加えてコンソールにもメッセージを表示する場合、LOGFILE パラメータを変更するか、または追加することができます。

- コンソールにのみエラー メッセージを表示するには、デフォルトのエントリを以下に変更します。

```
log4j.rootCategory=ERROR, CONSOLE
```

- エラー メッセージをコンソールログ ファイルに表示するには、デフォルトのエントリを以下に変更します。

```
log4j.rootCategory=ERROR, LOGFILE, CONSOLE
```

デフォルトでは、`log4j.xml` ファイルに別のログファイル名が指定されていない場合、メッセージは `<CCA_Server_Installation_Directory>\logs` ディレクトリの `cca.log` と呼ばれるファイルに記載されます。

データベースのプロパティを編集

CA Configuration Automation サーバインストール中に作成されたデータベース設定のうちのいずれかを編集する必要がある場合、`cca.properties` ファイルを編集します。

データベースのプロパティを編集する方法

1. テキストエディタで、`cca.properties` ファイルを開きます。

デフォルトのインストールディレクトリを使用した場合、ファイルは以下の場所に置かれます。

- (Windows) `C:\Program Files\CA\CCA Server\tomcat\conf`
- (Linux および UNIX) `/opt/CA/CCAServer/tomcat/conf`

2. 以下の 1 つ以上のプロパティに対して、等号 (=) の右の値を編集し、ファイルを保存して閉じます。

`db.server`

CA Configuration Automation データベース をホストするサーバを指定します。

デフォルト : `localhost`

`db.driver`

データベース ドライバを指定します。

初期設定 :

- (SQL Server) `com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver`
- (Oracle) `oracle.jdbc.driver`

`db.context`

データベースのコンテキストを指定します。

初期設定 :

- (SQL Server) `SQL_SERVER_CONTEXT`
- (Oracle)

db.instance

データベースの名前付きインスタンスを指定します。

初期設定 :

- (SQL Server) MSSQLSERVER
- (Oracle) ORA

db.name

データベース名を指定します。

デフォルト : cca

db.user

データベースの管理者ユーザを指定します。

デフォルト : cca

db.password

データベースの管理者パスワードを指定します。データベースの管理者パスワードが変更される場合、この暗号化されたエントリも変更する必要があります。

注: パスワードがクリアテキスト内に格納され、ファイルレベルのアクセスセキュリティで保護されている場合、*cca.properties* ファイルのこのエントリは直接編集できます。パスワードを暗号化する場合、そのためのユーティリティは、ディレクトリ <CA Configuration Automation サーバ_install_directory>/bin に含まれています。ファイルは *setDbPwd.sh* (Linux または UNIX) または *setDbPwd.bat* (Windows) と呼ばれています。コマンドラインからのユーティリティを実行し、新しいパスワードを入力して確認します。暗号化された新パスワードは *cca.properties* ファイルに格納されます。

db.port

データベースのリスンポートを指定します。

初期設定 :

- (SQL Server) 1433
- (Oracle) 1521

db.max_connections

データベースに一度にログオンできるユーザの最大数を指定します。

デフォルト : 50

db.deadlock_retry_delay_ms

リソースのデッドロックの解決を試行するまで、データベースが待機する時間をミリ秒で指定します。

デフォルト : 10000

#db.max_idle_connections

データベースが許可する、アイドル接続の最大数を指定します。このプロパティをアクティブにするためには、コメント記号 (#) を削除する必要があります。

デフォルト : 5

#db.max_wait_connection_ms

接続の確立を試行する間に、データベースが待機する時間をミリ秒で指定します。このプロパティをアクティブにするためには、コメント記号 (#) を削除する必要があります。

デフォルト : 60000

#db.min_idle_eviction_ms

アイドル接続を終了するまで、データベースが待機する時間をミリ秒で指定します。このプロパティをアクティブにするためには、コメント記号 (#) を削除する必要があります。

デフォルト : 15000

#db.eviction_run_interval_ms

接続開放の実行と実行の間、データベースが待機する時間をミリ秒で指定します。このプロパティをアクティブにするためには、コメント記号 (#) を削除する必要があります。

デフォルト : 15000

編集によってファイルを更新します。

一般的なデータベース接続の問題を解決

多くの CA Configuration Automation サーバ のインストールに関する問題は、目的の CA Configuration Automation データベース サーバと接続できないことが原因です。データベース作成やデータ ロードの問題を解決するには、以下のソリューションを試みてください。

- 以下に、正しいデータベース接続情報があることを確認します。
 - データベース名または SID
 - データベース ユーザの名前およびパスワード
 - データベース タイプ
 - データベース サーバ名（完全修飾名または IP アドレスで試行）
- ポート番号がデータベース サーバに適合することを確認します。データベースはデフォルト以外のポート番号で実行されている場合があります。DBA をチェックして、アクセスしようとしているサーバに対して、適切なポート番号を持っていることを確認します。
- CA Configuration Automation サーバ に SQL クライアントをインストールし、インストール中と同じユーザ名およびパスワードを使用して、データベース サーバへの接続を試行してください。
- インストールプロセスの間、SA または System ユーザを使用している場合、インストールを完了するのに十分な権限を持っていることを確認します。CA Configuration Automation Installer にデータベース ユーザとスキーマの作成を許可する場合、ユーザ、テーブル、およびスキーマを作成する DBA レベルの権限が必要です。
- サポートされているデータベース サーバのアプリケーションを使用していることを確認します。CA Configuration Automation サーバは、サポートされている特定のバージョンのオペレーティングシステム プラットフォーム上でのみ、特定バージョンの Microsoft SQL サーバと Oracle をサポートします。サポートされているデータベース アプリケーションおよびプラットフォームのリストについては、「*CA Configuration Automation リリース ノート*」を確認してください。
- 十分なストレージ容量があることを確認します。CA Configuration Automation を適切にインストールするには、最低でも 400MB が必要です。データベース インスタンスまたはデータ領域（データベース コンテキストによる）に、十分なストレージ容量を割り当てられていない場合、テーブルのロード スクリプトは失敗します。

データのロードに関する問題: SQL Server の例外

サーバの起動、再起動、またはスリープモードからの復帰時、Microsoft SQL サーバは必ずしも正常に起動するとは限りません。

SQL Server を正常に起動せずに、Windows サーバをインストールしようとした場合、CA Configuration Automation データベースにデータをロードすると、以下の例外エラーが表示されます。

例外： [Microsoft] [JDBC 用の SQLServer Driver] ソケットを確立中にエラーが発生しました

SQL Server を再起動し、CA Configuration Automation サーバのインストールを再度試みます。

CCA エージェント インストールの確認

CA Configuration Automation エージェントのインストールに関する問題のトラブルシューティングでは、主にエラーについてのログファイルを確認し、インストールの間に作成された構成ファイルの内容を検証します。このセクションでは、確認する必要のある重要なログおよび構成ファイルについて説明します。

CCA エージェントのインストール ログ ファイル

エラーについては、エージェントのインストール ログ ファイル (Install.log) で確認することができます。インストール ログ ファイルは、ユーザの CA Configuration Automation エージェント インストールの包括的なサマリを提供します。詳細については、[「インストール ログ ファイル」\(P. 60\)](#)を参照してください。

推奨されるデフォルトの場所を使用して CA Configuration Automation サーバをインストールした場合、インストール ログ ファイルは以下のディレクトリに置かれます。

- UNIX の場合 : /opt/CA/CCAAgent/
- Windows の場合 : ¥Program Files¥CA¥CA Configuration Automation Agent¥

CCA エージェントの構成ファイル

サーバとポート番号識別、および競合問題については、エージェントの構成ファイル (`agent.conf`) で確認することができます。

推奨されるデフォルトの場所を使用して CA Configuration Automation エージェントをインストールした場合、`agent.log` は以下のディレクトリに作成されます。

- UNIX の場合 : `/opt/CA/CCAAgent`
- Windows の場合 : `C:\Program Files\CA\CA Configuration Automation Agent`

`agent.log` ファイルに記録される、エージェントエラーとメッセージ情報の量およびレベルも変更することができます。

注: セキュリティ上の理由で環境に必要でない限り、`verbose=0` の設定は推奨しません。エラーまたはメッセージのログ記録によって、エージェントに関する問題の解決がより困難になることはありません。

CA Configuration Automation サーバ の停止および起動

CA Configuration Automation サーバをインストールした後、サーバを起動します。インストールの問題を解決する間に、構成ファイルまたはデータベースの接続設定のいずれかを変更した場合、サーバの停止および再起動が必要な場合があります。

Windows で CA Configuration Automation サーバを停止する方法

[スタート] - [プログラム] - [CA] - [CA Configuration Automation] - [CA Configuration Automation サーバの停止] (または Windows サービスとして CA Configuration Automation サーバをインストールした場合、[CA Configuration Automation サービスの停止]) をクリックします。

Windows サービスとして CA Configuration Automation サーバをインストールした場合、[管理ツール] - [サービス] で停止することもできます。

Windows で CA Configuration Automation サーバを起動する方法

[スタート] - [プログラム] - [CA] - [CA Configuration Automation] - [CA Configuration Automation サーバの起動] (または Windows サービスとして CA Configuration Automation サーバをインストールした場合、[CA Configuration Automation サービスの開始]) をクリックします。

Windows サービスとして CA Configuration Automation サーバをインストールした場合、[管理ツール] - [サービス] で開始することもできます。

Solaris または Linux で CA Configuration Automation サーバを停止する方法

1. CA Configuration Automation サーバの起動および停止のコマンドを含むインストールディレクトリに移動します。デフォルトの場所を使用して、CA Configuration Automation サーバをインストールした場合、ディレクトリは以下の場所に置かれています。

```
cd /opt/CA/CCAServer
```

2. CA Configuration Automation サーバの停止コマンドを実行します。

```
./ccastop.sh
```

CA Configuration Automation サーバが停止します。

Solaris または Linux で CA Configuration Automation サーバを起動する方法

1. CA Configuration Automation サーバの起動および停止のコマンドを含むインストールディレクトリに移動します。デフォルトの場所を使用して、CA Configuration Automation サーバをインストールした場合、ディレクトリは以下の場所に置かれています。

```
cd /opt/CA/CCAServer
```

2. CA Configuration Automation サーバの起動コマンドを実行します。

```
./ccastart.sh&
```

CA Configuration Automation サーバが起動します。

システムのシャットダウンおよび起動中に、CA Configuration Automation サーバデーモンが停止し開始するように、CA Configuration Automation のインストール時に、これらのコマンドが適切な rcn.d ディレクトリに自動でコピーされます。

CA Configuration Automation エージェントの停止および開始

CA Configuration Automation エージェントのインストール後に、エージェントが開始されます。インストールのトラブルシュートの間に、エージェントの構成ファイルを変更した場合、エージェントの停止および再起動が必要な場合があります。

Windows で CA Configuration Automation エージェントを停止する方法

[スタート] - [プログラム] - [CA] - [Configuration Automation] - [CA Configuration Automation エージェントの停止] をクリックします。

Windows サービスとして CA Configuration Automation エージェントをインストールした場合、[管理ツール] - [サービス] で停止することもできます。

Windows で CA Configuration Automation エージェントを開始する方法

[スタート] - [プログラム] - [CA] - [Configuration Automation] - [CA Configuration Automation エージェントの開始] をクリックします。

Windows サービスとして CA Configuration Automation エージェントをインストールした場合、[管理ツール] - [サービス] で開始することもできます。

UNIX で CA Configuration Automation エージェントを停止する方法

1. CA Configuration Automation エージェントのコマンドを含むディレクトリに移動します。

```
cd /etc/init.d
```

2. CA Configuration Automation エージェントの停止コマンドを実行します。

```
./ccaagent stop
```

CA Configuration Automation エージェントが停止します。

UNIX で CA Configuration Automation エージェントを開始する方法

1. CA Configuration Automation エージェントのコマンドを含むディレクトリに移動します。

```
cd /etc/init.d
```

2. CA Configuration Automation エージェントの開始コマンドを実行します。

```
./ccaagent start&
```

CA Configuration Automation エージェントのデーモンがシステムシャットダウンと起動中に停止し開始するように、CA Configuration Automation インストール時に、これらのコマンドが適切な rcn.d ディレクトリに自動でコピーされます。

第 10 章: CA Configuration Automation のアンインストール

この章では、CA Configuration Automation ソフトウェアをアンインストールする方法について説明します。

注: より新しいバージョンへアップグレードする場合、CA Configuration Automation サーバ または CA Configuration Automation エージェント ソフトウェアの以前のインストールを削除する必要はありません。アップグレードの詳細については、「[CA Configuration Automation ソフトウェアのアップグレード \(P. 101\)](#)」の章を参照してください。

この章で説明するコンソール モードおよびウィザードのインストール方法に加えて、[サーバ] ページの [アクションの選択] ドロップダウン リストで [エージェントのアンインストール] オプションを選択して、CA Configuration Automation ユーザインターフェースから CA Configuration Automation エージェントをアンインストールすることもできます。 詳細については、*CA Configuration Automation* のオンラインヘルプを参照してください。

アンインストールの概要

CA Configuration Automation のアンインストールプログラムによって、大部分の CA Configuration Automation ファイル、ディレクトリ、または、フォルダ、およびレジストリエントリが削除されます。 アンインストールプログラムでは以下は削除されません。

- CA Configuration Automation データベース
- インストール中に作成されたか、またはインストール後に更新された、ファイル、および関連ディレクトリまたはフォルダ（たとえば、ログおよび構成ファイル）
- CA Configuration Automation ライセンス ファイル、
`license.bin.<license_date/time_stamp>`

これらの残されるファイルは、CA Configuration Automation のアップグレードのために保持されます。 CA Configuration Automation ソフトウェアを完全に削除するためには、これらのファイル（これらのファイルが含まれるディレクトリまたはフォルダも）を手動で削除する必要があります。

デフォルトのインストールディレクトリを使用した場合は、以下の場所を参照してください。

- cca.log ファイルは以下のディレクトリに置かれています。
 - Solaris または Linux の場合 : /opt/CA/CCAServer/logs
 - Windows の場合 : ¥Program Files¥CA¥CCA Server¥logs
- cca.properties.<license_date/time_stamp>、cca.properties.bk、log4j.properties、license.bin.<license_time_stamp> ファイルは以下のディレクトリに置かれています。
 - Solaris または Linux の場合 : /opt/CA/CCAServer/lib
 - Windows の場合 : ¥Program Files¥CA¥CCA Server¥lib
- agent.conf、agent.log、runAgent.log ファイルは以下のディレクトリ内に置かれています。
 - Solaris または Linux の場合 : /opt/CA/CCAAgent
 - Windows の場合 : ¥Program Files¥CA¥CA Configuration Automation Agent

注: 基礎となる InstallAnywhere ソフトウェアは、削除することができなかつたファイルの正確なリストを常に提示できるとは限りません。また、InstallAnywhere のグローバルディレクトリは破損する可能性があります。 破損の可能性を排除するには、InstallAnywhere のグローバルレジストリファイル (.com.zerog.registry.xml) を見つけて削除します。 このファイルは以下の場所にあります。

- UNIX の場合 : /opt/CA/CCAServer/UninstallerData
- Windows の場合 : C:¥Program Files¥CA¥CCA Server¥UninstallerData

アンインストールの後に、CA Configuration Automation ソフトウェアを完全に削除する場合、残っているファイルすべてを手動で削除します。

Windows から CA Configuration Automation サーバをアンインストール

CA Configuration Automation サーバをアンインストールするには、以下の手順を実行します。

注: Administrator ユーザまたは管理者権限を持つユーザとして、CA Configuration Automation サーバのホストにログインする必要があります。

CA Configuration Automation サーバをアンインストールする方法

1. アンインストールディレクトリに移動して、次に、Uninstall.exe をダブルクリックします。

デフォルトのインストールディレクトリを使用した場合、アンインストールプログラムは C:\Program Files\CA\CCAServer\Uninstall に置かれています。

アンインストール ウィザードが開始し、[はじめに] 画面が表示されます。

2. [次へ] をクリックします。

アンインストールのオプション画面が表示されます。

3. 以下のオプションのうち 1 つを選択し、[次へ] をクリックします。

- アンインストールの完了 -- インストールプログラムによってインストールされたコンポーネントをすべて削除します。
- 特定の機能のアンインストール -- [アプリケーション] または [ヘルプ] のいずれかのアンインストールが選択できます。チェックボックス内にチェックのない機能がアンインストールされます。

進捗状況を示す画面が表示されます。CA Configuration Automation サーバソフトウェアは削除されると、画面で選択した項目がアンインストールされたことを確認します。

4. [完了] をクリックします。

CA Configuration Automation サーバのアンインストール ウィザードが閉じられます。

Windows での CA Configuration Automation エージェントのアンインストール

Windows で CA Configuration Automation エージェントをアンインストールする方法

1. administrator または管理者権限を持つユーザとしてログインします。
2. [スタート] - [プログラム] - [CA] - [Configuration Automation] - [CA Configuration Automation エージェントのアンインストール] をクリックしてアンインストールプログラムを開始します。
アンインストール ウィザードが開始し、[はじめに] 画面が表示されます。
3. [アンインストール] をクリックします。
アンインストール ウィザードには、CA Configuration Automation エージェントソフトウェアが削除される進捗状況が表示され、終了時には通知され、削除できなかったフォルダのリストが表示されます。ディレクトリは手動で削除できます。
4. CA Configuration Automation エージェントのアンインストール ウィザードを閉じるには、[完了] をクリックします。

Solaris または Linux での CA Configuration Automation サーバ のアンインストール

アンインストール プログラムは CA Configuration Automation サーバ のインストール プログラムによって CA Configuration Automation サーバ ホスト コンピュータに置かれます。アンインストール プログラムを使用して、CA Configuration Automation サーバ のソフトウェアをアンインストールできます。

Solaris または Linux で CA Configuration Automation サーバ をアンインストールする方法

1. CA Configuration Automation サーバ がインストールされているターゲット ディレクトリについての削除許可を備え、ソフトウェアをアンインストールする権限が与えられたユーザとしてログインします。
2. CA Configuration Automation サーバ のインストール ディレクトリに移動します。

CA Configuration Automation サーバ へのデフォルトの場所を使用して CA Configuration Automation サーバ をインストールした場合、以下コマンドを入力します。

```
cd /opt/CA/CCAServer
```

3. 以下のコマンドを入力して、アンインストール プログラムを実行します。

```
./Uninstall
```

アンインストール プログラムによって、最初に CA Configuration Automation サーバ ソフトウェアをインストールした方法が検出され、同じ方法を使用してソフトウェアをアンインストールします。

- コンソール モードを使用してインストールした場合、アンインストール プログラムによって、CA Configuration Automation サーバ を削除するように要求されます。
- インストール ウィザードを使用してインストールした場合、[はじめに] 画面が表示されます。

4. インストールのモードに応じて、以下のうち 1 つを実行します。
 - コンソール モードを使用してインストールした場合、Enter キーを押します。

アンインストール プログラムによって、アンインストールの進捗状況が表示され、終了時には通知され、コマンドラインのプロンプトに戻ります。

 - インストール ウィザードを使用してインストールした場合、[はじめに] 画面の [アンインストール] をクリックします。

アンインストール ウィザードには、CA Configuration Automation サーバのソフトウェアが削除される進捗状況が表示され、終了時には通知され、削除できなかつたディレクトリのリストが表示されます。ディレクトリは手動で削除できます。
5. CA Configuration Automation サーバのアンインストール ウィザードを閉じるには、[完了] をクリックします。

Linux または UNIX での CA Configuration Automation エージェントのアンインストール

Linux または UNIX で CA Configuration Automation エージェントをアンインストールする方法

1. root としてログインします。

CA Configuration Automation エージェント ソフトウェアをアンインストールするには root ユーザである必要があります。
2. CA Configuration Automation エージェントのインストールディレクトリに移動します。

デフォルトの場所を使用して CA Configuration Automation エージェントをインストールした場合、以下のコマンドを入力します。

```
cd /opt/CA/CCAAgent
```

3. 使用するモードを選択し、以下のようにアンインストールプログラムを開始します。

- コンソール モードのアンインストールプログラムを実行するには、以下のコマンドを入力し、Enter キーを押します。

```
./Uninstall
```

アンインストール プログラムによって、アンインストールの進捗状況が表示され、終了時には通知され、コマンドラインのプロンプトに戻ります。

- アンインストール ウィザードからアンインストール プログラムを実行するには、以下のコマンドを入力し Enter キーを押して、アンインストール ウィザードを開始します。

```
./Uninstall -i gui
```

アンインストール ウィザードでは[はじめに]画面を表示します。

4. (ウィザード モードのみ) [アンインストール] をクリックします。

アンインストール ウィザードによって、アンインストールの進捗状況が表示され、終了時には通知され、削除できなかったディレクトリのリストが表示されます。これらのディレクトリは手動で削除できます。

5. CA Configuration Automation エージェントのアンインストール ウィザードを閉じるには、[完了] をクリックします。

ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイのアンインストール

NDG サーバをアンインストールするプログラムは、インストールプログラムによって NDG サーバのホスト コンピュータにロードされます。このプログラムを使用して、NDG サーバのインスタンスを削除することができます。

NDG サーバをアンインストールする方法

1. Windows Administrator または管理者権限を備えた任意のユーザとしてログインし、<NDG_Server_install_folder>\Uninstall フォルダに移動します。ユーザがデフォルトの場所にインストールした場合、アンインストール プログラムが以下のフォルダに置かれています。

C:\Program Files\CA\SharedComponents\NDG\Uninstall

2. Uninstall.exe をダブルクリックします。

アンインストール ウィザードが開始し、[はじめに] 画面が表示されます。

3. [次へ] をクリックします。

アンインストールのオプション画面が表示されます。

4. 以下のオプションのうち 1 つをクリックし、[次へ] をクリックします。

- [アンインストールの完了] -- インストールされたコンポーネントをすべて削除します。
- [特定の機能のアンインストール] -- [アプリケーション] または [ヘルプ] を削除するかどうかを選択することができます。削除する機能からチェックをクリアします。

アンインストールプログラムによって、ソフトウェアを削除する進捗状況が表示され、終了すると通知されます。

5. [完了] をクリックします。

アンインストール ウィザードが閉じられます。

付録 A: Windows オペレーティング システム用の WMI アクセス

Softagent テクノロジにより、Windows システム上で Microsoft の Windows Management Instrumentation (WMI) 接続を使用して、より大量のサーバデータのディスカバリが可能になります。WMI はハードウェアとシステムの特性を検出するほか、リモート レジストリ サービスにアクセスしてシステムにインストールされているすべてのアプリケーションの完全なディスカバリを実行するためにも使用されます。

注: Windows 7 オペレーティング システム上では、リモート レジストリ サービスはデフォルトでは開始されません。このオペレーティング システムから情報を収集する場合は、Windows Management Instrumentation サービスがインストールされ実行中であることを確認します。それに対する接続は、コマンドラインから `wbemtest.exe` を実行してテストすることができます。起動後、最上部の [接続] ボタンをクリックしてネーム スペースとして `root\cimv2` を入力し、次に [接続] をクリックします。さらに、[クラスの列挙] ボタンをクリックして [再帰] を選択してから、[OK] をクリックします。数百のクラスがリストされます。

Softagent プローブは、データ収集対象のサーバ用の認証情報を必要とします。Softagent は WMI または Web サービスを使用してホストとの接続を確立すると、以下のデータを集めることができます。

- ネットワーク接続 (NETSTAT コマンドを利用した、確立済みアプリケーション接続および開いているポートの検出)
- 仮想環境
- インストール済みのアプリケーション
- ネットワーク構成
- ハードウェア

Softagent ディスカバリが正常に行われるようになるには、適切な認証情報を提供することが重要です。たとえば、ホスティング サーバに対して有効な認証情報が提供されると、そのサーバ下で現在稼動中のすべてのゲスト サーバ用の仮想関係が作成されます。管理 サーバに対して有効な認証情報が提供されると、そのサーバ下のすべてのホスティング サーバと現在稼動中のすべてのゲスト サーバ用の仮想関係が作成されます。

認証情報ポールト内の認証情報には優先順位が含まれます。各リストの一番上の認証情報が最初に試みられます。あるサーバに対する適切な管理認証情報をリストの 3 番目のエレメントとして提供した場合に、そのサーバで管理権限のない有効なユーザの認証情報が 1 番目のエレメントに含まれていると、ネットワーク スキャンでそのサーバの詳細を正しく検出することができません。NDG はリモート サーバへ正常に接続する 1 番目の認証情報セットを使用します。認証情報が失敗しても、再試行されません。

ネットワーク スキャン ポリシーの大部分は **Softagent** を使用するかどうかにかかわらず実行可能であり、実行されるスキャンのタイプに依存しません。**Softagent** は、検出されたすべてのエンティティの 2 番目のパスとして使用することを考慮してください。

Softagent がサーバとデバイスから適切に情報を集めるには、以下の前提があります。

- 認証情報ポールトに追加され、検出対象の適切なエンティティに関連付けられた認証情報によって、それらのデバイスにアクセス可能であること。
- WMI（Windows システム）のセットアップおよび実行ステータスが適切であること。
- ターゲット システムまたはデバイスへのネットワーク アクセスを **Softagent** が保持できること。

NDG が WMI を使用する方法

NDG Windows Softagent ディスカバリでは、Microsoft の Windows Management Instrumentation (WMI) サービスを利用して、以下の Windows Server 構成を検出します。

- オペレーティング システムの分類
- ネットワーク構成
- インストールされたアプリケーションおよびサービス
- 仮想環境検出
- ハードウェア
- ネットワーク接続（オープン ポートおよび確立されたネットワーク接続）

WMI サービスでは、環境内のすべての Windows ドメインに NDG を展開する必要がある場合があります。 NDG がドメイン内の Windows Server 2008 および Vista システムを検出する必要がある場合、デフォルトの CA ネットワークディスカバリ ゲートウェイ (`candgateway.exe`) サービスプロパティを変更して、[ログオン名] ローカルシステムアカウントから Windows ドメインユーザにする必要があります。これらの Windows オペレーティングシステムに含まれる WMI サービスでは、管理ドメインユーザが接続を適切に確立する必要があります。この同じ制限は、Windows ドメインの一部ではないコンピュータに NDG を展開する必要があることも意味します。それにより、Windows ドメインのメンバではない他のコンピュータを NDG が検出できるようになります。

注: ローカルシステムアカウントは、より以前の Windows システムも検出します。

IPv6 環境では、WMI 接続を正しく確立するために NDG を Windows Server 2008 または Vista システムにインストールする必要があります。 詳細については、[http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa391769\(VS.85\).aspx](http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa391769(VS.85).aspx) を参照してください。 Windows Server 2008 と Vista 以外のマシンでは、MAC アドレスおよび物理ネットワークアダプタ情報は利用できません。 ドキュメント [http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa394217\(VS.85\).aspx](http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa394217(VS.85).aspx) で、用語「IPAddress」を検索してください。

WMI は DCOM 通信を利用します。 サーバにおいて DCOM に問題があるかまたは DCOM が疑わしい場合、詳細については Microsoft TechNet Web サイト (<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc940601.aspx> など) を参照してください。

以下のテーブルでは、Windows 環境で WMI を使用して NDG にアクセスするリモートホストコンピュータの機能について説明します。これらの WMI ルールテーブルは、テーブルにリスト表示された組み合わせをテストすることにより作成されています。 NDG は Microsoft の WMI のサポートによって制限されており、Windows のバージョンによって変わる場合があります。

注: テーブル内の情報は、WMI の特定バージョンで実行された内部テストに基づいています。 WMI の性質により、これらのテーブル内の情報は、多様なオペレーティングシステムへの NDG Softagent のアクセス方法を理解するための一般的なガイドラインであると考えてください。

ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイのアンインストール

NDG マシン			リモートホスト マシン			
プラットフォーム	ドメイン	エージェントサービス ログオン	プラットフォーム	ドメイン	エージェントサービス ログオン	WMI 成功
Windows 2003 R2 Std	Yes	ローカル管理者ユーザ	Windows 2003 Std SP2	Yes	ドメイン認証情報	Yes
Windows 2003 R2 Std	Yes	ローカル管理者ユーザ	Windows 2003 Std SP1	Yes	ドメイン認証情報	No
Windows 2003 Std SP1	Yes	ローカル管理者ユーザ	Windows 2003 R2 Std	Yes	ドメイン認証情報	Yes
Windows 2003 Std SP1	Yes	ローカル管理者ユーザ	Windows 2003 R2 Std	Yes	ドメイン認証情報	Yes
Windows 2003 R2 Std	Yes	ドメインユーザ(ローカル管理者グループ内)	Windows 2003 Std SP2	Yes	ローカル管理者認証情報	Yes
Windows 2003 R2 Std	Yes	ドメインユーザ(ローカル管理者グループ内)	Windows 2003 Std SP1	Yes	ローカル管理者認証情報	Yes
Windows 2003 Std SP1	Yes	ドメインユーザ(ローカル管理者グループ内)	Windows 2003 R2 Std	Yes	ローカル管理者認証情報	No
Windows 2003 Std SP1	Yes	ドメインユーザ(ローカル管理者グループ内)	Windows 2003 R2 Std	Yes	ローカル管理者認証情報	No

以下のテーブルは、Windows XP、Vista、2008 オペレーティング システムを使用した、リモート ホストへの NDG のアクセシビリティを示します。

NDG マシン		リモート ホスト マシン			
Windows XP/Vista/2008		Windows XP		Windows 2008	
ドメイン	エージェント サービス ログオン名	ドメイン	認証情報の要件	ドメイン	認証情報の要件
はい	ローカル システム	はい	ドメイン ユーザ(ローカル管理者 グループ内)	はい	ドメイン ユーザ(ローカル管理者 グループ内)
はい	ローカル システム	いいえ	認証情報は使用できません	いいえ	認証情報は使用できません
はい	ドメイン ユーザ(ローカル管理者 グループ内)	はい	ドメイン ユーザ(ローカル管理者 グループ内)	はい	ドメイン ユーザ(ローカル管理者 グループ内)
はい	ドメイン ユーザ(ローカル管理者 グループ内)	いいえ	ローカル管理者ユーザ	いいえ	ローカル管理者ユーザ
はい	ローカル管理者ユーザ	はい	ドメイン ユーザ(ローカル管理者 グループ内)	はい	ローカル管理者ユーザ
はい	ローカル管理者ユーザ	いいえ	ローカル管理者ユーザ	いいえ	ローカル管理者ユーザ
いいえ	ローカル システム	いいえ	認証情報は使用できません	いいえ	認証情報は使用できません
いいえ	ローカル管理者ユーザ	はい	ドメイン ユーザ(ローカル管理者 グループ内)	はい	ローカル管理者ユーザ
いいえ	ローカル管理者ユーザ	いいえ	ローカル管理者ユーザ	いいえ	ローカル管理者ユーザ